



細木病院



院長挨拶	15
細木病院 廣井副院長紹介	16
ほそぎハートセンター	18
職員全体のWEB朝礼 「ほそぎ10分ミーティング」の取り組み	20
概 要	22
部署責任者一覧	26
職員数一覧	27
医師一覧	28
年次報告	29
診療部	29
こころ診療部	42
看護部	44
薬剤部	62
医療技術部	64
事務部	74
健康管理センター	85
ほそぎ入退院サポートセンター	87
在宅部	90
委員会	103
診療実績・業務実績統計	111
院内発表	128
業績一覧	130
実習・研修生	139



細木病院 屋上看板



ほそぎハートセンター



細木病院 本館



細木病院 北館 こころのセンター



細木病院 南館



細木病院 新館

今だからこそ、『この病院で良かった』と心から思ってもらえるように

細木 信吾



2023（令和5）年5月8日、新型コロナウイルス感染症は、WHOのコロナ禍終息宣言を受け、本邦感染症法上の2類相当から5類に引き下げられました。当院は、病院理念の元、新型コロナウイルス患者を積極的に受け入れてきましたが、新型コロナウイルス入院医療費の公的負担が終了となりました。ウィルスが無くなったわけではない状況の中で、クラスターを予防しながら恐る恐る通常運営を再開することになります。高齢化と人口減少からの慢性的な医療従事者不足、国際情勢の不安定化からの光熱費を含めた物価上昇の中で、細木病院の実力が試される1年となりました。

細木病院は、DPC、地域包括ケア、回復期リハビリテーション、慢性期医療、緩和ケア、精神科急性期、精神科慢性期の7種類の病床機能を持つケアミックス病院で、慢性期疾患に軸足を置いて地域医療に貢献してきました。2019（令和元）年以降、循環器内科を初め、急性期疾患を担当する医師が増えた結果、急性期入院患者が増加し、病院機能が徐々に急性期の方向にシフトしてきました。高知県では急性期病床は減少させるという医療政策ですが、当院の実績を高く評価していただき、急性期DPC病床を60床から90床に増床させることができました。診療単価の高い急性期機能が充実することは、経営的には好ましいことですが、職員さんにとっては変化と業務増加が負担になります。

このような大きな変化の中だからこそ、『患者さんからも地域からも職員さんからも、この病院で良かったと心から思ってもらえる病院を目指します』という病院理念の浸透が何よりも大切と強く感じています。毎朝開催される『ほそぎ10分ミーティング』では、週始めの私からのメッセージで病院理念を必ず伝えています。理念浸透も含め、客観的な、患者さん、職員の皆さんの声を聞くよう、定期的なwebアンケートも開始しました。

組織にとって大切なアンケート結果は包括的に解析され、2023（令和5）年度は、患者さんやそのご家族からの接遇や待ち時間に関する要望、職員さんからの給与や人事考課に関する要望に対して対応を開始しました。接遇の難しいところは、1人の患者さんに接触する多数の職員の中で、1人でも不満を持たれば、病院評価はマイナスとなるところです。細木病院では、サービス向上委員会が主体となり、全職員を対象に、接遇に関するe-ラーニングと定期的な院内巡視を行い、継続的に接遇向上を目指します。待ち時間に関しては、これまでの運用を当たり前のものとせず、各部署での待ち時間を短くしたり、もしくは、長く感じにくくなるような新たな運用へと変更していきます。給与・人事考課制度は、病院の根幹に関わる大きな問題です。経営コンサルタントにも入ってもらい、全職種が制度改革協議に参加でき納得感のある、開かれた給与・人事考課制度を目指して取り組みます。

細木病院を利用してくださる全ての患者さんにご家族、地域の先生方、職員の皆さんからの声に常に耳を傾け、『この病院で良かった』と心から思ってもらえるような変化と進化を促します。年報は細木病院の変化と進化の足跡、歴史そのものです。病院を取り巻く逆風の中での、2023（令和5）年度の職員の皆さんの取り組みや実績を、ご覧ください。



細木病院の全景

細木病院

三愛病院
あつん高院知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

■じんせい 令和5年6月号■

細木病院

地域を支える女性リーダー！ 細木病院の在宅部門から新たな副院長



5月16日付、細木病院の副院長に、廣井三紀在宅部長が就任しました。病院組織ではサテライトに位置づけられる在宅部（主に在宅医療・在宅介護に関するサービスを担う部門）から、病院経営の要職に抜てきされるのは、全国的にも稀なこと。1984年の入職以来、看護師として外来・病棟勤務を経て、超ポジティブ思考で在宅部門を率いてきた新副院長にインタビューしました。

— おめでとうございます。まずは、副院長就任について

不安がなかった訳ではありませんが、前例にとらわれることなく、新しいことをどんどん取り入れていく細木信吾院長の姿勢に引きつけられていたこともあり、できる限りのことをやってみようと思ってきました。

— これまでの副院長は、男性の医師ばかりでしたが？

男性だから、女性だから、看護師だからということにはこだわっていません。ただ、世の風潮が女性の活躍を推進している中、県民・市民の細木病院に対するイメージが変わってくれるのではないかと期待しています。女性が活躍できる職場であることを、アピールしていきたいですね。

— 新副院長には院内だけでなく、院外での活躍が期待されているとうかがいました

まずは地域貢献につきますといえます。在宅部では、困りごとを何でも相談してもらえる窓口として『ほそぎの在宅ニャンでも相談センター』を開設しています。日々、住民の方々からの相談をお受けしていますが、もっと気軽に訪れてほしいと思っています。高齢者の孤独死やごみ屋敷の問題も、もっと早くに相談をいただければ、未然にふせぐことができたのではと思うことがあります。コンビニでいつも同じ商品を大量に購入する方や、銀行窓口で繰り返し預金通帳が無くなったと



訴える方など、認知症が疑われる場合でも、その情報が“点”で終わってしまうことがあります。高知市の「ほおっちょけん相談窓口」を、細木病院にも開設し、点と点をつなげて「助けて」、「助けてあげて」の声を拾いあげていきたいです。

そして防災です。必ずくる東南海・南海大地震に向けて対策し、地域から誰一人として犠牲にならないよう働きかけていかなければなりません。

— 「終活」を広めたいそうですね

在宅医療・介護に携わっていると、その人らしい最期とは何かを考えさせられる場面に行き当たります。家族の思い、介護者の思い、一番大切な本人の思いは遂げられたのでしょうか。高齢になってからではなく、普段から家族と話し合い、人生会議（ACP）※に取り組んでほしいと思っています。書面にしておくことも大事ですが、高知県の「高知あんしんネット」※を利用し、ACPの結果を登録しておけば、不慮の事故に備えることもできます。課題は、終活に関心が薄い若い世代です。そこでロックコンサートやお笑いライブなど、誰もが楽しみながら終活について考えられる“終活フェス”を開催したいのです。



※人生会議（ACP）とは、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

※高知あんしんネットとは、本人の意向に沿って生活の質を向上させることを目指し、医療・介護情報を共有するためのネットワークシステムのことです。

— 細木病院の仲間に向けてメッセージ

だれもが、それぞれ輝かしい力を持っています。仕事はひとりでは成し遂げられません。お互いの長所を活かし合い、互いの弱点をカバーしあえば素晴らしい仕事をすることができると信じています。医療や介護は必要とされるだけでなく、大変やりがいのある仕事です。私たちの職場で働けることを誇りに思い、その魅力を発信していきましょう。

【インタビューを終えて】

在宅部長としての一貫して地域活動に取り組む姿勢が変わりはなく、むしろ副院長に就任したことでますますパワーアップしたようです。われわれ職員も、パワフルな副院長に追いつけ、追い越せでがんばっていききたいのです。

（インタビューー 都司博直、写真撮影 長谷部翔希）

②



仁生会のホームページ
<https://www.jinsekai.kochi.jp>

県内初介護部門出の副院長

細木病院・広井さん 全国でもまれ

細木病院(高知市大膳町)は、を経て2001年から在宅部
このほど、在宅部長・看護師
の広井三紀氏(59)を副院長に
起用した。在宅介護を担う部
門からの抜擢は県内初で、全
国でも非常にまれだとい
う。業務を統括している。副院長
広井副院長は高知市出身で、
1984年に同病院に入職。同病
院の細木信吾院長は「非常
看護師として外来、病棟勤務
「非常」にクニタイプで地域の

県内の介護現場を20年以上見てきた
広井三紀副院長は、地域の課題や今後
の抱負を聞いた。(聞き手・石丸静香)

「介護人材の不足が深刻化している。
「高齢化の一方、労働人口が減ってい
る。介護は人気がなく、ハローワークに募
集を出しても簡単に人は来ない。職員の高
齢化が進み、細木病院の在宅部にいる介護
職員15人のうち65歳以上が5人、最高齢は
84歳だ。高齢になっても元気に働ける職場
環境を整えつつ、2年前からYouTube
eを始めて介護の魅力を発信している」

「地域課題をどう見ているか。
「10年ほど前から、人々との関係が希
薄な無縁社会の広がりを感じている。地域
包括支援センターも運営しているが、毎日
のように困難ケースの相談がある。家の中
が物であふれてトイレにも入れないのでベ
ットポットに排泄し、山積みになっていた
人。家の中で無数の動物を飼っていた人。
孤独死する人もいる」



「介護現場を20年以上見てきた
広井三紀副院長は、地域の課題や今後
の抱負を聞いた。(聞き手・石丸静香)

孤立防ぐ取り組み必要

「こういった高齢者は家族や親族がいて
も関わりが薄く、地域からも孤立している
一人暮らしが多い。最近、家族による経済
的・身体的虐待が増えているのも気がかり
だ。まずは地域から孤立しないようにする
取り組みが必要だ。いろんな人が自由に集
い、気軽に相談できる場所を増やしてい
きたい」

「防災力を入れている。
「介護事業所だからこそできる防災があ
る。というのも訪問看護師やホームヘルパ
ー、ケアマネジャーら在宅を支える職種
は、その人の家の中の状況を見ることがで
きるからだ。ベッドの近くにたんすがあ
ればその危険性を伝え、津波が来たところ
であればハザードマップを渡して避難場所
を教えている。地域の担い手が不足する
中、介護事業所の職員も地域を守る一員と
して活動している」

「自殺者数が増えており、小さいころか
ら命について考える場が必要だ。世代を超
えて参加できる終活フェスを開きたい。や
りたいこと、やるべきことはたくさんあ
る。お金にならない部分も含め、いろん
な形で地域貢献していきたい」

「女性の副院長といっことは意識して
いない。すべてに全力で取り組むと願
う。広井三紀副院長
(高知市大膳町の細木病院)

高知新聞 令和5年7月21日(金) 掲載

■じんせい 令和5年8月号■

細木病院

廣井新副院長 高知新聞取材報告



取材の様子

廣井在宅部長
が細木病院副院
長就任(令和5
年5月16日付)
に当たり、7月
5日、高知新聞
の取材を受けま
した。

取材内容につ
いては、まず、
在宅部門長が病

院の副院長に就任する事例は全国でもまれで、県内では初。その抜擢の意図を、細木院長が「これまで以上に地域医療・介護ニーズに迅速に対応していくために、行動力があり地域のことを一番に考えている廣井在宅部長を副院長に任命した」と回答しました。

次に、廣井副院長が「超高齢化社会、介護人材不足など、課題も多いが、これまでの経験(看護師、防災士、介護現場での経験など)を生かしポジティブ思考で取り組んでいく」と抱負を語りました。また「防災イベント、終活イベントなども開催し、地域の方との交流を深めてい

き、情報もYouTube動画などで楽しく発信していきたい」と目標を熱く語り、取材現場は盛り上がっていました。

記事につい
ては、7月21
日(金)の高
知新聞、医療
コーナー(す
こやか)でイ
ンタービュー
記事として掲
載されました。

新聞掲載後
の反響も多く、上町民生委員児童委員協議会の会長、上町民生委員児童委員の方からお祝いの花束をいただいたり、支援センターの職員が、行く先々で市民の方から「細木病院はすごいね」と言われたそうです。

今後も、細木病院在宅サービスはアクティブに展開してまいりますので、乞うご期待ください。

(広報課 安田貴彦)



高知新聞掲載記事

ほそぎハートセンター



ほそぎハートセンター



ほそぎハートセンター長／内科医局長／循環器内科部長
山本 哲史

心臓治療専門施設 『ほそぎハートセンター』4年目

『心臓と血管のトータルケア』をコンセプトとした心臓専門施設『ほそぎハートセンター』は4年目に入りました。



院長
細木 信吾



心臓リハビリテーション科部長
西本 美香



循環器内科長
宮地 剛



循環器内科長
古川 敦子



循環器内科長
西本 隆史

2023(令和5)年5月に1階心臓リハビリ部門の拡張工事を終え、遂に我々の城が完成型に到達いたしました。当然、箱物が拡大しただけで地域の皆さまにご満足いただける高度でありながら、安全、安心な治療が提供できる訳ではありません。豊かな経験と知識に基づいた高い技術力を有するスタッフが、心からのおもてなしの気持ちを持って携っております。施設の拡大により、患者さまの受け入れ人数も増加します。これに対応すべく、スタッフを増員するとともに、個々の医療人としての質の向上にも努めております。それでは拡大したハートセンター内の各部署をご紹介します。

2階 第2 血管造影室(カテーテル検査室、以下カテ室)

こちらはひと足先に昨年6月から稼働しておりました。これまでは全ての検査を第1カテ室で行っていましたが、第2カテ室は不整脈と下肢動脈の治療をメインに行う部屋となりました。下肢動脈治療を行うために広い視野が確保できる血管造影機を導入し、また不整脈治療で使用する3D画像構築機器(CARTOシステム)は据え置き設置になりました。増室に伴う患者さんの増加に対応すべく、経験豊かな臨床工学士を、増員いたしました。

1階は、本年5月より拡張されて、稼働を開始しました。

施設説明

2 F 第2 血管造影室(カテーテル検査室)	
概要・特色	<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテル室を2室と1Cルーム、カンファレンスルーム等を備えています。 専任の医師(日本心血管インターベンション治療学会専門医2名・認定医2名)が一度の造影で2方向から撮影できる心臓血管造影装置を用いて、心臓や足等の血管と不整脈の検査、治療を行います。 患者さんが検査、治療中にリラックスできるように、白と木目を基調とした部屋に好きな音楽が聴ける音響システムを導入しています。
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> フィリップス社製2方向血管撮影装置Azurion 7 B12/12(2方向からの同時撮影が可能な低線量、低被爆を可能にした最新機器) DVXライブ配信システム(検査室以外の場所で血管造影画像のリアルタイム閲覧が可能となり情報の共有ができるシステム)
1 F 心エコー室/心臓リハビリテーション室	
概要・特色	<ul style="list-style-type: none"> 心エコー・CPX室と心臓リハビリテーション室などを備えています。 専任の心エコー専門医(超音波専門医)による3D心エコー検査で心臓の状態を正確に診断します。 心臓リハビリでは、専任の医師(心臓リハビリテーション指導士)、看護師、理学療法士等のチームにより、個々の患者さんに最適な運動療法、学習活動、生活指導、カウンセリングを行い、快適な家庭生活、社会復帰、心臓病の再発予防をサポートします。
主な設備	心筋運動負荷試験(CPX)、自転車エルゴメーター、セントラルモニター心電図、レッドコード(スリングエクササイズセラピーツール)、診察室など



ほそぎハートセンターでPCI LIVEを開催
～カテーテル治療術者の育成に寄与～

1階 心エコー室

検査室が広くなり、患者さま移送用のストレッチャーが直接検査室に入ることが可能になりました。これにより患者さまをより安全に検査台に移すことができ、検査間の時間の短縮にもつながりました。また、検査台も電動リクライニング機能も備えた専用ベッドを導入し、検査の効率アップ、患者さまの負担軽減に寄与しています。胃カメラのような特殊な機器を用いて行う経食道心エコー検査を行うには、これまでの検査室では手狭でしたが、スペースが広がることにより、円滑な検査が可能となりました。また、この機器の洗浄は、これまで内視鏡室で行ってきましたが、エコー室内での洗浄が可能となり、動線の短縮が得られました。何よりも患者さまから「広くなってゆったり検査を受けれるようになったね」とお褒めの声をいただいで喜んでおります。

1階 心臓リハビリテーション室

拡張に伴い、いくつかの機器を増設、導入いたしました。運動前のストレッチや筋力トレーニングに用いるレッドコードと呼ばれる天井吊りの機器を5台から7台に増やし、同時に7名の患者さまのトレーニングが可能となりました。これまでの自転車型の運動機器（エルゴメーター）に加えて、背もたれ付きの座位で運動できるリカンベント式のエルゴメーター、ベルトの上で歩行やランニングが行えるトレッドミルを新たに導入しました。安定して座位を保つことが困難な患者さまでも、リカンベントを用いることで、運動が可能となり、膝への負担の軽減にもつながります。より運動耐容能の高い患者さまでは、トレッドミルでの運動も、選択肢となりました。施設内に設けたカウンセリング室では、栄養指導などが行えるようになり、体脂肪率などの体内組成を計測するInbodyも施設内に設置しましたので、これらをハートセンター内で完結できるようになりました。リハビリスペースが、広く明るくなったことで患者さまの心理面にも好影響をもたらしてくれるものと思われまます。患者さまに安心、安全かつ効果的な運動を提供するために、熟練した運動療法士も増員いたしました。

また、2024（令和6）年度からは心臓ドックも開始する予定です。これにより、より早期に心臓血管病の発見が可能となり、一次予防としての生活習慣への介入も可能になると考えられます。また、高知県内では初の心臓ドックであり、開始をマスメディアなどを介して県内に広報することで、「心臓の細木」というイメージを患者さまに印象付け、新たな患者さまの獲得にもつながると期待されます。

1 常勤医師の氏名

- 細木 信吾（院長）
- 山本 哲史（ほそぎハートセンター長／内科医局長／循環器内科部長）
- 西本 美香（心臓リハビリテーション科部長）
- 宮地 剛（循環器内科長）
- 古川 敦子（循環器内科長）
- 西本 隆史（循環器内科長）



院長カテ手術風景



フィリップス社製Azurion7 B20/12と細木信吾院長 第2カテーテル室でのアブレーション風景 心臓リハビリテーション（レッドコード）

カテーテル検査室で行う検査・治療

	第1カテ室	第2カテ室
冠動脈造影検査	◎	○
冠動脈治療	◎	○
抹消動脈造影	○	◎
抹消動脈治療	◎	◎
不整脈検査／アブレーション	△	◎
恒久的ペースメーカー植え込み	◎	○
一時的ペースメーカー植え込み	◎	◎
下大静脈フィルター	◎	◎
心嚢穿刺・ドレナージ	◎	◎
保持人工心肺(ECMO)挿入	◎	◎
持続的血液濾過透析装置導入	◎	◎

「◎」最も適している 「○」 適している 「△」 場合によって行うことがある



操作室の窓からカテーテル室2を臨む

（文責：ほそぎハートセンター長／内科医局長／循環器内科部長 山本 哲史）

職員全体のWEB朝礼「ほそぎ10分ミーティング」の取り組み

『ほそぎ10分ミーティング』で、
あなたHAPPY! わたしHAPPY!
みんなHAPPY!

2023年度 ほそぎ10分ミーティング・関係部署紹介

2022（令和4）年5月に始めました『ほそぎ10分ミーティング』について、引き続き2023（令和5）年度のご報告をいたします。

ほそぎ10分ミーティングは、院内への迅速な情報伝達手段として、救急患者の受け入れ増進、病院理念や病院方針の浸透、職員一体感の醸成などを目的として、病院全体のリモート朝礼として開始しました。

そして、2023（令和5）年度は、トピックス（図1 p21）にあるように、さまざまな情報が、タイムリーに情報共有され、円滑な病院運営、職員の一体感へとつながっております。

今回は、同ミーティングに関わる皆さんのご紹介をしていきます。

司会

まず、司会は事務部副部長門田をはじめ、人事総務課の課長、係長、の3人体制で行っており、担当者の意気込みは“何としても10分以内に終わらせる”、“明るく、元気に、はきはきと”をモットーにがんばっております。

人事総務課

資料準備、放送設営などを担当しております。毎朝気持ちよくスタートできるよう、課内で協力して準備を行っています。

外来

「前日の救急車の受け入れ状況」報告の準備のため、救急情報、入院状況の整理を、毎朝開始時間までに行っております。特に、連休明けの報告数は多く、現場の大変さ、緊張感が伝わってきます。

入退院サポートセンター

「空床情報」と「医師別の受け持ち入院患者数」の報告準備のため、同センターが持っている入院情

報と電子カルテ情報のチェックをし、8時15分までに情報の整理を行っております。その後、8時30分までに、病棟師長とのベットコントロールミーティングを行い、情報共有・収集・整理をし、タイムリーな情報をお届けしております。

情報システム管理課

入退院サポートセンターが扱う「空床情報」と「医師別の受け持ち入院患者数」の整理を8時までに行っており、また、万が一のネットワークトラブルに備えた体制を整えています。WEBツールやそれに伴う相談に答えてくれる頼りになる部署です。

「今日の一言」担当者

毎週月曜日の細木院長からのメッセージや理念の浸透をスタートに、火曜日から金曜日は、副院長、所属長、所属責任者の皆さまに担当していただいております。

各担当者さんのお人柄やためになる情報、取り組み、紹介などさまざまですが、職員のコミュニケーションのきっかけなど組織の雰囲気づくりにつながっております。

「ハッピー唱和」

10分ミーティングの締めくくりは、職員の合言葉、「あなたHAPPY♥ わたしHAPPY♥ みんなHAPPY♥」を“ハッピールーレット”で当たった部署が唱和します。時間に余裕がある時は、部署紹介などを行っており、部署間の雰囲気や顔をみることで、職員一体感の向上につながっております。



ハッピー唱和



司会



人事総務課のスタッフ

(図1)

月	トピックス
4月	まっごと出前講座新規講座募集・新電話システム交換機切り替えについて・新型コロナウイルス5類移行後の診察、行動方針について・日本心臓リハビリテーション学会第6回四国支部地方会特別賞受賞・緩和ケア病棟再開について
5月	美容皮膚科開設のお知らせ・5類移行に伴うコロナ病床の運営及び診療体制の方針について・新電話システム運用開始のお知らせ・北館トレーニング室新トレーニング用具寄贈のお知らせ・寄贈書籍について・接遇リーダー育成プログラムについて
6月	夏季賞与について・電子カルテダウンの原因報告・在宅部カスタマーハラスメント研修会開催について・絵画寄贈について・介援隊家屋解体について・ホームページリニューアル報告・患者アンケート報告・令和4年度食事満足度調査報告
7月	職員駐車場運用について・院内接遇リーダー21名の紹介・あうん高知TV紹介について・電話再診による診療、処方箋発行終了について・上野地区共同地震体験イベント開催のお知らせ・廣井副院長高知新聞取材、掲載について・成人有熱者対応の一部変更について
8月	通行制限コールについて・管理棟2階トイレ増設完成のお知らせ・新型コロナ感染対策の職員行動指針（流行期）について・高知市男女共同参画推進企業表彰について・清掃スタッフからのアンケート結果報告・台風対策のお知らせ・院内感染状況・福利厚生倶楽部説明会のお知らせ
9月	シェイクアウト訓練のお知らせ・院内感染状況・PXアンケート結果報告・医師のペアリングのお知らせ・日本病院会高知県支部講演会開催のお知らせ・新型コロナ対応病床移設のお知らせ・院内感染状況・新館2階コロナ病床換気扇工事のお知らせ・語尾は「さん」で統一・高知医療センターからの救急搬送患者受け入れについて・北館屋上ガーデンリニューアルオープンのお知らせ
10月	消防訓練実施について・コミュニケーション講座開催案内・参議院補欠選挙不在者投票のお知らせ・南館エントランス天井塗装作業のお知らせ・消防立ち入り調査のお知らせ・第6回細木病院学術集会開催のお知らせ・同居家族が新型コロナウイルス陽性になった場合の隔離について・本館池に2匹の鯉が仲間入り・「管理職の役割とは」講演会のお知らせ・インフルエンザ流行の兆し・Lawson追手筋1丁目店オープンのお知らせ
11月	細木病院の取り組みについて・ゆとりすとパーク利用のご案内・高知知事選挙不在者投票のお知らせ・院内時計の時刻管理について・令和5年度医療情報システム安全管理研修会Web視聴について・第62会高知県精神保健福祉大会開催のお知らせ・令和5年度自己申告書提出のお願い・細木病院グループ10大ニュースのお知らせ・ユビーAI問診開始のお知らせ・栄養セミナー開催のお知らせ・新型コロナワクチン職員接種のお知らせ・個人情報保護法研修会のお知らせ・診療介護報酬改定講演会について・全職員対象「医療接遇動画研修」のご案内
12月	北館屋上パワースポットガーデン遊歩道ができました・入院患者さんのご家族からの感謝について・高知市保健所立ち入り調査について・北館耐震化工事に伴うお知らせ・ほそぎ10分ミーティング400回目・令和5年度職員表彰受賞者発表・職場復帰前検査手順の変更について
1月	北館耐震化工事に伴う騒音のお知らせ・旧ユニット病院用メールアドレス使用の皆様へ・第6回細木病院グループ作品展覧会のお知らせ・電子カルテパスワード変更のお願い・病棟クラスター報告・ブルーコール発令時の役割表について・転倒転落対策に関する協力依頼・認知症研修会について・コロナ特殊勤務手当について
2月	北館耐震化工事近況報告・三愛病院栄養関係功労者高知県知事表彰受賞について・食事満足度アンケート実施のお知らせ・職員満足度調査の実施について・従業員代表選出について・新2病棟への一部入院制限について・診療報酬Webセミナーのお知らせ・近隣道路舗装工事のお知らせ
3月	訪問リハ利用者ご家族からの報告・給与明細デジタル化のお知らせ・保険診療研修会のお知らせ・高知県から受けた取材について・診療報酬、介護報酬改定について・通行制限コール廃止のお知らせ・消防訓練のお知らせ・職員駐車場利用のお願い・人事考課タイムスケジュールのお知らせ・皮膚科診察室移転のお知らせ・コミュニケーション講座終了のお知らせ・入社式開催のお知らせ

そんな『ほそぎ10分ミーティング』ですが、2024（令和6）年度も変化をもたらしながら、みなさんのハッピーに貢献できたらと思いますので、よろしくお願いいたします。



外来



入退院サポートセンター



開始前準備風景



情報システム管理課

（文責：事務部副部長 門田 紘和）

概要

1. 細木病院の理念

患者さんから、地域からも、職員からも“この病院でよかった。”と心から思ってもらえる病院を目指します。

2. 細木病院の基本方針

- ・私達は、医療人としての良心に基づいて、責任と思いやりのある医療を行うよう努めます。
- ・私達は、常に研鑽にはげみ、質の良い医療を提供するよう努めます。
- ・私達は、患者さんの立場に立って、人としての尊厳・権利を尊重した医療を行うよう努めます。
- ・私達は、医療についての十分な説明を行い、医療を提供するものと受けるものとの信頼関係を深めるよう努めます。
- ・私達は、細心の注意を払い、安全な医療を行うよう努めます。
- ・私達は、療養環境を整備し、心地良い医療・介護が受けられるよう努めます。
- ・私達は、地域のニーズに応じた医療・介護を提供するよう努めます。
- ・私達は、へき地医療支援病院として、へき地医療支援に努めます。
- ・私達は、就業環境の改善を図り、明るく働き甲斐のある職場づくりに努めます。
- ・私達は、経営・運営基盤を確立して効率的な医療を行い、病院の健全な発展に努めます。

患者さんの権利 5か条

基本方針に則り、以下の項目を中心に患者さんの権利擁護に努めます。

- 1) 患者さんの人格が尊重され、思いやりのある丁寧な医療が受けられる権利
- 2) 病気や診療について、分かりやすく説明を受ける権利
- 3) セカンドオピニオンを求めることができ、その上で、自身の意志に基づいて診療方法を選択し、同意、または拒否できる権利
- 4) プライバシーが保護され、個人情報が護られる権利
- 5) 診療記録の開示を受ける権利

3. 令和5年度の目標と取り組み（事業計画）

1. 患者満足度の向上を目指した診療体制の整備・強化

- ①本館1階患者受付・待合・ER・有熱外来のリフォーム
ポストコロナに向けた機能とホスピタリティの向上、ER2床体制の構築

- ②患者体験価値アンケートの継続実施と評価・対応
- ③患者への分かりやすい情報発信と広報強化
ホームページリニューアルとそれに伴う診療機能の整理
- ④急性期・慢性期・在宅をつなぐシステム構築
「高知あんしんネット」利用促進による在宅からの入院、在宅への退院促進
- ⑤外来の混雑回避、待ち時間への不満に向けた取り組み
内科外来枠の整理、本館1階のリフォーム、待ち時間への工夫
- ⑥職員の接遇向上の取り組み
接遇リーダー育成と継続的な職員教育
- ⑦介護マンパワー不足への対応
在宅部への外国人材採用と人材教育

2. 職員の働きやすく働き甲斐のある職場づくりと働き方改革の推進

- ①職員研修やスキルアップ支援の拡充
- ②医師の働き方改革に向けた準備
精神科単科当直の廃止と時間外労働時間管理
- ③職員満足度調査の定期実施と対応の継続
- ④職員給与規程および人事考課制度の見直し

3. 経営基盤の安定と強化

- ①入院収益の増収対策の実行
以下の4つの入院経路：ER、外来、転院、在宅からの増患を目指す
・救急車受け入れ数と入院率向上
⇒日勤帯の全救急車受け入れ促進
⇒救急車受け入れ体制の整備：ERリフォーム。
20時までの受け入れ体制整備
(フレックス出勤導入等による事務、検査部門の常駐)
⇒救急車来院患者に対する入院提案の徹底
・短期入院（レスパイト入院／メディカルショートステイ／念のため入院）の推進
・収益性の高い医療行為（救急車受け入れ、外科・整形外科手術、心臓カテーテル治療等）の促進とサポート体制の整備、入退院の促進
- ②南館3階の診療機能の再整備
コロナ棟廃止を見据えた診療機能の再整備
- ③消化器内科医、整形外科医、外科医の確保
あらゆるコネクションからの確保に向けた積極的なコミュニケーション
- ④デジタル化の促進：民間企業との共創等を利用した仕事の効率化の推進
- ⑤費目別コスト管理の強化

4. 感染対策の対応力強化

- ①コロナ 5 類下での院内感染防止対策の検討と実行
- ②院内感染対策室の体制強化
- ③職員の感染対策教育および研修の拡充
- ④新館病棟の個室増の検討

4. 施設とその概要

1)		敷地面積(m ²)	建築延面積(m ²)
本	館	1,554.45	3,288.20
新	館	2,442.35	6,087.16
ほそぎ	ハートセンター	220.13	528.13
南	館	1,745.07	2,755.05
管	理 棟	384.22	453.44
事	務 棟	152.72	400.00
実	習 棟	155.37	285.78
北	館 (こころのセンター)	3,687.00	7,160.00
合 計		10,341.31	20,869.89

2) 施設の概要 (各階の目的、機能別)

	南館	新館	本館	ほそぎハートセンター
6 F			内視鏡センター 美容皮膚科 情報システム管理課	
5 F		リハビリテーションセンター 理学療法室 作業療法室 言語療法室	健康管理センター	
4 F		手術室 中央材料滅菌室 病理検査室 新館検査室 新館薬剤室	脳神経外科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 外来化学療養室 皮膚科・形成外科	
3 F	南3病棟：急性期一般病棟／ 30床 ボビー病棟：緩和ケア病棟／ 12床	新3病棟：急性期一般病棟／ 60床	X線TV室 エコー室 脳波室 栄養指導室	
2 F	南2病棟：医療療養病棟／49 床 リハビリテーションセンター 医療相談室	新2病棟：地域包括ケア病棟 (新型コロナ陽性者受け入れ 病棟)／60床	内科 小児科 総合診療科 採血室 点滴室 臨床検査室 心電図室 エコー室 専門外来 小児リハビリテーション室	心臓カテーテル室 カンファレンスルーム
1 F	南1病棟：医療療養病棟／52 床 厨房	新1病棟：回復期リハビリ テーション病棟／52床	外科 整形外科 痛みの外来 (ペインクリニック) 救急処置室 MRI／CT室 薬剤室 医事課 会計 総合案内 外来受付 入院受付 有熱外来	心臓リハビリテーション室 心エコー・CPX室、診察室
B F		ほそぎ入退院サポートセン ター 入退院サポート室 患者サポート室 栄養管理室 厨房 高行記念講堂 会議室 売店「ローソン」仁生会細木 病院店		

(北館) こころのセンター		
	S館	N館
6 F	ホール	
5 F	北5H病棟／(北5病棟48床)	屋上庭園
4 F	北5L病棟	北4病棟／53床
3 F	放射線室 薬剤室 臨床心理室 医療相談室 更衣室	北3病棟／40床
2 F	診療情報課 臨床工学室 院内感染対策室 医療安全管理室 情報システム管理課 機能訓練室 食堂 訪問リハビリテーション室 訪問看護ステーション	センター長室 医局 企画課 応接室 図書室 会議室 脳波室 研修室 精神科デイ・ケア ショート・ケア「フレンズ」
1 F	歯科 看護部長室 栄養管理室 事務部長室 臨床支援課 人事総務課 仁生会人事総務部 病児・病後児保育室「キュービットハウス」	外来 医事課 心理検査室 精神科作業療法室 重度認知症患者デイ・ケア「アルテン」

5. 標榜科目

診療科目

循環器内科、総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、放射線科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器外科、神経小児科、肛門外科、小児整形外科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、化学療法・緩和ケア科、耳鼻咽喉科、心臓リハビリテーション科、リハビリテーション科、麻酔科、乳腺外科、血管外科、皮膚科、形成外科、歯科、美容皮膚科

専門外来

せき外来、甲状腺外来、漢方外来、もの忘れ外来、小児専門外来（低身長、甲状腺）、小児アレルギー外来、小児こころの外来、補聴器外来、セカンドオピニオン外来、おしりの外来、脊椎外来、痛み外来（ペインクリニック）、禁煙外来、看護ケア外来

健康管理センター

全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診、人間ドック、事業主健診、特定健診、乳がん子宮がん検診

こころのセンター（北館）

精神科、心療内科、内科

6. 施設基準

入院基本料等

- 新1病棟：回復期リハビリテーション病棟入院料1
休日リハビリテーション提供体制加算
体制強化加算2
- 新2病棟：地域包括ケア病棟入院料2
看護職員配置加算
看護補助者配置加算
看護補助体制充実加算
- 新3病棟：急性期一般入院料1
小児入院医療管理料4
25対1急性期看護補助体制加算
（看護補助者5割以上）
看護補助体制充実加算
- 南1病棟：療養病棟入院基本料1
療養病棟療養環境加算2
夜間看護加算
看護補助体制充実加算
- 南2病棟：療養病棟入院基本料1
療養病棟療養環境加算1
夜間看護加算
看護補助体制充実加算
- 南3病棟：急性期一般入院料1
25対1急性期看護補助体制加算
（看護補助者5割以上）
看護補助体制充実加算

- ホピー病棟：緩和ケア病棟入院料2
北3病棟：精神科急性期治療病棟入院料1
精神科急性期医師配置加算2の口
精神科応急入院施設管理加算
- 北4病棟：精神病棟入院基本料15対1
療養環境加算
看護配置加算
看護補助加算1
看護補助体制充実加算
- 北5病棟：精神病棟入院基本料15対1
看護配置加算
看護補助加算1
看護補助体制充実加算

基本診療料の施設基準に係る届出

- 情報通信機器を用いた診療に係る基準
入退院支援加算1（一般病棟・療養病棟）
データ提出加算2
診療録管理体制加算1
看護職員処遇改善評価料
25対1医師事務作業補助体制加算1
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算1
医療情報・システム基盤整備体制充実加算
感染対策向上加算1
指導強化加算
後発医薬品使用体制加算1
患者サポート体制充実加算
救急医療管理加算
特殊疾患入院施設管理加算
重症者等療養環境特別加算
臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
認知症ケア加算1
精神科身体合併症管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
初診料（歯科）の注1に掲げる基準
精神科地域移行実施加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算

特掲診療料の施設基準に係る届出

- 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔
モニタリング加算
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
二次性骨折予防継続管理料1・2・3
院内トリアージ実施料
外来腫瘍化学療法診療料1
ニコチン依存症管理料

開放型病院共同指導料
 夜間休日救急搬送医学管理料
 がん治療連携指導料
 こころの連携指導料（2）
 薬剤管理指導料
 地域連携診療計画加算
 医療機器安全管理料1
 精神科退院時共同指導料2
 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
 B R C A 1 / 2 遺伝子検査（血液）
 先天性代謝異常症検査
 検体検査管理加算（I）（II）
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 ヘッドアップティルト試験
 神経学的検査
 補聴器適合検査
 画像診断管理加算2
 C T 撮影及びMR I 撮影
 冠動脈C T 撮影加算
 大腸C T 撮影加算
 心臓MR I 撮影加算
 乳房MR I 撮影加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料1イ・ロ
 心大血管疾患リハビリテーション料（I）
 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
 運動器リハビリテーション料（I）
 呼吸器リハビリテーション料（I）
 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
 廃用症候群リハビリテーション料（I）
 集団コミュニケーション療法料
 療養生活継続支援加算
 精神科作業療法
 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
 精神科デイ・ケア「大規模なもの」
 重度認知症患者デイ・ケア料
 医療保護入院等診療料
 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
 C A D / C A M 冠
 椎間板内酵素注入療法
 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
 経皮的中心隔心筋焼灼術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
 大動脈バルーンパンピング法（I A B P 法）
 輸血管理料（II）
 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料（I）
 クラウン・ブリッジ維持管理料
 胃瘻造設術（医科点数表手術の通則16に掲げる手術）
 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術

【医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術】

関節鏡下関節授動術・人工関節置換術・腹腔鏡下胆嚢摘出術
 肝切除術・水頭症手術・母指化手術・内反足手術・胃瘻造設術
 胆管悪性腫瘍手術・観血的関節授動術・髄液シャント抜去術
 腓体尾部腫瘍切除術・食道裂孔ヘルニア手術・肝門部胆管悪性腫瘍手術
 脳動脈瘤頸部クリッピング・バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）

7. 許可病床数

456床

新館	
新1病棟	52床（回復期リハビリテーション病棟）
新2病棟	60床（地域包括ケア病棟）
新3病棟	60床（急性期一般病棟）
南館	
南1病棟	52床（医療療養病棟）
南2病棟	49床（医療療養病棟）
南3病棟	30床（急性期一般病棟）
ポピー病棟	12床（緩和ケア病棟）

こころのセンター（北館）	
S 館	
北5 H 病棟	24床（精神科慢性期閉鎖病棟）
北5 L 病棟	24床（精神科慢性期開放病棟）
N 館	
北4病棟	閉鎖:53床（精神科慢性期病棟）
北3病棟	40床:開放14床+閉鎖26床（精神科急性期治療病棟）

8. 臨床研修

基幹型臨床研修指定病院

9. 施設認定等

- ・ 第二次救急医療施設（救急告示病院）
- ・ 高知県精神科救急医療施設
- ・ 応急入院指定病院
- ・ 高知県へき地医療支援病院
- ・ 日本医療機能評価機構認定病院
- ・ 日本整形外科学会整形外科専門医研修施設
- ・ 日本内科学会教育関連病院
- ・ 日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ・ 日本循環器学会認定研修施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本消化器病学会関連施設
- ・ 日本内分泌学会認定教育施設
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・ 日本乳癌学会関連施設
- ・ 日本精神神経学会研修施設
- ・ 日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設
- ・ 日本医療薬学会認定研修施設
- ・ 厚生労働省 基幹型臨床研修病院
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会ロータブ
レーター施設認定研修修了施設
- ・ マンモグラフィ検診精度管理中央委員会マンモグ
ラフィ（乳房エックス線写真）検診施設画像認定施設
- ・ 日本静脈経腸栄養学会NST（栄養サポートチ
ーム）稼働施設
- ・ 日本栄養療法推進協議会NST（栄養サポートチ
ーム）稼働施設
- ・ 国土交通省 短期入院協力病院（自動車事故による
重度後遺障害者）
- ・ 次世代育成支援基準適合一般事業主認定
- ・ 高知県ワークライフバランス推進企業（次世代育
成支援部門）認証
- ・ 令和5年度高知市男女共同参画推進企業

部署責任者一覧 令和6年3月31日現在

院長	細木 信吾
名誉副院長	北岡 和雄
名誉副院長	小林 誠
名誉副院長・在宅診療部長	上田 祐二
副院長	西岡 達矢
副院長	上地 一平
診療部	
医局長・外科部長	尾崎 信三
総合診療科副部長	熊谷 千鶴
副院長（兼務） 糖尿病・内分泌内科部長 ほそぎ入退院サポートセンター長	西岡 達矢
ハートセンター長・循環器内科 部長・内科医局長	山本 哲史
心臓リハビリテーション科部長	西本 美香
緩和ケア科部長	安藤 徹
リハビリ・整形外科部長	山川 晴吾
小児科部長	細川 卓利
脳神経外科部長	栗坂 昌宏
耳鼻咽喉科部長	楯 敬蔵
病理診断科部長	山崎 義一
放射線科部長	耕崎 志乃
麻酔科部長	畠中 豊人
総合診療科科長（兼務）・ 麻酔科・ペインクリニック部長	細川 滋俊
皮膚科・形成外科	野田 理香
こころ診療部（北館）こころのセンター	
副院長・こころのセンター長	吉岡 隆興
名誉副院長・こころのセンター内科部長	松田 幸彦
副こころのセンター長・精神科部長	徳岡 雅嘉

看護部	
看護部長	岡崎 千佐子
看護部副部長	渡辺 真智子
教育師長	堀田 美幸
新1病棟師長	高塚 深雪
新2病棟師長	田邊 敬子
新3病棟師長	伊賀原 由香
南1病棟師長	中平 真紀
南2病棟師長	千葉 恵子
南3病棟師長	片岡 健
ポピー病棟師長	二ノ宮 抄恵子
外来師長	曾我 貴美子
手術室兼中央材料滅菌室師長	宮川 美和
精神科外来師長（兼務）	川田 留美
北3病棟師長	藤原 奈津子
北4病棟師長	窪内 淳子
北5病棟師長	橋田 千恵子
精神科デイケア フレンズ師長	永野 吉昭
重度認知症患者デイケア デイ・アルテン師長（兼務）	川田 留美
薬剤部	
薬剤部顧問（兼務）	田中 照夫
薬剤部副部長（部長代行）	小松 めぐみ
医療技術部	
医療技術部長（兼務）	田中 照夫
放射線室長	小松 剛
臨床検査室長	亀井 佳代
栄養管理室長	橋本 由佳
リハビリテーション課長	藤本 弘昭

医療技術部	
精神科作業療法室主任	吉村 康世
臨床心理室係長	池田 貴美
臨床工学室室長	金本 雄泰
歯科衛生室主任	内平 真実
事務部	
事務部長	中嶋 光宏
事務部副部長	中路 達也
事務部副部長・企画課長(兼務)	門田 紘和
人事総務部副部長・人事総務課長	尾原 団
医事課長	萩野 益照
用度課長	村田 真
施設課長	真鍋 誠
情報システム管理課主任	前田 卓郎
診療情報課長(兼務)・ 医事マネージャー	古谷 英理
臨床支援課長	門田 美紀
在宅部	
副院長・在宅部長	廣井 三紀
在宅副部長	廣田 明美
在宅部課長(兼務) ケアサポートセンターほそぎ	池上 美幸
訪問看護ステーションほそぎ主任	谷脇 貴美子
通所リハビリテーションゆうゆう主任	佐伯 智恵子
ケアサポートセンターほそぎ主任	木村 まり
ホームヘルプステーション城西主任	高島 恵美子
高知市上街・高知街・小高坂地 域包括支援センター主任	中居 江美
サービス付高齢者向け住宅 イチゴいちえ主任	大泉 太一

在宅部	
デイサービスいちご学校主任	浅井 文
デイサービス赤とんぼ主任	溝渕 万希子
デイサービスさくらんぼ主任	山口 三喜
グループホーム担当係長 グループホームハッピー万々(兼務)	堀本 佐知
グループホーム赤とんぼ主任	明神 絵美
グループホームさくらんぼ主任	千頭 彰乃 高村 知佐
グループホーム西町主任	藤野 めぐみ
訪問リハビリ事業所係長(兼務)	橋田 寿恵
グループホーム管理者	坂本 万理
健康管理センター	
健康管理センター部長	森下 延真
ほそぎ入退院サポートセンター	
ほそぎ入退院サポートセンター長	西岡 達矢
ほそぎ入退院サポートセンター 副センター長	柏井 早生吏
入退院サポート室長	永野 亜希子
患者サポート室長	佐々木 美知子
医療安全管理室	
医療安全管理室長(兼務)	山本 哲史
医療安全管理者	門田 季香
院内感染対策室	
院内感染対策室長(兼務)	古賀 仁
院内感染対策管理者	土居 世知
認知症対策室	
認知症対策室長(兼務)	吉岡 隆興
認知症対策室管理者	中山 充代

職員数一覧 令和6年3月31日現在

医師	52
正看護師	244
准看護師	32
看護補助者(ヘルパー)	64
介護福祉士	103
薬剤師	13
診療放射線技師	7
臨床検査技師	19
臨床工学技士	3
歯科衛生士	2
デジタルアシスタント	1
精神保健福祉士	7
理学療法士	47
作業療法士	40
言語聴覚士	18
社会福祉士	9

臨床心理士	9
介護支援専門員	17
管理栄養士	10
栄養士	2
調理師・調理員	34
保育士	2
医療秘書	11
診療情報管理士	4
事務員	84
司書	1
技能員	17
健康運動指導士	5
音楽療法士	1
マッサージ師	0
案内・交換	3
計	861

医師一覧 令和6年3月31日現在

理事長（内科）	細木 秀美	
総合診療科		
総合診療科	上田 祐二	
	白神 実	
	細川 滋俊	
	熊谷 千鶴	
	矢野 博子	
	澤田 努（非常勤）	
内科		
内科	篠原 雅幸	
	弘瀬 祥子	
	猪狩 俊介	
	古賀 仁	
	松田 勇蔵（非常勤）	
循環器内科	細木 信吾	
	山本 哲史	
	西本 美香	
	宮地 剛	
	古川 敦子	
	西本 隆史	
	小林 誠実	
呼吸器内科	白神 実	
	上田 祐二	
	廣瀬 亨（非常勤）	
	吉岡 玲子（非常勤）	
	矢野 有佳里（非常勤）	
消化器内科	常風 友梨（非常勤）	
	西岡 達矢	
	熊谷 千鶴	
	丸山 博	
糖尿病・内分泌内科	篠原 雅幸	
	寺田 典生（非常勤）	
	廣瀬 享（非常勤）	
	西山 充（非常勤）	
	田口 崇文（非常勤）	
	品原 正幸（非常勤）	
	森下 美智子（非常勤）	
内科		
内科	寺田 典生（非常勤）	
	廣瀬 享（非常勤）	
	西山 充（非常勤）	
	田口 崇文（非常勤）	
	品原 正幸（非常勤）	
	森下 美智子（非常勤）	
	小児科	
	小児科	細川 卓利
		堂野 純孝
		中岡 祐子
		新井 淳一（非常勤）
		石原 正行（非常勤）
		浦木 諒（非常勤）
		齊藤 由実（非常勤）
		竹内 愛那（非常勤）
藤枝 幹也（非常勤）		
玉城 涉（非常勤）		
島崎 真弓（非常勤）		
森下 祐介（非常勤）		
（北館）こころのセンター		
精神科・心療内科		
精神科		吉岡 隆興
	徳岡 雅嘉	
	佐々木 雄志	
	船越 祥子	
	谷脇 肇（非常勤）	
内科		
内科	松田 幸彦	

外科	
外科	上地 一平
	中村 衣世
乳腺・甲状腺	尾崎 信三
化学療法緩和ケア科	安藤 徹
外科	安藝 史典（非常勤）
脳神経外科	
脳神経外科	栗坂 昌宏
	上羽 哲也（非常勤）
	福井 直樹（非常勤）
整形外科	
整形外科	北岡 和雄
	山川 晴吾
	塩田 尚史
	池内 昌彦（非常勤）
	喜安 克仁（非常勤）
泉 仁（非常勤）	
耳鼻咽喉科	
耳鼻咽喉科	楯 敬蔵
	梶山 泰平（非常勤）
放射線科	
放射線科	耕崎 志乃
	松本 知博（非常勤）
	前田 一光（非常勤）
	野田 能宏（非常勤）
皮膚科・形成外科	
皮膚科・形成外科	野田 理香（非常勤）
	安井 喜美（非常勤）
麻酔科	
麻酔科	梶 中 豊人
ペインクリニック	細川 滋俊
麻酔科	橘 壽人（非常勤）
	井本 明伸（非常勤）
病理診断科	
病理診断科	山崎 義一
	和田 倫子（非常勤）
泌尿器科	
泌尿器科	蘆田 真吾（非常勤）
	大河内 寿夫（非常勤）
歯科	
歯科	細木 弓子
健康管理センター	
健康管理センター	森下 延真
	平川 充保（非常勤）
	大黒 太陽（非常勤）
	永井 立平（非常勤）
	都築 たまみ（非常勤）
	下元 優太（非常勤）
	下元 優太（非常勤）
美容皮膚科	
美容皮膚科	三好 みちよ
研修医	
研修医	井萱 俊希
	中屋 美咲
	木山 奈緒
	西森 祥
	奥田 光
	奥村 健馬

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

診療部



細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会



総合診療科



総合診療科副部長
熊谷 千鶴



総合診療科
矢野 博子



名誉副院長
上田 祐二



総合診療科・
呼吸器内科部長
白神 実



麻酔科ペインクリニック部長
総合診療科科長
細川 滋俊

1 活動内容・目標に対する達成状況

総合診療科は「あらゆる患者を診察しトリアージする」ことを目標に2015年（平成27年）に開設され、2018年（平成30年）には新専門医制度である総合診療専門医を養成する「高知家総合診療専門プログラム連携施設」となった。

初診時の主訴からは適切な診療科がわからないような場合、全人的医療の立場で診察を行い、必要に応じて他科に診察を依頼し、適切な治療へとつなげること

が当科の活動内容である。総合診療科は一般内科（総合内科）と重複する部分も多いが、総合診療科は内科的疾患に限定しないことが最も大きな違いである。

2024年（令和6年）1月より矢野 博子先生が専任医師としてご着任され、来年度以降のさらなる飛躍が期待される。

2 今後の課題

1. 総合診療専門医の専攻医研修受け入れ体制を構築する。
2. 在宅医療との連携を強化する。

3 常勤医師の氏名

熊谷 千鶴
矢野 博子
上田 祐二
白神 実
細川 滋俊

4 非常勤医師の氏名

澤田 努

（文責：総合診療科科長 細川 滋俊）



一般内科



理事長
細木 秀美



内科副科長
篠原 雅幸



内科長
弘瀬 祥子



内科医師
猪狩 俊介



内科医師
古賀 仁



内科医師
松田 勇蔵



循環器内科



院長
仁生会副理事長
細木 信吾



ハートセンター長/内科医局長
循環器内科部長
山本 哲史



心臓リハビリ
テーション科部長
西本 美香



循環器内科長
宮地 剛



循環器内科長
古川 敦子



循環器内科長
西本 隆史

1 活動内容・目標に対する達成目標

外来における、患者の訴えに沿った診療、および循環器疾患の早期発見、治療。

一次予防、二次予防のための患者教育を含めた治療介入。地域の患者さんからの循環器内科としての認知度の向上、信頼の獲得。他院から紹介患者を幅広く受け入れ、より円滑な病診連携体制の構築。より広い医療圏での連携の拡充。救急患者の受け入れ体制の量的、質的改善。

2022（令和4）年度からは循環器内科は6名体制となり、幅広い患者さんの受け入れが可能となり、心臓救急を含めたERでの受け入れ態勢も拡充された。本年度は5月からの新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、数多くの制約から開放された1年間であった。このためもあってか、外来患者数は21,426名（2022（令和4）年度11,665名）、新規入院患者数は994名（同800名）と飛躍的に伸ばすことができた。特に外来患者数はほぼ倍層に迫る大幅な増加となった。近隣の先生方からだけでなく、比較的遠方の先生方からの紹介も増えているのも要因と考える。多くのプロブレムを抱える高齢心疾患患者さんへの丁寧かつ親身であり、正確、安心、安全な医療の提供が認められたもの

と自負します。ドクターカーでの搬入は比較的遠方からの軽～中等症の紹介の際には利用価値の高いものとする。近隣からの紹介の際には重症であっても迅速にお迎えに上がり、重宝いただいている。夜間・休日の循環器当番医師のon-call体制も、これまで同様、他科当直医先生、当直看護師のご協力のもと、当院通院中の患者、また地域の患者の安心に貢献している。胸痛、動悸、息切れといった循環器疾患が疑われる新患患者の救急隊からの救急搬送も増加しており、このon-call体制を含めたハートセンターの取り組みが、救急隊から評価していただけている証しと考える。

ハートセンターで行っている検査、治療の件数（図表p114参照）に関しては、PCI数は全国的にも減少する傾向にある中、なんとか微減で食い止めることができた。ただ、件数も重要ではあるが治療の質はさらに重要である。当院では慢性完全閉塞（CTO）や、高度石灰化病変、左主幹部周囲病変などの複雑、難渋性症例に対しても安定した治療成績を残している。また、こういった高度な技術を要する複雑病変への治療をWebでLive中継し、全国のオペレーターの教育、育成にも貢献している。末梢動脈疾患への血管内治療、不整脈へのアブレーション治療は何とか微増させることができたが、目標件数に対しては十分とは言えない。これら侵襲的治療が大きな合併症なく行われたことは重要である。

エアソルを多量に排出するためコロナ禍では制限を強いられてきた心肺運動負荷試験（CPX）は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い制限が解除され、件数が大幅に増加した。これに呼応するが如く、心臓リハビリテーションは患者数、単位数共に大幅に増加した。2023（令和5）年5月から心臓リハビリステーションスペースが拡充されたことも要因の一つであるが、さらに大きな要因として心不全チームによる介入が挙げられる。心不全で入院した患者からスクリーニングシートを用いて対象患者をピックアップし、他職種からなる心不全チームで多角的に介入し、患者教育を行い、心不全の再発予防に努めている。その大きな

柱が心臓リハビリテーションである。心不全患者における最大の課題が日常生活活動レベル（ADL）の低下で、生活の質（QOL）や予後の悪化につながる。当院では入院の早期からリハビリテーションを開始し、ADLの低下を最小限に食い止めている。心不全チームによる退院後の外来との連携により、外来での心臓リハビリテーションの継続を行っている。ADLの維持、向上、心不全再発の予防に重要な役割を果たす外来リハビリテーションの患者数、単位数が大幅に増加していることはこれらの取り組みの大きな成果である。また数字としては示していないが、薬剤師による入院中の服薬指導、栄養士によるハートセンターでの栄養指導も件数が大幅に増えている。

心臓超音波検査（心エコー）も検査数で過去最高となっているが、古川敦子医師の指導のもとで生理検査技師たちの知識量、技術力も格段に向上し、検査のクオリティーも非常に高いレベルに到達している。心機能の評価は循環器診療の根幹となるものであり、これが高いレベルで維持できていることは当科の診療の信頼性を高め、また、近隣の紹介医からの術前等の検査としても、高くご評価いただいている。

2 今後の課題

2022（令和4）年6月から第2カテ室が稼働し、アブレーション、EVTの治療体制を強化させたが、症例数の伸びとしては十分とはいえない。ただ、御厚誼をいただいている先生方は着実に増えてきている。『こうち循環器アライアンス』もコロナ禍が終息以降も徐々に参加者、聴講者数が増加しているが、講演内容も、よりタイムリーでご参加いただいている先生方のニーズにあったものに刷新しながら回を重ねていき

い。実際の診療でも丁寧な診療と情報提供を心掛け、地域の患者さん、近隣の先生方に当院で良かったと思っただけの医療を心掛けていく。DPC病床の増床もあり、病院としてはより多くの救急患者を受け入れていかなければならない。循環器救急はその中心でありたいと考えている。平日日勤帯のERを可能な限り循環器内科医で担当することにより、病院全体として断らない救急体制をより強固なものとし、救急隊からの信頼を拡大していく。

ハートセンターでのチーム医療、他職種協働体制は成熟し、より強固なものとなりつつある。ただ人事などでの異動もあり、新たな仲間も加わっている。高いレベルでのチーム医療の維持には、新人教育を含めた充実した教育体制を構築することが重要である。また古いものに固執せず、新たなものを受け入れる柔軟性、多様性も兼ね備えなければならない。各部門間での良好なコミュニケーションを図り、風通しの良い人間関係・信頼関係を保ち、このチームで働ける喜び、「このチームで良かった」と思えるチームづくりに努める。将来的には、院内だけではなく院外他施設とも協働できるハートチームの構築も見据えていきたい。

3 常勤医師氏名

細木 信吾（院長）
西本 美香（部長）
山本 哲史（ハートセンター長、内科医局長、部長）
宮地 剛（科長）
古川 敦子（科長）
西本 隆史（科長）
（文責：ハートセンター長／内科医局長／
循環器内科部長 山本 哲史）



呼吸器内科



呼吸器内科部長・
総合診療科
白神 実



名誉副院長
小林 誠

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来診療（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・慢性咳嗽を中心）
2. 喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）吸入指導についての医薬連携

2 今後の課題

1. 高次医療機関との病病連携強化に努める。
2. コメディカル・周辺薬局と連携し、喘息・COPD

に対する吸入手技向上を図る。

3. 慢性重症喘息の生物学的製剤導入を促進する。
4. 誤嚥性肺炎の予防と発症後の早期食事摂取再開のため嚥下チームと協力していく。
5. 臨床工学士の協力を得て、呼吸不全患者に対する呼吸器等装着・利用の円滑化を促進する。
6. まとめ

新型コロナウイルスも2023年5月より2類から5類へ移行され、1年近く経過しました。postコロナの時代になり、新しい感染対策の時代に入りました。その結果、2024年5月より有熱外来の対応も大きく変わりました。第一線で担当された医師・看護師、その他のスタッフの方々には大変お世話になり、感謝の意に堪えません。

COVID-19感染後、持続する咳で受診される方もいますが、全額公費負担のときは、発症早期からの抗ウイルス薬投与が可能でしたが、全額医療保

除の自己負担となり、高額な抗ウイルス薬投与を希望されないケースが増え、今後は重症化や後遺症の患者数の増加を懸念しています。

当科には遷延性咳嗽で受診される患者さんが多く、ウイルスや細菌が原因の感染性咳嗽を除けば、咳喘息や副鼻腔気管支症候群が多く、一般肺機能検査、FENO、末梢好酸球、総IgE、アレルゲン特異的IgE検査を実施・診療しております。

新型コロナウイルスの影響で喘息やCOPDに対する吸入指導数に関しては減少していましたが、今後は再度周辺薬局の協力を得て増加させたいと思っています。

昨年は重症気管支喘息に対しファセンラ®、ヌーカラ®などの生物学製剤（9名）を使用しています。

肺がんに関してはタグリッソ®などの分子標的治療剤（9名）、キイトルーダ®などの免疫チェックポイント製剤（3名）の方に使用し、肺がん外来化学療法の患者さんも5名いました。

当院は現在気管支鏡検査は他院に検査を依頼しております。その内1名の方は高知赤十字病院に遺伝

子パネル検査をお願いして、Her2遺伝子が見つかり、四国がんセンターで治療につなげた症例があります。患者さんのためにも今後、当院でも気管支鏡検査を再導入したいと考えています。

肺炎治療は内科系全ての医師に診ていただいておりますが、ご高齢の方が多く、誤嚥性肺炎の繰り返しの方も多い状況で、耳鼻科兵頭先生も着任されたので嚥下チームとの連携が重要と考えています。

呼吸不全の患者さんに対しては臨床工学士の方々に協力していただき、人工呼吸器やHFNCを必要時に装着しております。

間質性肺疾患の診断と治療に関しては放射線科、病理医との連携で診断し、抗炎症薬か抗線維化薬の使用の精度あげていきます。

3 常勤医師の氏名

白神 実
小林 誠

（文責：呼吸器内科部長 白神 実）



消化器内科



名誉副院長
上田 祐二

1 活動内容・目標に対する達成状況

消化器内科では食道・胃・十二指腸・大腸などの消化管と肝臓・胆のう・膵臓を対象として診療を行っています。これらの臓器が原因と考えられる症状を有する患者さん、検診などでこれらの臓器に異常を指摘された方が診療の対象となります。まず適切な問診によって患者さんからの情報収集に努め、身体所見を把握します。現在服用中の内服薬そのもの、お薬手帳、他医療機関での検査結果などがありましたら来院時にぜひ持参願います。あると、とても助かります。また、医療者（医師、看護師など）に伝えたいこと（いつから、どのような症状があるか、いつ頃の医療機関にかかったかなど）を診察前にご自身で整理しておいていただくと助かります。その結果必要と思われる検査（血液検査・尿検査・エコー・CT・MRI・上部消化管内視鏡検査・下部消化管内視鏡検査など）を適宜行い

診断します。1回の診察、検査のみで結論が出ないときには、何度か通院していただく場合もあります。内視鏡検査は経験豊富な医師が行います。必要時には鎮静剤を使用し苦痛のない検査を心がけています。逆流性食道炎など内服薬のみで症状が良くならないような場合には生活習慣などを詳細にお聞きして、ご本人の努力を促すような患者参加型の治療も積極的に実施しています。

2 今後の課題

1. 内視鏡検査・治療ができる常勤医師の確保。
2. 常勤内視鏡技師の確保。

3 常勤医師の氏名

上田 祐二

4 非常勤医師の氏名

廣瀬 享（高知大学医学部附属病院消化器内科）
吉岡 玲子（高知大学医学部附属病院消化器内科）
矢野 有佳里（高知大学医学部附属病院消化器内科）
常風 友梨（高知大学医学部附属病院消化器内科）

（文責：名誉副院長 上田 祐二）



糖尿病・内分泌内科



副院長／糖尿病内分泌内科部長
ほそぎ入退院サポートセンター長
西岡 達矢



総合診療科副部長
熊谷 千鶴



内科副部長
丸山 博



内科副科長
篠原 雅幸

1 活動内容・目標に対する達成状況

糖尿病については、4名の常勤医師および週1回半日三愛病院から1名の医師の協力を得て診療を行っており、健診で新たに見つかったり、他院から紹介された患者さんに柔軟に対応している。個別指導としては、栄養指導は随時行っており、加えて糖尿病透析予防指導24件、フットケア27件、インスリン初期導入指導30件を行った。入院診療として糖尿病教育入院（2週間コース7例、1週間コース5例）や血糖コントロールのための入院などを行っている。

新型コロナウイルス感染は5類感染症に変更となったが終息には至っておらず、恒例であった年1回の糖尿病セミナー、年2回の糖尿病ウォーキングは開催できていない。また多職種で構成する療養担当スタッフ（糖尿病チーム）が参加する毎週木曜夕方のmeeting

は、やはり感染リスクを避けるため教育入院のある週のみ開催している。このようにまだまだ制限をうけている状況ではあるが、引き続き医師、糖尿病療養指導士、関係するスタッフで質の高い糖尿病診療・指導を行っていききたい。

内分泌疾患診療については、引き続き高知大学からの2名の非常勤医師に多大な協力をいただきながら、患者数の多い甲状腺疾患を中心に下垂体疾患、副腎疾患の外来診療に当たっている。

2 今後の課題

1. 糖尿病については引き続き、チームとしての療養指導力を強化し、診療充実に努めていく。糖尿病ウォーキングの開催を目指したい。
2. 学会、研究会は 現地参加が緩和されてきており、医師、コメディカルともに、可能な限り参加し新しい知見を得ることに努め、診療に生かしていく。

3 常勤医師の氏名

西岡 達矢
熊谷 千鶴
丸山 博
篠原 雅幸

4 非常勤医師の氏名

田口 崇文（高知大学内分泌代謝・腎臓内科）
西山 充（高知大学保健管理センター）
品原 正幸（三愛病院）

（文責：副院長／糖尿病・内分泌内科部長 西岡 達矢）



小児科



小児科部長
細川 卓利



小児科副部長
堂野 純孝



小児科医師
中岡 祐子



小児科医師
新井 淳一

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 小児科一般診療（外来、入院）、内分泌、糖尿病、発達、神経、腎、循環器、アレルギー疾患などの専門診療。
2. 新型コロナウイルス感染症の流行があり、小児有熱外来枠を継続した。
3. 健診事業（1歳6カ月、保育園、小学校の定期健診）、各種予防接種。
4. 臨床研修医、学生実習教育、各種学会・研究会での発表や参加。
5. 救急、時間外医療への参加（平日夜間、休日のあんしんセンター勤務）。
6. 小児1型糖尿病サマーキャンプ、ブラダーウィリー症候群親子キャンプ。

新型コロナウイルス感染症の流行に対応して小児の感染症患者は小児有熱外来（濃厚接触者など新型コロナウイルス感染の疑いが強い場合や、保護者に感染症状がある場合は1階の有熱外来）で診療し、慢性疾患など非感染性疾患は専門外来で診療した。外来患者数は、コロナ流行以前と同等程度まで徐々に増加してきた。

2 今後の課題

1. 予約診療システムが周知され、飛び込みの外来患者数が減り、一般診療での待ち時間は短縮した。また、11月からAI問診システムを導入し、活用を開始した。今後も診療体制を維持することが必要。
2. 新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたが、院内感染対策を維持するために、小児有熱外来での診療を継続した。各専門外来診療、予防接種など患者さんからのニーズに応えた体制の維持が必要。
3. 診療時のトラブルは最小限に維持すること。
4. 医師の高齢化や離職、退職への対応の必要性が予想されていたが、実際に4月から常勤医師が1名減少したため、非常勤医師による診療を増やして診療体制維持を図っている。

新型コロナウイルス感染症などによる予期できない診療体制の変化に対応できるよう、柔軟に運用する。数年後を見据えて小児科外来、小児科病棟運用については、現在可能なこと、必要なことを着実にすすめていく。

3 常勤医師の氏名

堂野 純孝（小児科）
中岡 祐子（小児科／小児こころの外来）
細川 卓利（小児科／神経小児科）

4 非常勤医師の氏名

新井 淳一（小児専門外来）
石原 正行
浦木 諒
斎藤 由実
島崎 真弓
竹内 愛那
玉城 涉
藤枝 幹也
大学病院医師

（文責：小児科部長 細川 卓利）



化学療法・緩和ケア科



化学療法緩和ケア科部長
安藤 徹

1 活動内容

平成19年1月より、治癒不能がん患者の全人的苦痛の治療のために、緩和ケア外来が外科の一部として開設されたが、平成22年4月からは化学療法・緩和ケア科の新設に伴い独立した診療科として活動している。

専任の担当医は一人ではあるが、緊急時などには外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。

令和5年度からは、化学療法を専任の科に委ね、緩和ケアに特化した科となっている。

治癒不能のがんに対して苦痛緩和だけでなく、積極的治療を行っている段階から介入し、終末期へと途切れない医療の提供を目的として治療を行っている。

令和5年度の入院・通院を合わせた化学療法・緩和ケア診療の問い合わせは158件（院外150件、院内8件）で、院外からの問い合わせのうち入院の相談が83件であった。実際に外来受診されたのは114名だった。緩和ケア目的で入院された方は、院内紹介と院外紹介を合わせて102名であった。

令和4年7月から南3病棟を緩和ケア病棟とし、緩和ケアを入院で対応できる体制が充実したことから、新型コロナウイルス蔓延に伴って診療規模を縮小していた頃に比べて、患者数は増加している。令和5年5月からは元あった場所でポピー病棟を復活しており、スタッフの熟練度も向上して入院患者に対する療養環境はさらに改善している。

2 今後の課題

高知県全体では一定のがん患者数があり緩和ケアのニーズは依然として高いと考えられるが、令和6年度から高知大学附属病院でも緩和ケア病棟が稼働を始めるため、当院での新規患者数をいままで通りに維持することは容易ではないと思われる。その中で当院の緩和ケア診療が生き残っていくためには、通院時もだが、特に入院時の患者へのサービス拡充によって他院の緩和ケア病棟との差別化ができるかどうかがかギになるだろう。ポピー病棟スタッフの技術向上は必須だが、リハビリ・栄養課・MSWなどの関連する多職種での対応をいかに充実したものにすることが重要になると思われる。

3 常勤医師

安藤 徹（緩和ケア科 部長）

（文責：緩和ケア科部長 安藤 徹）



外科



副院長
上地 一平



医局長/外科部長
尾崎 信三



外科医師
中村 衣世

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 痔核の硬化療法の手術件数が増えていない。
2. 乳がん・甲状腺腫瘍の手術件数が増加した。
3. 皮膚皮下腫瘍摘出術が増加した。

(文責：副院長 上地 一平)

2 今後の課題

1. 痔核の手術を増加させる。
2. 乳がんの化学療法症例を増加させる。
3. 腹腔鏡下鼠経ヘルニア手術を習得し、実践する。

3 常勤医師の氏名

上地 一平
尾崎 信三
中村 衣世



脳神経外科



脳神経外科部長
栗坂 昌宏

1 活動内容

平成22年5月1日より、栗坂が常勤医として着任し、外来および入院診療を開始して13年が経過した。

外来は、頭痛、めまい、耳鳴症、てんかん、正常圧水頭症、認知症、頭部外傷、三叉神経痛、顔面痙攣、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、脳卒中後遺症、高血圧症などが多く、小児から高齢者まで幅広く診療している。

入院は脳卒中患者さんを中心に、慢性硬膜下血腫やめまい患者さん、髄膜炎や中等傷の頭部外傷患者さんなどで、脳腫瘍や先天性奇形患者さんはいない。以前行っていた、多発性の未破裂脳動脈瘤や下垂体腺腫の手術、小脳橋角部腫瘍の手術や三叉神経痛、顔面痙攣の手術、V-Pシャント、V-Aシャント術も3年前で全て終了し、現在は行っていない。高知大学病院や近森病院で手術している。検査では、MRI、3D-MRA、MD-CTAのほか海馬の容積を測定するVSRADが主体となっており、いまだ脳血管撮影は行っていない。

2 今後の課題

救急病院として再スタートを切り6年が経ち、常勤麻酔医も2名着任して、外科や整形外科は緊急手術が可能となっはいるが、スタッフの関係で脳神経外科

は今年から救急患者は取らなくなった。大学の脳神経外科も10年が経過し、スタッフも増えつつある。症例数も増加し、日々躍進が期待されている。入局者も増えてきつつあり明るい展望が現実となっている。今年からは、脳腫瘍や脳動脈瘤などのmajor surgeryがほとんど大学送りとなり、全体的にも薬物療法が優先され、手術は行っていない。

当院に脳外科の当直医がいないため、緊急手術を含め入院患者も少ない。適応患者がいても他院送りとなっており、脳梗塞でさえ他院送りになっている。上羽教授が非常勤医師として脳神経外科外来の診療の一端を担ってくれている。しかし若いスタッフが加わらなければ、さらなる発展は期待できない。

3 まとめ

これからも今まで通り、先天奇形から悪性脳腫瘍の修学的治療まで幅広い診療を展開するが、緊急手術を含む脳神経外科手術は今後も行わない。入院患者の増加を目指すには、検査ができなくてお断りしている患者さんをすべて受け入れられる検査体制が必要と思われる。

4 常勤医師

栗坂 昌宏

5 非常勤医師

高知大学脳神経外科
上羽 哲也

(文責：脳神経外科部長 栗坂 昌宏)



整形外科



名誉副院長
北岡 和雄



リハビリ・整形外科部長
山川 晴吾



整形外科
塩田 尚史

1 活動内容・目標に対する達成状況

常勤医師は2022（令和4）年4月より公文医師にかわり、塩田医師が着任し3人体制を維持している。非常勤医師は池内教授をはじめとして前年度から継続して、外来診療および手術に貢献していただいている。コロナの影響も多少はあるものの、診療実績および手術件数では大きな変化は見られない。

2 今後の課題

常勤医師の高齢化による診療への影響を解消するた

め、新たに常勤医師の確保が必要と考える。またいまだ残るコロナによる診療や手術への影響を最小限でくい止める新たな策も必要となるだろう。

3 常勤医師の氏名

北岡 和雄
山川 晴吾
塩田 尚史

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部整形外科
池内 昌彦（教授）
喜安 克仁
泉 仁

（文責：リハビリ・整形外科部長 山川 晴吾）



耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科部長
楯 敬蔵

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 火曜日午後、水曜日午前の有熱外来を含めての外来患者数は3,921（前年比+754）名でした。有熱外来込みの患者数ですが、徐々に回復してきています。
2. 嚥下障害患者への対応
摂食嚥下支援チームを立ち上げ、月1回の嚥下機能検査（嚥下造影検査または嚥下内視鏡検査）、週1回のカンファレンスを行い摂食嚥下機能加算2の算定を継続しました。
対象患者37名（前年比-11） 算定回数108回（前年比-36）でした。
理想的な対応ができる状況にはなっていません。

3. 入院患者数は12名でした。

2 今後の課題

1. 外来患者、入院患者数の増加を目指す。
2. 来年度より2人体制となるため、協力して診療に取り組む。
3. 摂食嚥下機能加算2の算定は一旦取り下げとなりました。
嚥下診療に対する体制づくりを行います。

3 常勤医師の氏名

楯 敬蔵

4 非常勤医師の氏名

金曜午後
柳原 弘男
大津 信也（高知大学）
梶山 泰平（高知大学）

（文責：耳鼻咽喉科部長 楯 敬蔵）



放射線科



放射線科部長
耕崎 志乃

1 活動内容・目標に対する達成状況

- 放射線科総受診者数 633名(611名:22名増、目標675名:達成率93.78%)
- CT…全 3,665件
 - ・単純 3,231件(2,512件:719件増)、造影203件(201件:2件増)、心臓201件(231件:30件減)
 - ・心臓CT件数の増加で、循環器内科による心臓解析が増加した。
 - ・他施設からの紹介率 7.5%(8.5%:1.0%減)
- MRI…全 2,445件(2,153件:292件増)
 - ・単純 2,320件(2,067件:253件増)、造影119件(86件:33件増)、心臓6件(6件増)
 - ・MRI機種更新により心臓MRIの撮像が可能になったことによる心臓MRIの件数が増加した。
 - ・他施設からの紹介率 15.1%(16.6%:1.5%減)
- 胸部単純写真 76件(63件:13件増)
- 放射線指導医維持・更新。(有効期限2023年9月1日から2028年8月31日)
- 画像診断管理認証施設認定継続(有効期限2024年3月31日)のための安全性講習会受講。

2 今後の課題

- 2022(令和4)年度に更新すべきであった核医学専門医・PET認定医の更新が保留のままとなっている。2024(令和6)年度中に更新しなければならない。
- 2024(令和6)年度に放射線診断専門医の更新、専門医機構への移行。がん治療認定医の更新。
- 画像診断管理認証施設認定継続(有効期限2024年6月1日から2026年5月31日)のための「MRI安全性講習会」(年1回)、「MRI造影剤に関する講習会」(2年に1回)の受講。
- コロナ禍で長く休会となっている院内画像カンファレンスの再開を検討。
- 2023(令和5)年度も全国区への学会集会へはweb参加に止まり、発表の機会を作らなかった。2024(令和6)年度は全国区での学会発表に挑戦する。

3 常勤医師の氏名

耕崎 志乃

4 非常勤医師の氏名

松本 知博 高知大学放射線診断・IVR学講座
(2023年4月1日から2024年3月31日 火曜日午前)

前田 一光 高知大学放射線診断・IVR学講座
(2023年4月1日から2024年3月31日 火曜日午後)

吉松 梨香 高知大学放射線診断・IVR学講座
(2023年4月1日から2023年6月30日 木曜日午後)

野田 能宏 高知大学放射線診断・IVR学講座
(2023年7月1日から2024年3月31日 木曜日午後)

(文責:放射線科部長 耕崎 志乃)



皮膚科・形成外科



皮膚科・形成外科医師
野田 理香

1 活動内容・目標に対する達成状況

診察内容に特に変更はないが、2023(令和5)年12月より病棟診察を中止させていただきご迷惑をおかけしていること、お詫び申し上げます。そして三愛病院の安井喜美先生が毎火曜日診察におこし下さっている

ることに感謝申し上げます、これに関わってくださった方々にお礼申し上げます。

2020(令和2)年初めから猛威をふるったコロナ感染症、2021(令和3)年3月から医療従事者にはmRNAワクチンの先行接種が行われ、特例承認のワクチンにもかかわらず日本のみ世界で7回接種が行われました。ワクチンの副作用により500名以上の死亡者認定、健康被害に関しては3万件以上もの報告があるにもかかわらず中止にはなっていません。

非接種者にも“シェディング”というおかしな現象がおこるらしく、私も時々猛烈な倦怠感と首や腰の痛みが出現し、デトックスできるというサプリメントや

漢方薬を摂取してしのいでおりました。しかし病棟での接種回数が増え、被害相談の患者さんも時々受診されることもあり、もともと軽度の慢性腎炎があるため、これ以上の暴露はむづかしく中止させていただいた次第です。

今まで外来で診察をしていた方が入院された際には継続して診察しておりますし、またどうしても急ぐ患者さんに対しては対応いたしますのでご相談くださいませ。

(シェディングとは、ワクチン接種者から呼吸や汗などから出る毒性物質のことでスパイクタンパクや酸化グラフェン、有機溶剤などと考えられている。英語、S H E Dとは「伝播」という意味。立命館大学の研究にも膜タンパクのシェディングについての研究があり、高知大学皮膚科佐野教授の論文ではコロナワクチン接種後1年以上経過した症例で汗管やエクリン腺にスパイクタンパクが染色される論文がでてい

②今後の課題

美容皮膚科が新設されたことで、保険診療ではできなかったことができるようになったため、細木病院全体の診療能力が上がっていると思われます。ただ残念なのは自費の点滴が難治な湿疹・皮膚炎群、ワクチン後遺症に有効なものもあり、ぜひ他科でも使えるようにしていただけたら、さらに良い外来ができると思います。

またイレッサなどの薬害訴訟で有名な福島雅典先生が率いる2023（令和5）年6月ワクチン問題研究会を発足していることより、本来の皮膚科の診療を超える被害者の相談、診察を内科または総合診療科などの医師にお願いできる体制をつくっていただきたいです。

③非常勤医師の氏名

野田 理香
三愛病院 皮膚科 安井 喜美

(文責：非常勤医 野田 理香)



美容皮膚科



美容皮膚科医師
三好 みちよ

①活動内容

- 2023（令和5）年6月に開設し、2011（平成23）年7月から2023（令和5）年2月まで三愛病院で美容診療を行っていた三好が、週4日の自由診療を主とする外来と週1回の病棟褥瘡回診を担当している。総受診者数の初年度目標値は達成できた。2024（令和6）年3月に看護部教育でスキナーテアに関する講義を行った。三愛病院で行っていた導入系施術に加え、新型のキセノン光線治療器を導入していただき、フォトセラピー（しみ、赤ら顔、ニキビ、医療脱毛、肌質改善）とタイトニング（引き締め、リフトアップ）の照射系施術が可能となった。施術は照射系施術ベット1台、導入系施術ベット2台、点滴室1席で医師を含む施術スタッフ2～5名が行っている。受付は積善会職員が担当し、予約調整や施術案内、会計入力などを行っている。
- 仁生会職員の福利厚生として、1回の施術合計1万円以上で2割引とした。開設時にはグループ全職員に半額クーポン券を配布し、ご家族にもご利用いただいた。クーポン期限の12月には、職員の駆け込み予約と徐々に増えてきた一般予約が重

なり、受診者数は開設以来最高となった。1月はコロナ感染によるキャンセルや受診控えがあった。月曜午後の褥瘡回診中と水曜休診日はスタッフ外来とし、医師不在でも可能な施術を行っている。2024（令和6）年1月からは、要望のあった土曜に医師外来とスタッフ外来を各1回午前中に行っている。

3. 新設科のため広報活動にも力を入れている。初年度はテレビCM、新聞折り込み広告、ポスター・パンフレットの院内配置、HPでのメニュー紹介や症例写真の掲載、じんせい美容コーナーで毎月のおすすめメニューと病院ローソンの化粧品紹介を行い、受付やパウダールームでの掲示にも活用している。カウンセリングではスライドと症例写真を使ってリスクを含めた説明を行い、初めての方でも安心して施術していただけるように努めた。毎月の定例会（参加者：事務部長、医事課長、広報課主任、看護師長・主任、当科スタッフ）では、受診者数の評価と期間限定メニューやクーポン券の企画提案、広報戦略など運営に関する検討を行っている。

②今後の課題

1. 開設を広く知っていただけるよう広報の継続とHPの充実を図りたい。
2. スタッフが担当できる施術は医師から移行し、外来枠の増加につなげたい。
3. スタッフ数が変動的なため充実を図り、安定した施術供給を行いたい。

- 担当医師が1名のため褥瘡回診中は外来診療が行えない。外来数に影響が出ないような対策をとり、回診と外来ともに効率的かつ効果的な運営を行いたい。
- 月曜の褥瘡回診中と水曜休診日のスタッフ外来数の増加も今後の課題である。

3 常勤医師の氏名

三好 みちよ

(文責：美容皮膚科医師 三好 みちよ)



麻酔科



麻酔科部長
島中 豊人



麻酔科ペインクリニック部長
総合診療科科長
細川 滋俊

1 【麻酔科】 活動内容・目標に対する達成状況

- 業務実績 【別添・参照 麻酔種類別手術件数／表1、グラフ1】

全身麻酔（吸入麻酔）	134件
全身麻酔（完全静脈麻酔＜T I V A＞）	2件
全身麻酔（吸入）＋硬背伝麻	96件
全身麻酔（＜T I V A＞）＋硬背伝麻	4件
脊髄くも膜下麻酔	22件
その他	0件
総計	258件

- 目標と達成率（2023（令和5）年度症例数258件／各年度症例数 比％）

【別添・参照 診療科別手術件数の推移／表2、グラフ2】

2014（平成26）年度の麻酔科管理症例数 300件に対して	86.00％
2015（平成27）年度の麻酔科管理症例数 275件に対して	93.81％
2016（平成28）年度の麻酔科管理症例数 344件に対して	75.00％
2017（平成29）年度の麻酔科管理症例数 386件に対して	66.83％
2018（平成30）年度の麻酔科管理症例数 332件に対して	77.71％
2019（令和元）年度の麻酔科管理症例数 280件に対して	92.14％
2020（令和2）年度の麻酔科管理症例数 266件に対して	96.99％
2021（令和3）年度の麻酔科管理症例数 274件に対して	94.16％
2022（令和4）年度の麻酔科管理症例数 223件に対して	115.69％

- 今後の課題

- 2022（令和4）年度は、過去のどの年度よりも、麻酔科管理症例数が大幅に少ないという残念な結果となったが、2023（令和5）年度には、やっとコロナ禍から脱却をし、対前年比115.69% 258件という数字を残すことができた。
- 今春4月5月の麻酔科管理手術件数はさらに増加し、年間300件ペースとなっている。本年度は外科、整形外科ともにDrの増員があることと、昨年度に開設された耳鼻咽喉科の手術も増加が見込めるため、2024（令和6）年度は飛躍的な躍進も夢ではないと、希望を抱かせる。
- 毎年、この場を借りて訴えていることではあるが、当院麻酔科は年間400症例以上の麻酔をこなす力を有している。しかしながら、今はまだ十分に力を発揮できておらず、はなはだ残念であると同時に、地域の皆様に、申し訳ない気持ちで一杯である。

2 【痛みの外来（ペインクリニック）】

活動内容・目標に対する達成状況

（細川滋俊先生担当）【別添参照／表3、グラフ3】

- 業務実績／年度

年度	2023	2022	2021	2020	2019	2018
硬膜外ブロック	91	65	118	110	114	92件
トリガーポイント注射	136	144	114	80	154	77件
星状神経節ブロック	30	10	21	10	15	19件
その他の末梢神経ブロック	94	39	36	53	19	14件
延べブロック注射数	351	258	289	253	302	202件
延べ患者数	648	559	508	440	448	337人
- 目標と達成率

【2022（令和4）年度 延べ数／各年度延べ数】％

2018（平成30）年度の延べブロック注射数 202件に対して	173.76％
2018（平成30）年度の延べ患者数 337人に対して	192.28％
2019（令和元）年度の延べブロック注射数 302件に対して	116.22％
2019（令和元）年度の延べ患者数 448人に対して	144.64％
2020（令和2）年度の延べブロック注射数 253件に対して	138.73％

2020（令和2）年度の延べ患者数
440人に対して 147.27%
2021（令和3）年度の延べブロック注射数
289件に対して 121.45%
2021（令和3）年度の延べ患者数
508人に対して 127.55%
2022（令和4）年度の延べブロック注射数
258件に対して 136.04%
2022（令和4）年度の延べ患者数
559人に対して 115.92%

3. 今後の課題

コロナ禍の患者数減少の影響をものともせず、2023（令和5）年度はブロック数、患者数ともに大きく伸ばすことができた。昨年度に引き続き、ある程度、地

域の患者さんや、他病院・他科の先生方にもペイン外来が認知されてきたと考えられる。今後さらに患者数が増加するようならば、ペインクリニックにもマンパワーの増強が必要となってくるかもしれない。

3 常勤医師の氏名

畠中 豊人（ハタケナカ シゲト）
細川 滋俊（ホソカワ シゲトシ）

4 非常勤医師の氏名

橋 壽人（タチバナ トシヒト）
井本 明伸（イモト アキノブ）

（文責：麻酔科部長 畠中 豊人）



歯 科



歯科医師
細木 弓子

1 活動内容・目標に対する達成状況

- 2023（令和5）年4月より、中澤美和さんが、歯科医院の受付経験があることより、医事課より歯科事務へ配属希望され、歯科チームの一員となる。医科電子カルテには精通しており、歯科電子予約システムも直ぐに慣れ、予約管理を任せられる頼もしいメンバーが加わる。中澤さんにより、歯科衛生士の予約負担業務は減少傾向。歯科衛生士は専門業務に集中できる環境が整った。年内は試し運転となり、回転率はさほど上がらなかったが、年明けより歯科衛生士枠の予約改善を図り、改善してきている。
- 令和5年4月17日より、感染対策委員会より、外来と入院患者を同時に導入可能と改善され、予約規制解除。予約がスムーズに改善。
- 今年は「まっこと出前講座」の講演依頼あり。「歯周病と全身疾患」と題して7月、10月に講演を行う。集客となった。
- 10月には院内学術集会にて「薬剤関連顎骨壊死(MORONJ)ステージ2の保存的療を施した症例」を発表し、院内で医科と歯科のかかわりのある口腔内疾患について周知できた。特に整形外科の先生とは骨粗鬆症の患者さんについて情報共有を行

う機会が増え、先生方の治療方針なども伺え、交流が生まれる一歩となった。11月にはNST勉強会にて「咀嚼と健康」と題して発表。

- 細木病院北館の耐震工事に伴い、診療への影響は2024（令和6）年3月から6月までと短期間の周知であったが、2024年12月末まで延長。急遽、年明けより段取り。歯科移転先を院内で検討。2024年3月6日、無事に作業療法室の機織り室へ。診療室内の導線が変わり、戸惑いもあったが、一面窓ガラスに覆われた診療室は天然光に満たされ、明るく、広い診察室で、歯科チーム一同、心機一転良いスタートを切れ、来年度へつなぐ。

2 今後の課題

- アポイントの取り方の修正…精神科との診療連携改善を図る。
- 2024（令和6）年6月の診療報酬改定で医科・歯科連携強化へと国を挙げてシフトし、これまで患者さんへ提供してきた処置内容が点数化されたことは、特筆すべき事象。今後も、入院患者さんへ、より良い医療提供のため、医科の先生方との交流を増やし、互いに歩み寄れる関係性を築きたい。
- 2024年12月末には耐震工事終了に伴い、新診療室内の構想を練り、再度診療室の移設が行われるため、工事現場監督と設計士と協力して行いたい。

3 常勤医師の氏名

細木 弓子

（文責：歯科医師 細木 弓子）



病理診断科



病理診断科部長
山崎 義一

1 活動内容・目標に対する達成状況

- 1) 各診療科より依頼された生検検体や、手術検体についてできるだけ早く正確な病理組織診断を行っている。
令和5年度を含む過去3年間に実施した病理組織検査件数の推移は別表(P114)の通りで、院内検査総件数は196件でやや減少した(対前年 -22件、10.1%減)。
- 2) 内訳は内科(主として内視鏡)が57件で昨年度よりさらに減少した(対前年 -36件、38.8%減)。その他の科では昨年と大差はなかった。新設された美容皮膚科は11件であった。
- 3) 総件数のうち約半数(53.6%)を占める外科105件のうち87件(82.9%)が乳腺症例(生検32件を含む)であった。

- 4) 乳腺手術55件のうちオープン・ベッド・システムで受け入れた乳腺手術は24件(43.6%)であった。
- 5) 乳がん手術に際しての術中迅速病理診断は40件であった(昨年35件)。
- 6) 三愛病院の症例は19件でやや増加した(昨年13件)。
- 7) 年2回のホルマリン作業環境測定では従来通り良好な管理濃度が維持できた。

2 今後の課題

臨床の場で適切、有効な治療ができるように、従来に引き続き、新しい知見を導入して、正確かつ迅速な病理組織診断を目指していきたい。

3 常勤医師

山崎 義一

4 非常勤医師

和田 倫子(高知大学医学部病理診断科)

(文責:病理診断科部長 山崎 義一)

こころのセンター(北館)



こころ診療部



精神科



副院長・
こころのセンター長
吉岡 隆興



副こころのセンター・
精神科部長
徳岡 雅嘉



精神科医師
佐々木 雄志



精神科医師
船越 祥子

1 活動内容・目標に対する達成状況

増患プロジェクトを推進することで、1日の入院患者目標数値を130名と設定し、これを実現するための施策を実行する。

1. 北3病棟の入院増患に向けた運用対策
 - ①軽度うつや発達障害などの開放病棟への入院が拡充した。
 - ②北3病棟が満杯のとき、一旦北5病棟に入院し、その後北3に転棟させるなどの方法をとった。
2. 各精神科病棟のベッドコントロールの課題整理
 - ①定期的なベッドコントロールのミーティングを行った。

②慢性期病棟での、内科的症状を主とする患者の転院などを進めた。

3. 精神科入院患者数120名以上を確保した。

2 今後の課題

1. 他の診療科との連携を深める
 - ①内科医による連携、共診を進める。
 - ②リエゾンとして精神科からも積極的に他科への共診を進める。
2. 本格的な診療内容の拡充として
発達障害患者、軽度うつ患者・適応障害などによる就業中断の患者の診療を拡充する。
3. 地域連携の拡充を図る
地域の患者・施設との連携システム・マニュアルを確立する。

3 常勤医師の氏名

吉岡 隆興センター長(精神科)
徳岡 雅嘉副センター長(精神科)
佐々木 雄志医師(精神科)
船越 祥子医師(精神科)

4 非常勤医師の氏名

谷脇 肇医師(精神科)

(文責：副院長 こころのセンター長 吉岡 隆興)



内科



名誉副院長・
こころのセンター内科部長
松田 幸彦

1 活動内容・目標に対する達成状況

細木病院とユニティ病院が再統合し、「こころのセンター」として5年目に入ります。

「こころのセンター」診療部内科としての活動内容は、変わらず、精神科医や他職種スタッフと協力して患者の病状回復・悪化防止を図ることです。主に精神疾患患者の身体疾患(内科疾患)を持って入院してく

る入院患者に対して治療を担当しています。

入院中の患者さんの内科時対応は、かなり達成できました。

2 今後の課題

昨年度と違い5類移行後のコロナ発生予防対策の継続はもちろんだが、やはり感染予防は非常に難しいということを実感しました。今後は、感染対策を徹底しつつ、より幅広い患者さんへの対応を目指します。

3 常勤医師の氏名

松田 幸彦

(文責：名誉副院長・こころのセンター部長

松田 幸彦)



細木病院研修医

医師臨床研修制度により、診療に従事しようとする医師は、2年以上の臨床研修が必修となっています。この研修期間中の医師を「研修医」といいます。

細木病院は、厚生労働省より基幹型臨床研修病院の指定を受けています。

研修医は、細木病院や他の医療機関で研修を受け、医師としての人格形成や基本的な診療能力の修得を目指します。また、指導医の責任のもと、外来や病棟で指導医とともに診療を行います。

研修医（2年目）

4名の研修医が2年間の初期臨床研修を無事修了しました！



（上の写真）修了式

2年間の初期臨床研修を終えた研修医

前列中央の4名。左から、西森祥研修医、木山奈緒研修医、中屋美咲研修医、井萱俊希研修医

研修医（1年目）

新採用研修医です！

左から、奥田光研修医、奥村健馬研修医



看護部



看護部長
岡崎 千佐子



1 概要

病棟形態：急性期一般病棟（7対1）2、地域包括ケア病棟1、回復期リハビリテーション病棟1、医療療養病棟2、緩和ケア病棟1、精神科急性期治療病棟1、精神科慢性期病棟2、重度認知症ケア患者デイ・ケア1、精神科デイケア1、外来2

病床数：456床

所属長名：岡崎 千佐子

構成職員：看護部長 1名
看護部副部長 1名
教育師長 1名
看護部顧問 1名
合計人数 4名

2 2023（令和5）年度目標

新型コロナウイルス感染症も5類に移行となり変化する医療や看護のニーズに対して柔軟に対応しつつ、看護の質向上に努めるために4つの目標を掲げた。

- 患者・家族から安心して信頼していただける看護・介護を実践する。
 - あらゆる場面において患者の尊厳を守る言葉遣いや対応ができる。
 - 専門的知識と技術を高めるために、積極的に自己研鑽を行う。
 - 看護・介護に関するマニュアル作成や改定を行い、ケアを統一する。
 - インシデント・アクシデントの原因分析を強化し、再発防止を図る。
- 職員の“働きがい”や“働きやすさ”をめざした職場環境の改善を行う。
 - 職員間のコミュニケーションを良くし、笑顔の多い職場風土をつくる。
 - 有給休暇5日以上での公平な取得を目指し、部署間での助勤協力を行う。
 - 職員のニーズに合った勤務体制を整備する。
 - 職員満足度の向上のため看護部および部署の課題について取り組む。
- 細木病院全体の経営の安定・強化に参加する。
 - ポストコロナに向けた診療体制に柔軟に対応し経営に貢献する。
 - 各病棟の入院患者目標を達成し、師長会全体で

ベッドコントロールを行う。

- ③診療報酬加算の取得や単価アップに即応し、看護部門における経営的貢献を図る。
 - ④入院収益の増収対策を実行し、増患を目指す。
 - ⑤人・もの・時間のムリ・ムダ・ムラがないか見直し、業務改善を図る。
4. 感染対策の対応力の強化を図る。
- ①新型コロナ対策を継続し、クラスター発生を防止するとともに、発生時には対策室と協力して早期収束できる。
 - ②院内認定感染管理担当者教育において、演習等看護部が担える項目に対し協力していく。
 - ③看護部からも院内認定感染管理担当者を輩出し、部署の感染対策の改善や推進を図る。

3 目的・目標に対する取り組み

目標1では、看護部内に接遇向上委員会を立ち上げ、院内のサービス向上委員会の活動と共に、あらゆる場面において、患者の尊厳を守る対応ができるように体制を整えた。接遇を意識して患者・家族・職員に関わっていく風土は醸成中である。看護手順に関しては、30項目の改定ができていたが、介護手順の改訂はできなかった。インシデント・アクシデントについては、看護・介護現場において予防と発生時の原因と再発防止策の追及に努めた。特に、転倒については、医療安全管理室からのアドバイスもあり、ワーキングを立ち上げ看護部副部長が中心となり、アクシデントにつながるインシデントの発生予防に努めた。このワーキングについて次年度は、看護部医療安全委員会が取り組みを継続していく。

目標2に対しては、職員の“働きがい”や“働きやすさ”をめざした職場環境の改善を行うために、高知県看護協会のワークライフバランス推進ワークショップに参加した。看護職員にアンケート調査を行い、改善するための体制のワーキング結成のために、主任以上で希望者を募り、看護部長、副部長、教育師長、師長5名、副師長1名、主任1名の10名でワーキンググループが決定した。ワーキングの活動としては、課題を抽出し、①人材確保②病院の情報公開③業務改善に

ついてアクションプランを策定した。活動の合間に看護協会からのアドバイスも参考に3カ月間取り組み、その成果を、高知県看護協会でも堀田美幸教育師長が発表した。職場環境の改善は、単年での改善は難しく、継続して取り組んでいく必要がある。このワーキングは、次年度からは委員会に格上げし全部署から委員を選出して継続した取り組みを実践していく。

目標3に対しては、看護部も経営に参画し、自部署での役割を果たすために行動した。平日毎朝の各病棟の入院患者目標を達成するため、新1・新2・新3・南1・南2・南3病棟の師長と入退院サポートセンターの職員とベッドコントロールのためのミーティングを継続している。増患対策に関して病院の方針を周知し、職員に理解してもらい目標達成するために師長はリーダーシップを取っていた。また、南3病棟のDPC病棟への転換もあり、ハード面・ソフト面の体制を関係者と連携し、病棟再編できた。

目標4に対して、感染対策の強化の一環として、院内感染管理担当者育成研修（初級・中級）が開催され、受講生として参加や講義や演習等に講師として、協力もできた。次年度は、研修修了者の現場での活躍を期待するとともに、能力が発揮できるような支援をしていく。残念ながらコロナのクラスターが発生し、感染対策室と協力して早期の収束に努めた。

4 次年度の課題

コロナ禍において変化する医療や看護のニーズに対して柔軟に対応しつつ、コロナで制約を受けていた自己研鑽や集合教育の機会を増やし、看護・介護の教育体制強化のために、看護部顧問に就任してもらった。看護職員・介護職員共にラダーを取得し、看護・介護実践能力の向上を目指していく。

次年度の目標として、

1. 看護職員・介護職員とも倫理的感性を高め、患

者の尊厳を守るケアを実践する。

2. 細木病院看護部の組織強化を図る。
 - ①看護部のクリニカルラダーに基づき、一貫性のある看護要員の教育を行う。
 - ②病院運営の方向性と個人のキャリアアップを踏まえ、効果的な職員配置・職員異動を行う。
 - ③看護・介護に関するマニュアル作成や改定を行い、ケアの統一を図る。
3. 職員の“働きがい”や“働きやすさ”をめざした職場環境へ改善を行う。
 - ①職員間のコミュニケーションが良い職場風土をつくる。
 - ②有給休暇5日以上での公平な取得を目指し、部署間での助勤協力を行う。
 - ③職員のニーズに合った勤務体制を整備する。④職員満足度の向上のため看護部および部署の課題について取り組む。
4. 細木病院の経営の安定・強化に参加する。
 - ①ポストコロナに向けた診療体制に柔軟に対応し経営に貢献する。
 - ②各病棟の入院患者目標を達成し、師長会全体でベッドコントロールを行う。
 - ③診療報酬加算の取得や単価アップに即応し、看護部門における経営的貢献を図る。
 - ④入院収益の増収対策を実行し、増患を目指す。
5. 自然災害への対応力の強化を図る。
 - ①新型コロナ対策を継続し、新興感染症への対応力を強化する。
 - ②南海トラフ地震への体制を整える。
 - ③看護部内の消防計画・災害対策についてマニュアル改定を行う。

以上、5つの目標を挙げ、取り組むこととした。

(文責：看護部長 岡崎 千佐子)



教 育



教育師長
山村 真智子

1 2023（令和5）年度看護部教育目標

1. 専門職業人として、看護・介護の実践能力を自ら高める看護要員を育成する。
 - 1) 看護師が臨床における看護実践能力を高めるために、看護部のクリニカルラダーを活用しレベルアップを図り看護の質を高める。
 - 2) 主体的に学び自己のキャリア開発ができ、看護・

介護実践能力を高めることができる。

2. 病院機能を理解して地域と連携し、個別性を重視した看護・介護を提供する。
 - 1) 看護倫理に基づいた人間性と社会性を備え、地域に貢献できる看護要員を育成する。
3. コロナ禍における安全・安楽な方法を判断できる看護要員を育成する。
 - 1) コロナ感染対策と感染対策を遵守し、標準予防策が実践できる。
 - 2) 看護実践力を高め患者のニーズに対応した看護・介護ができる。
4. 医療チームの一員としてよい人間関係を保ち自己の役割を果たし、社会人としての自覚・責任を持ち主体的に行動がとれる看護要員を育成する。

- 1) 新人看護師がチームの一員として、具体的な役割行動がとれるようにするため、新人看護師自らの努力と看護部全体で成長を支える環境を提供する。
- 2) 他の職種とコミュニケーションを図り、患者の人権を尊重した看護・介護を実践することができる。
5. 看護基礎教育における実習施設の役割を果たすことができる。
 - 1) 実習全般の情報を収集し臨床指導者の役割を果たすことができる。
 - 2) 看護学生・研修生に合わせ実習環境を提供する。

2 活動報告

1. 令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が第5分類に移行し、徐々に研修開催も対面形式で可能となった。院内・院外の研修も積極的に参加できていた。院内研修を行う際、感染対策を遵守し、看護技術演習（吸引、酸素療法、採血や筋肉注射、静脈・点滴注射、CVP PPP）やシミュレーション演習を行い、実践につながる研修を実施した。トピックス研修は、循環器医師に協力を仰ぎ循環器セミナーを6回実施、他、看護師の関心の高い内容や、K Y T研修を取り入れ、定期的に延べ18回実施した。本年度は看護補助者委員会を発足し、看護補助者に必要な技術演習（体幹抑制時の介助、おむつ交換）を実施できた。
2. 看護研究は、病棟の状況やコロナの感染状況を鑑みながら取り組みを再開した。

3. 中途採用者の支援体制として、経験の確認のためのチェックリストや支援のための計画を週単位で作成したものを活用している。
4. 新人看護師については、プリセプター制度は継続しており、各部署がみんなで育てる新人教育を実施している。プリセプター会を開催し、プリセプター教育の場としても活用、新人とともにプリセプターの成長を促した。

3 業務実績

1. 臨地実習7校、延べ737名、前年度比：-4.0倍減（513名減）を受け入れた。これは、本年度受け入れ調整が、令和4年度のコロナ収束が見えない状況下で行い、感染リスクを考慮し受け入れを縮小したこと、また、看護学校のカリキュラム変更に伴い実習予定の変更があったことが減少となったと分析している。
2. 看護部教育委員会による研修の運営企画：
 - 「新人研修8回」「新人看護師・2年目看護師ローテーション研修」「1年目・2年目看護師シミュレーション研修」「トピックス研修13回」「K Y T研修5回」「看護補助者研修2回」
3. 次年度の課題
 - 1) 師長・主任研修および看護補助者研修の体制強化
 - 2) 現任教育の充実
 - 3) 中途採用者の支援体制を継続
 - 4) 臨地実習指導の充実

（文責：教育師長 山村 真智子）



新1病棟

1 概要

病棟形態：回復期リハビリテーション病棟 入院料1
病床数：52床
所属長名：高塚 深雪
構成職員：看護師 15名
介護福祉士 5名
ヘルパー 3名
合計人数 23名



2 2023（令和5）年度目標

1. 安全で安心できる看護・介護を提供する
2. 働きやすい職場環境をつくる
3. 職員全体で病院経営に参画する
4. 標準予防策を遵守し、感染拡大防止を図る

3 目標に対する取り組み

1. コメディカルとの回復期カンファレンスで情報共

有することで退院調整へとつなげていった。また、家族との電話でのやり取りやMSWを通じての患者・家族の思いを知り、看護介入をしていくようにした。面会時間も増え、患者・家族のうれしそうな顔を見てスタッフも退院調整を積極的に行うようになった。正しい感染対策を行うことにより病棟ラウンジを生活の場所として使用することで、患者の離床時間の延長やリハビリから病棟

生活内へのADL訓練実施へと進めていくことができた。

しかし、ADLが上がっていく過程での転倒転落も多く、リハビリとの協働で転倒リスクを減らす必要がある。

- 有給休暇は新人を含め7日以上、平均取得率は70.6%だった。急な欠勤者が出てスタッフは気持ちよく勤務調整に協力できている。接遇に関しては注意が必要な場面があり、思いやりのある態度や言葉遣いができるよう取り組んでいきたい。
- コメディカルと毎月アウトカム判定会を行い、情報共有していくことにより施設基準（重症者割合

40%以上、重症者の日常生活機能評価4点以上改善30%、在宅復帰率70%、実績指数40）はクリアできた。

- 院内の感染管理育成研修にリンクスタッフ1名参加し、病棟内でのスタッフへの指導をしている。8月にスタッフが数名、1月に患者数名とスタッフ数名がコロナに罹患したがクラスターは起こさなかった。

4次年度の課題

- 転倒転落リスクを減らす
- 稼働率UP

新1病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	CVAとは（症状とアプローチのしかた）	片岡看護師	57%	田能介護福祉士	57%
5月	感染対策（標準予防策）	高橋看護師	60%		
6月	排泄ケア（オムツの当て方）	田能介護福祉士	69%	片岡看護師	69%
7月	救急シミュレーション（窒息時対応）	藤崎看護師、田原看護師	63%	手島介護福祉士	63%
8月				清家看護師	52%
9月	心不全	藤崎看護師	63%	空岡看護師	63%
10月	看護記録・看護必要度	橋本看護師、川越主任	57%	久村介護福祉士	57%
11月	転倒の未然防止	川村看護師	86%		
12月	退院支援	清家看護師、早川看護師	43%	藤崎看護師	43%
1月				北村看護師	50%
2月	接遇	早川看護師	50%	早川看護師	50%
3月				橋本看護師	70%

（文責：新1病棟師長 高塚 深雪）



新2病棟

1概要

病棟形態：地域包括ケア病棟

病床数：60床

所属長名：田邊 敬子

構成職員：看護師 26名

准看護師 1名

ヘルパー 11名

合計人数 38名



22023(令和5)年度目標

- 患者さん、ご家族および共に働く職員に対して態度、言葉遣いに気をつけることができる。
- 科学的根拠に基づいて安全・安楽な看護・介護を提供できる。
- 全スタッフが病院経営に参画する。
- 働きやすい職場環境の風土を構築していく。

3目標に対する取り組み

- について

スタッフ間の接遇による離職などはない。患者さんからの接遇態度への苦情はなかったが、忙しくな



ると余裕がなくなり、素っ気ない物言いになることがあるため、接遇教育は継続していくことが大事だ

と考える。また「NSコールへの対応が遅い」というご意見をいただいております。業務改善に向けた取り組みを行っている。

2. について

内服管理は手順に沿って管理できているため、アクシデントにつながるような事故は発生していない。しかし指差し呼称が十分にできていないことがあるため、課題と考える。

身体抑制は手順に沿って実施しており、抑制の必要性の有無に対するカンファレンスは、毎日記録できている。1週間ごとの多職種カンファレンスへの医師の参加が少ないことが課題と考える。

看護記録はタイムリーにできているが、看護計画の評価が十分にできていないことがあるため、次年度は記録委員と対策していく予定をしている。

3. について

コロナによる影響が大きかったこともあり年間病床稼働率の結果は80.8%と目標達成はできなかった。しかし施設要件は維持できている、問題はない。次年度は診療報酬改定があるため、改定内容に向けた対策を行うことで施設要件を引き続き維持してい

きたい。また入退院支援事業で作成した可視化シートの活用が十分にできていないため、取り組みをしていきたい。

4. について

年5回の有給休暇取得は問題なくできている。個々の勤務配慮願に沿って可能な限り勤務調整はできている。職場環境に影響が出るようなスタッフ間のコミュニケーション不足はなく、相談しやすい職場と答えるスタッフが多い。しかし感染対策をしながらのコロナ患者や小児患児の受け入れなど、ストレスフルな職場環境であり、職員の心身含めた疲弊感が強く、体調不良となる者も多い。業務内容の見直しやタスクシフトやシェア、DX化など、職場環境の見直しを行っており、次年度も継続していく。

4 次年度の課題

1. 確実な指差し呼称の徹底
2. 定期的な看護計画の評価の徹底
3. 可視化シートの活用に向けた取り組み
4. 診療報酬改定への対策
5. 業務改善

新2病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月			%	池内看護師	56%
5月	退院支援について	医療ソーシャルワーカー 稲田	58%	井澤看護師	69%
6月	周術期看護	濱崎看護師	50%	中山看護師	69%
7月	接遇	小泉看護師	40%	井上看護師	65%
8月			%		%
9月	KYT	田邊師長	52%	山本看護師	52%
10月			%	北岡看護師	57%
11月	感染	土居感染認定看護師	44%		%
12月	BLS	佐々木看護師、山本看護師	74%	永森准看護師	96%
1月	フィジカルアセスメント	池田看護師、河津看護師、井上看護師	58%		%
2月	身体抑制	北岡看護師	30%	間城看護師	46%
3月	認知症看護	中山認知症認定看護師	61%	河内看護師	61%

(文責：新2病棟師長 田邊 敬子)



新3病棟

1 概要

病棟形態：

急性期一般病棟

病床数：60床

所属長名：

伊賀原 由香

構成職員：

看護師 29名

准看護師 3名

ヘルパー 6名

医療クラーク 1名

合計人数 39名



22023(令和5)年度目標

1. 職員全員が施設要件を理解し、経営に参画し目標値を達成できる
2. 多職種と連携しながら、質の高い看護を提供することができる
3. 安全・安楽な看護を提供できる
4. 職員同士が思いやりを持って働きやすい環境をつくることできる

3目的・目標に対する取り組み

病床稼働率は78%看護必要度を28%と設定した。結果は病床稼働率76.9%、看護必要度は29.1%であった。感染対策を行いながら、入院患者の安全を確保しつつ入院受け入れを行った。しかし、上半期にやや稼働の低迷があったために、目標値の達成には至らなかった。必要度に関しては、取りこぼしがあったが、医事課の協力を得て、目標は達成できた。また、入退院に関して、スタッフに周知徹底し、午前退院、午後入院の促進を行い、ベッドコントロールを円滑に行うことができたと考える。

多職種との連携では、患者および家族の想いを汲んで退院支援を行うことが少しずつできている。しかし、入院時から退院を見据えて退院支援を行うことは難しい状況である。治療だけでなく、患者を全人的に捉え、看護提供ができるように努力していく必要がある。

循環器をはじめ、外科、整形外科のクリティカルパスの見直しや新たに乳がんのパスを作成し運用している。

職員が働きやすい環境をつくるという目標について、休暇取得に向けて患者の安全を第一に考えながら、病棟として50%の取得率を確保することができた。また、個々の生活状況等を考えながら勤務作成を行い、不公平のないように努めた。また、入院患者の振り分けも、必要度を見ながら、平等に入院確認を行うことができた。

4次年度の課題

6月の診療報酬改訂に伴って、今より施設要件がより厳しくなる現状がある。今後、要件をクリアすることができるように、スタッフ全員が知識を高め、対応していく必要があると考える。そして、忙しい中でも、働きやすい環境の確保を行い、離職防止につなげていくことができるように、副師長および主任と協力しながら、考えていきたい。また、科学的根拠に基づいて、さらに知識を深め、入院してくる疾患に対応できる能力を養うことができるようにしていく必要がある。

そして、現在、使用しているクリティカルパスのバリアンス評価・修正を行い、多職種と連携の強化を図り、在院日数の短縮を図っていきたい。

新1病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	D P Cについて	古谷医事課長	50.0%	西山看護師	50.0%
5月	I A B Pについて	金本ME	51.0%	黒原看護師	51.0%
6月	身体抑制	中山管理者(認知症対策室)	51.0%	雪村看護師	51.0%
7月	災害BCP	高橋看護師、平山看護師、黒原看護師	53.0%	中川看護師	53.0%
8月	コロナ部屋準備～PPE着脱	長山看護師	55.0%	高橋看護師	55.0%
9月	重症度、医療・看護必要度	桃田主任	68.0%	町田看護師	68.0%
10月	看護記録	岩原看護師	86.0%	森本看護師	86.0%
11月	PPEの着脱実施	武政看護師、長山看護師	55.0%	近藤看護師	55.0%
12月	周術期看護	山中看護師	75.0%	石崎看護師	75.0%
1月	心不全	村田看護師、岩原看護師	68.0%	高橋看護師	68.0%
2月	コミュニケーション:安全文化	伊賀原師長	75.0%	森野看護師	75.0%
3月					

(文責：新3病棟師長 伊賀原 由香)

**南1病棟****1**概要

病棟形態：医療療養病棟1

病床数：52床

所属長名：中平 真紀

構成職員：看護師 16名

准看護師 2名

介護福祉士 7名

合計人数 25名

22023(令和5)年度目標

1. 看護・介護の専門性を高め、患者・家族に寄り添った看護・介護サービスを提供する
2. 働きたい職場・やりがいがある職場の環境を整える
3. スタッフ全員が経営に参画する
4. 感染対策を遵守し、安全で信頼できる看護を提供する

3 目的・目標に対する取り組み

1. 患者の日常生活援助は看護職および介護職協働で実施し、より良い看護・介護につなげ安全・安楽な療養生活が送れるように支援しながら、患者や家族、主治医、他職種も含めたカンファレンスを適宜開催し、要望をお聞きしながら希望される場所への退院支援を行った。自部署の分散教育では、K Y Tや救急シレーションなどの演習を行いスタッフのスキルアップにつなげた。スタッフに対しては、アニバーサリーなど希望休の取得や年間有給休暇5日以上を取得を行い働きやすい環境を構築できるように努めた。
2. 自部署職員の意見を取り入れ、働きやすい職場、やりがいがある職場に向けた業務改善を行い、より一層、看護職と介護職員の協働が図れた。日々の業務でゆとりをもてるように働きかけ、時間があるときはルーティン業務以外の洗髪や足浴など患者のQOLにつながるケアを行うことができた。また、こまめにコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、スタッフ間での報連相も増え、看護師の業務多忙時も介護職員から積極的に補助を行う姿もみられた。
3. 医療区分の対象患者80%以上を維持できるように、毎朝ベッドコントロールのミーティングを行い、コロナ流行時70%台が1カ月あったが、おおむね80%以上維持することができた。また自部署



では、療養病棟について分散教育を行いスタッフの意識が高まり積極的に退院支援を行うことができた。コスト漏れがないように医事課担当と連携を図り算定を行った。

4. 新型コロナウイルスの感染対策マニュアルを遵守しケアに従事していたが、9月と11月にコロナウイルスの陽性者が発生し感染対策室の指導のもと、病棟内のゾーニングや必要物品確保、人員調整や業務調整など多岐にわたる対応を行い、クラスター発生はなく2週間ほどで終息することができた。また、洗濯物や必要物品購入のやり取りなどで家族が来院した際や面会時に日常の患者の様子を伝えることで、安心していただき喜んでいただけることもあった。

4 次年度の課題

1. スタッフ全員が病院経営に貢献する
2. 感染防止対策の継続
3. 接遇の意識づけ、向上を図る
4. 安全で信頼できる看護・介護を提供する

南1病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	療養病棟について	中平師長	46%	中平師長	46%
5月	感染対策	押谷看護師	62%	中平師長	62%
6月	急変時の対応	宮本看護師、上村看護師	68%	安岡看護師	68%
7月	救急シミュレーション	小松看護師	56%		
8月	看護倫理	戸田主任	50%	押谷看護師	50%
9月					
10月	医療安全(K Y T)	大野看護師	68%		
11月	記録の書き方	小松看護師	63%	大野看護師	63%
12月	身体抑制について	安岡看護師	50%	宮本看護師	50%
1月	認知症看護	安岡看護師	63%	上村看護師	63%
2月	接遇	東看護師	68%	戸田主任	68%
3月	褥瘡について	東看護師	63%	安岡看護師	63%

(文責:南1病棟師長 中平 真紀)



南2病棟

1 概要

病棟形態：医療療養病棟 1
病床数：49床
所属長名：千葉 恵子
構成職員：看護師 14名
准看護師 2名
介護福祉士 6名
ヘルパー 1名
合計人数 23名



2 2023（令和5）年度目標

- 安全・安心できる看護・介護を提供し、質の高いサービスを行うことができる
- 働きやすく働きがいのある職場環境を整える
- 全職員が、病院経営に参画する意識を持つ
- 全員が感染に対する、知識・技術を身につけることができる

- 病棟稼働率90%、対象患者80%以上維持を目標に、医療療養病棟の特性を指導した。年間病床稼働率90%、医療区分対象患者平均87%維持ができた。
- 新型コロナウイルス感染症と感染対策についての知識・技術を分散教育で学びを深めた。1月にクラスター発生となったが、病棟一丸となって収束に向けて協力できた。

3 目的・目標に対する取り組み

- 感染管理者育成や個々のキャリアに合わせた自己研鑽を勧め、前年度より研修参加時間が3,474分増加した。看護計画に関してチームカンファレンスを重ね、よりよいケアが提供できるようにした。
- 個々のワークライフバランスの希望にできる限り沿った勤務配慮や、個人ロッカーの整備や作業台の新調、電子カルテの増台など、少しずつ環境の改善に取り組んだ。

4 次年度の課題

- 言葉遣いに気を付け、お互いが注意し合える環境を目指す
- 病棟全体で協力体制を整え、お互いが助け合いの精神をもてる風土にしていく
- 多職種と協働し退院支援を促進する
- 自然災害への意識を高める

南2病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	急変時の対応について ~介護職~	山崎介護福祉士	96%	酒井准看護師	96%
5月	急変時の対応について ~看護職~	北川准看護師	96%	門脇看護師	96%
6月	心不全について	西森主任	78%	坂上准看護師	78%
7月	認知症について	山下看護師	83%	下井看護師	83%
8月	コロナ対応について	宮田介護福祉士、西森主任	91%	筒井看護師	91%
9月	医療安全	下井看護師	83%	川村看護師	83%
10月	身体抑制について	門脇看護師	91%	森本主任	91%
11月	ポジショニング&オムツの当て方	堀内介護福祉士	91%	曳地看護師	91%
12月	インスリン	森本主任	91%	中山看護師	91%
1月	リーダーシップとは	中山看護師	70%	西森主任	70%
2月	褥瘡	筒井看護師	73%	山下看護師	73%
3月	医療接遇	曳地看護師、田村介護福祉士	64%	小笠原看護師	64%

(文責：南2病棟師長 千葉 恵子)



南3病棟

1 概要

病棟形態：急性期病棟
 病床数：30床
 所属長名：片岡 健
 構成職員：看護師 12名
 准看護師 3名
 看護補助者 6名
 合計人数 21名



2 2023（令和5）年度目標

- 自己研鑽に励み、最新の緩和医療・看護の知識と技術の向上を図る。
- ご家族を含め、個々の患者さんのリスクの予防と安楽への対応を実践する。
- 職員のみでなく患者・家族に対し接遇とマナーの向上を目指す。
- 整理整頓（5S）を習慣化し、ムリ・ムラ・ムダの削減に努める。
- 感染対策を継続し、院内の感染予防に努める。

意識し看護・ケアを行った。

4 次年度の課題

2023（令和5）年度は緩和ケア病棟として稼働し始めたが、病棟再編が行われ4月下旬よりコロナ対応病棟に転換された。途中、南3病棟スタッフは他病棟への全員応援体制を行ったため休床期間もあった。その後10月からは急性期病棟として役割を変更して運用されるなど激動の1年であった。このような状況下のため、年度初めに計画した分散教育や事例検討会も予定通りに開催できないことも多くなってしまった。

現在は急性期病棟として新3病棟と協力し急性期患者の受け入れと早期退院を目標に行っているが、今年度は

- 急性期病棟ではあるが在院日数が長期化する傾向にある患者受け入れが多いため、入院時より退院に向けた多職種との連携を強化する必要がある。
- 急性期看護の経験者が少ないため、部署全体で急性期看護技術およびアセスメント能力を向上させるよう学習会を開催し取り組んでいく必要がある。

3 目的・目標に対する取り組み

- について
 緩和ケア病棟は4月下旬までの運用であったため、コロナ感染者対応および急性期看護に対する知識技術向上に努めた。
- について
 緩和ケアではなくなったため家族看護についての取り組みは少なく、患者および職員に対する安全・安楽を意識した看護・ケアの実践に努めた。
- について
 接遇委員を中心に、表情や言葉遣いを意識し、挨拶の励行に努めた。
- について
 最新のPPE着脱手順を習得し、感染防止対策を

南3病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	他部署への助勤応援のため休会			休会	
5月	コロナ陽性患者の受け入れシミュレーション	西谷看護師	50%	休会	
6月	他部署への助勤応援のため休会			休会	
7月	コロナ陽性患者対応にて休会			休会	
8月	コロナ陽性患者対応にて休会			休会	
9月	コロナ陽性患者対応にて休会			休会	
10月	看護必要度研修	吉村主任	67%	休会	
11月	DPC病棟施設基準	古谷医事課長	80%	休会	
12月	コロナ感染者あり休会			休会	
1月	クラスター対応のため休会			休会	
2月	休会			休会	
3月	休会			休会	

* コロナ対応病棟から急性期病棟への転換や、他部署への長期助勤などがあり休会となることが多かった

(文責:南3病棟師長 片岡 健)



ポピー病棟

1 概要

病棟形態：緩和ケア病棟（緩和
ケア病棟入院料2）

病床数：12床

所属長名：二ノ宮 抄恵子

構成職員：看護師 13名

准看護師 0名

ヘルパー 1名

合計人数 14名



2 2023（令和5）年度目標

- 自己研鑽に励み、最新の緩和医療・看護の知識と技術の向上を図る。
- ご家族を含め、個々の患者さんリスクの予防と安楽への対応を実践する。
- 職員のみでなく、患者さん・ご家族に対し接遇とマナーの向上を目指す。
- 整理整頓（5S）を習慣化し、ムリ・ムラ・ムダの削減に努める。
- 感染対策を継続し、院内の感染予防に努める。

- 転倒や褥瘡リスクのある患者さんは、カンファレンスを行い情報共有して早めの対応に努めた。
- 毎月、接遇標語を職員の目に見える場所に掲示して意識付けを行った。
- 毎月リーダー会を開催し、ケアの見直しなど業務改善を行った。
- 面会者や職員の体調確認・早期対応を行い、クラスター防止に努めた。

3 目的・目標に対する取り組み

- 研修会参加への声掛けを行い、院外での研修会へ積極的に参加した。

4 次年度の課題

- 患者さん・ご家族へのケアの質の向上を目指す。
- 在宅療養を希望される患者さん・ご家族に対し、多職種と連携し在宅復帰率向上を目指す。
- 感染対策を継続し、クラスター防止に努める。

ポピー病棟 2023（令和5）年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	「報連相・I-SBARCとは」	川島看護師、橋田看護師	46%	正木看護師	38%
5月	「SHELLL分析」	山脇看護師	46%	橋田看護師	46%
6月	「糖尿病の薬物治療」	下元看護師	69%	山脇看護師	69%
7月	「スピリチュアルペイン」	中原主任	38%	野本看護師	30%
8月					
9月	「身体抑制」	正木看護師	83%	津野看護師	83%
10月	「KYT転倒・転落予防」	山脇看護師	50%	川島看護師	50%
11月	「家族看護」	茶畑看護師、岩田看護師	83%	下元看護師	83%
12月	「今、緩和ケアに求められること」	豊田がん看護専門看護師	58%	茶畑看護師	58%
1月	「SHELLL分析」	山脇看護師	54%	岩田看護師	54%
2月	「緩和ケアでのコミュニケーション」	豊田がん看護専門看護師	75%	中越看護師	75%
3月				蒲原看護師	58%

（文責：看護師長 二ノ宮 抄恵子）



外 来

1 概要

病棟形態：外来

所属長名：曾我 貴美子

構成職員：看護師 30名

准看護師 9名

ヘルパー 11名

保育士 2名

クラーク 1名

合計人数 53名

2 2023（令和5）年度目標

1. 安全・安心できる看護を提供できる
2. 職員が働きやすいと感じる職場風土をつくる
3. 細木病院の収益アップに貢献できる
4. コロナ禍でも安心・安全な看護を提供できる

3 目的・目標に対する取り組み

1. 資格を活かして質の高い看護を提供できるよう看護ケア外来では有資格者（がん化学療法看護認定看護師、骨粗鬆症マネージャー、日本糖尿病療養指導士（フットケア指導士、心不全療養指導士）が個別的な看護を提供した。また人員と環境調整を行い、ER・有熱外来、各診察室が協力し効果的な運用ができた。個々の倫理的感性を高めるために外来倫理について分散教育に組み込み、外来看護師としての接遇についても勉強会を行い、患者さんが安心して通院できるように心がけた。
2. 休憩室の整備と休憩時間について話し合い、お互いに協力し合う。また、働き方の選択肢を広げ、ライフスタイルに合った働き方ができるように情報提供を行った結果、日勤専従やパート職員の増加があったがお互いが協力することができた。有給休暇は、全員5日以上取得することができた。
3. ERや緊急カテ、ドクターカー出動に備え、人員調整や環境を整えスムーズな対応ができた。救急車応需率も医師と協力し、下期はER担当が循環器医師が主体となり、日中の応需率は救急WGで設定した70%以上を達成することができた。



4. COVID-19も5類となり、社会情勢も変化したが続いた感染防止を行い、クラスターを起こすことはなかった。環境チームを中心に外来全体の整理整頓と嘔吐時の対応品も全科がすぐに対応できるように準備できた。

4 次年度の課題

1. ERの拡張に伴い、入院率アップや収益アップに貢献できるように環境の整備と人員調整を行う。
2. ハートセンターの業務や待機に対応するため、専任看護師の増員と調整を引き続き行う。
3. 感染対策の継続とエアロゾルが発生するような部署（内視鏡、耳鼻科、小児科、有熱外来、ERなど）は、感染予防の徹底を図る。

外来 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	看護倫理	曾我師長	22%
5月	心臓リハビリテーション	荻島看護師	20%
6月	耳鼻科疾患について	田部准看護師	45%
7月	健診センターにおける看護師の役割について	込谷看護師	25%
8月	環境整備	環境チーム	40%
9月	感染対策	感染チーム	46%
10月	記録	記録チーム	23%
11月	危険な不整脈・モニター監視	ハートチーム	34%
12月	美容皮膚科について	澤村准看護師	36%
1月	医療安全	工藤看護師	25%
2月	Aラインの設置・管理	ME 金本主任・清岡主任	34%
3月	まとめ		30%

（文責：外来師長 曾我 貴美子）



手術室・中央材料滅菌室

1 概要

病棟形態：手術室・中央材料滅菌室

所属長名：宮川 美和

構成職員：看護師 6名
ヘルパー 1名
准看護師 2名
合計人数 9名

2 2023（令和5）年度目標

1. 周術期の患者に対し、安全・安心を提供するためレベルの高い専門的な知識・技術を習得する。
2. 病院経営に参画し、経済効果を考えた活動ができる。
3. 働きやすい職場環境を整える。
4. 感染防止対策を実践する。

3 目的・目標に対する取り組み

1. 今年度より術前カンファレンスを予定手術患者全員に実施した。カンファレンスをスタッフ全員で実施することにより情報共有はもちろん、看護経験の違うスタッフとの意見交換の場となりスタッフ個々の成長にもつながっていると感じる。また記録の充実を図るため、カンファレンス内容を経過記録に記載し看護計画立案にも取り組むよう努力している。インシデント発生時には、スタッフ全員でカンファレンスを行い、対応策を検討し再発防止に努めた。アクシデント発生はなかった。
2. 2023（令和5）年度の手術件数は317件、前年度比115%と増加したが手術を断ることなくスムーズな受け入れ態勢で臨むことができた。また、ムダのない物品、材料管理として使用頻度の少ない物品補充や購入は、医師とも相談し適宜調整を行った。
3. 心理的安全性を高め、誰もが自分の意見を発言しやすい環境づくりに努めた。チームミーティングやカンファレンスを通じて問題を議論し、解決策を模索しながら建設的な話し合いの場を持つ機会が増えたと感じる。業務内容や超過勤務の偏りが無いよう考慮し、休暇希望も業務に支障のない範囲で調整を行った。また、他部署への助勤も可能な範囲で行った。
4. 感染リンクスタッフが中心となり、定期的なPPE着脱のチェック、手指衛生



のタイミングなど感染防止対策の周知徹底を行ってきた。感染管理担当者育成研修初級研修をスタッフ1名が参加し修了した。

4 次年度の課題

1. 手術室における災害対策の見直し
2. 看護記録の充実を図る

手術室・中央材料滅菌室 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	看護計画について	高野看護師	86%
5月	制吐薬オンダンセトロンについて	丸石製薬	100%
6月	術前訪問シミュレーションとデブリーフィング	全員	100%
7月	BLSについて	早川准看護師	88%
8月	災害対策（搬送シミュレーション）	出席者全員	63%
9月	災害対応（BCP計画書確認）	高野看護師	88%
10月	BLSについて	早川准看護師	88%
	消防訓練振り返り	高野看護師	78%
11月	KYT勉強会（転倒転落についての事例）	沖本看護師	71%
12月	中材業務 洗浄について	宮川師長	89%
	乳がんについて（乳房構造や検査・治療など）	山本看護師	88%
1月	医療滅菌について	宮川師長	75%
2月	大量出血	沖本看護師	88%
3月	感染対策	三田看護師	88%

（文責：手術室中央材料滅菌室師長 宮川 美和）

**北3病棟（こころのセンター）****1 概要**

病棟形態：精神科急性期治療病棟
 病床数：40床
 所属長名：藤原 奈津子
 構成職員：看護師 14名
 介護福祉士 4名
 ヘルパー 2名
 合計人数 20名

**2 2023(令和5)年度 目的・目標**

1. 看護・介護の専門性を高め、質の高い患者サービスを提供する。
2. 働きやすく、働きがいのある職場環境をつくる。
3. スタッフ全員が経営的視点を持ち病院経営に参画する。
4. 感染対策を行い安心、安全で信頼できる看護・介護を提供する。

3 目標に対する取り組み

1. 患者の人権や尊厳を守り、倫理的配慮を行い1回／週カンファレンスを行い、行動制限最小化に向けて取り組むことができた。患者・家族に対しても説明や情報共有を行いながらニーズを把握し、個別性のある看護ケアを継続して提供することができた。
2. 自ら挨拶を心掛け、職員同士のコミュニケーションを円滑にし、相手を思いやれる言葉掛けや態度に気を付け職場風土を改善し離職防止に努めることができた。また、個々のワークライフバランスに配慮し、公平な勤務シフトの作成やスタッフ全員が有給休暇5日以上取得することができた。
3. 他病院・医師、外来、他職種との連携を図り、常に患者の受け入れができるよう入退院調整を行い、新規入院患者の受け入れも積極的に行った。また急性期治療病棟として輪番や夜間、休日の入

院の受け入れを積極的に行い、診療報酬加算の取得に協力できた。

4. 閉鎖フロアの入院患者から新型コロナウイルス陽性者が出て全患者・全職員のスクリーニング検査で職員4名、患者7名が罹患しクラスターが発生した。その後合計15名が罹患したがICTの指導のもと感染対策を実施し、閉鎖フロアのみで開放フロアに拡大することなく収束することができた。

4 次年度の課題

1. クラスターを発生させないようにスタッフ全員が感染予防対策を実施できるようにする。
2. 看護・介護の専門性高め、質の高い患者サービスを提供する。
3. 他職種と連携を図り、退院調整と新規入院患者の獲得を図る。

北3病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	精神保健福祉法	前田看護師、嵐看護師、山下看護師	61%	保木看護師	61%
5月	エンゼルケア	筒井主任	82%	小原看護師	81%
6月	認知症者の理解	中山師長	66%	岡村看護師	66%
7月	自傷・他害への対処	中村看護師、濱口介護福祉士	%		%
8月	救急シミュレーション	前田看護師、西川看護師、山下ヘルパー	87%	中村看護師	87%
9月	精神科の倫理・身体拘束・隔離	岡村看護師、松田介護福祉士	73%	川村看護師	73%
10月	統合失調症の病型・治療方法	横皇看護師、松岡看護師	51%	松岡看護師	51%
11月	患者に対する接遇	北川准看護師、眞田介護福祉士	65%	山岡看護師	65%
12月	統合失調症の薬物療法	北川准看護師、眞田介護福祉士	55%	西川看護師	55%
1月	C V P P P	永野師長	52%	横皇看護師	52%
2月	精神科における行動制限	山岡看護師、濱口介護福祉士	65%	山下看護師	65%
3月	精神科身体合併症看護	川村看護師、松田ヘルパー	55%	前田看護師	55%

(文責:看護師長 藤原 奈津子)



北4病棟 (こころのセンター)

1 概要

- 病棟形態: 精神科慢性期病棟
(高齢者対応)
- 病床数: 53床
- 所属長名: 窪内 淳子
- 構成職員: 看護師 13名
准看護師 2名
介護福祉士 4名
ヘルパー 3名
合計人数 22名



2 2023(令和5)年度 目的・目標

1. 患者の尊厳を守り、患者・家族の立場にたち信頼していただける看護・介護が提供できる
2. 安全、安心できる看護・介護を提供できる
3. スタッフ全員が経営に参画する

4. 働きがいもてる職場環境を整える

3 目標に対する取り組み

1. 毎月行う分散教育などで、患者の尊厳などについて理解を深め看護・介護のケア提供に続けた。

- 転倒転落のインシデント、アクシデントが発生しリスクアセスメントをチーム全体で行い、情報共有することで危険予知に努めた。
- 病床稼働率は83～91%で推移し、患者受け入れはすぐに対応できるように体勢は取れていた。消耗品、衛生材料など定数管理の徹底を行い、コスト漏れがないように記録の徹底を行った。
- 公平に休暇の取得ができるように勤務調整を行っ

た。親の介護のため3カ月の介護休暇1名、2カ月の育児休暇1名が取得できた。

4 次年度の課題

- スタッフ全員が病院経営に貢献し、患者・家族から満足していただけるケア提供を行う。
- 感染防止に努め、働きやすい職場環境をつくる。

北4病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	感染対策（クラスター発生時の対応）	岡本主任、中嶋主任	67%		67%
5月	感染対策（アルコール使用タイミングの実際とPPE）	正木看護師	50%		50%
6月	接遇	谷村准看護師、永野介護福祉士	72%	正木看護師	72%
7月	精神保健福祉法	宮崎看護師、坂本主任	64%	宮地看護師	64%
8月	高齢者の虐待防止	吉本看護師、岡村准看護師	60%	足達看護師	60%
9月	急変時シミュレーション（夜間想定）	曾谷看護師、中村ヘルパー	72%	吉本看護師	72%
10月	身体拘束	岡村准看護師、宮崎看護師、池田看護師	52%	池田看護師	52%
11月	おむつの当て方や使用方法	尾崎介護福祉士、上田介護福祉士、神戸ヘルパー	61%		61%
12月	褥創対策・ポジショニング	池田看護師、島本看護師	48%	島本看護師	48%
1月	CVPPP	永野師長	50%	濱田看護師	50%
2月	高次脳機能障害	中山認定看護師	55%		55%
3月	転倒・転落予防	足達看護師、宮地看護師	68%	久保看護師	68%

（文責：北4病棟師長 窪内 淳子）



北5病棟（こころのセンター）

1 概要

病棟形態：精神科慢性期病棟
 病床数：48床
 所属長名：橋田 千恵子
 構成職員：看護師 14名
 准看護師 3名
 介護福祉士 5名
 ヘルパー 1名
 合計人数 23名



2 2023(令和5)年度 目的・目標

- 専門知識を深め、安全で信頼していただける看護・介護を提供できる。
- スタッフ全員が病院経営に参画する
- 職員が働きやすい環境をつくる
- 感染予防策を徹底しクラスターを発生させない

3 目標に対する取り組み

- 他職種カンファレンスを計画的に実施し、患者のケアを見直しを行い、看護の質の向上に取り組んだ。インシデント・アクシデントは病棟全体で情報共有し、分析を行い再発防止に努めた。
- 地域移行推進チームで計画的に長期入院患者の退院支援を行い、精神科地域移行実施加算の取得に

向けて取り組んだ。他部署との連携を図り効率的な病床管理と、積極的な入院の受け入れを行い、平均病床稼働率87%以上を維持できた。

- 病棟の環境を見直し、働きやすい環境を整えた。夜勤の回数や公休の取り方など、各職員の思いを尊重しシフト表の作成を行った。職員の体調不良時などは勤務交代などを行い協力し合い勤務を継続することができた。有給休暇は5日以上取得することができた。
- ICTの指導のもと感染対策を強化しクラスターを起こさないように取り組んだ。感染管理担当者育成研修を2名が受講し、感染対策に取り組んだ。

4 次年度の課題

- 倫理的感性を高め、患者の立場にたち信頼していただける看護・介護を提供できる
- 安全で安心できる質の高い、統一した看護の提供
- 職員が働きやすい職場環境をつくる
- スタッフ全員が病院経営に参画する
- 災害を見据えた看護体制を整える

北5病棟 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	身体拘束	山崎主任、津野ヘルパー	58%	今村看護師	58%
5月	感染対策	有澤看護師、尾崎介護福祉士	65%		%
6月	救急シミュレーション	中嶋主任、渡辺看護師、岡部介護福祉士	50%	荒木准看護師	54%
7月	認知症について	中山認定看護師	63%	笠原看護師	37%
8月	フォーカス記録について	楠瀬看護師	79%	岡林看護師	79%
9月	行動制限について	橋田師長	63%	楠瀬看護師	63%
10月	クライシスプラン	岡林看護師、畠中介護福祉士	68%	西川看護師	68%
11月	精神保健福祉法	橋田師長	59%		%
12月	オムツの当て方	西川看護師、中尾介護福祉士	69%	保木看護師	69%
1月	発達障害	笠原看護師、有澤看護師、保木看護師	60%	有澤看護師	60%
2月	CVPPP	永野師長	73%		%
3月	アンガーマネジメント・カンフォータブルケア	今村看護師、松村介護福祉士、荒木准看護師、横山准看護師	60%	弘光看護師	60%

(文責：北5病棟師長 橋田 千恵子)



精神科外来 (こころのセンター)

1 概要

所属長名：川田 留美

構成職員：看護師 4名
准看護師 2名
クラーク 1名
合計人数 7名



2 2023(令和5)年度 目的・目標

- 患者家族から安心して信頼していただける外来看護を実践する
- 働きやすい職場環境を整え労働安全を確保する
- 外来職員が経営の視点を持ち安定と強化に参画する
- 感染防止対策を徹底し、安全安心できる外来環境を提供する

り組み安全を確保している。

2. について

職員間のコミュニケーションを良好に保ち、職員が働きやすく思いやりを持った組織風土になるよ

3 目標に対する取り組み

- について
常に倫理的感性を持ち、あらゆる場面において患者の尊厳を守る言葉遣いや対応ができるように接客意識の向上に努めている。また、外来看護の専門的知識と質の高い看護を提供するための自己研鑽は常に行うように努め、当科患者の特殊性を理解し安全に留意した対応を心掛けながら、医療安全の活動目標達成のために職員全員が取

精神科外来 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	接遇	川田師長	100%
5月	フォーカス記録について	尾崎看護師	85%
6月	眩暈について	岡田看護師	71%
7月	発達障害の治療	荒木看護師	85%
8月	接遇の活動内容について	三松看護師	71%
9月	若年性認知症について	西田看護師	71%
10月	精神保健福祉法	川田師長	85%
11月	睡眠障害について	尾崎看護師	100%
12月	認知症について	中山認知症認定看護師	28%
1月	感染対策 (PPE着脱)	荒木看護師	71%
2月	CVPPP	永野師長	71%
3月	フライの原理原則(倫理的ジレンマ)	荒木看護師	75%

うに対応し実践できている。外来は日勤業務が多く立ち仕事が続くため、椅子に座りカルテ記載をするように勧め、身体的疲労を軽減する工夫をしている。そして勤務シフト希望への公平な対応を心がけ働きやすい勤務シフトの作成に努めている。

3. について

外来職員全員が経営意識を持ち、各病棟や在宅関連部門の特殊性について理解し、外来看護にて経営的な貢献に努めている。また受診相談窓口の機能により、新患者や入院患者への対応について情報収集が事前に十分に得られるため、患者の病状と適合する専門性の医師への受診につなげることができている。入院については2週間に1回病化北館師長が参集しベッドコントロール会議をして調整介入を行い、急性期入院や長期入院可能な病棟への入院検討ができることなど経営的介入を

している。

4. について

常に感染対策を徹底した環境整備に努め、安心安全な外来環境を提供している。外来職員は感染マニュアルを遵守し、標準予防策を徹底し感染予防に努めている。

4 次年度の課題

1. 倫理的感性を常に持ち接遇意識の向上に努める
2. 精神科地域包括ケアを推進し、外来看護の視点を持ち連携強化に努め、入院・退院前カンファレンスなどへの積極的な参加を行い外来看護の継続的支援を行う
3. 院内認定感染管理担当者を選出し感染対策の強化を図る

(文責：精神科外来師長 川田 留美)



精神科デイケア、ショートケア「フレンズ」(こころのセンター)

1 概要

形態：

精神科デイケア、ショートケア
(大規模)

所属長名：永野 吉昭

構成職員：看護師 4名
作業療法士 2名
公認心理士 1名
認定心理士 1名
音楽療法士 1名
合計人数 9名



2 2023 (令和5) 年度 目的・目標

1. 電子カルテで、第三者に支援内容や経過が分かる記録にする。
 - ① デイケア記録監査表をもとに、入力・記録ができる。
 - ② 月1回 第1 (火) に事例・記録内容をスタッフ間で検討する。
2. デイケア利用者の安全を守り、安心・安楽な環境を整える。
 - ① 医療安全
 - ・ 医療安全推進委員会を中心に、部署内での安全・防災対策を考え、インシデントは、積極的に報告・分析し、防止策を検討する。
 - ・ 急変または、職員への暴力・暴言対応がマニュアルに沿って実施できる。
 - ② 災害
 - ・ 地震時・災害時に行動できるよう準備しておく。
 - ・ 災害の知識を習得し、自部署の災害マニュアルを活用する。
 - ③ 感染

- ・ 感染委員会を中心に、ICTの指導を受けながら、情報の共有と感染防止を強化する。
 - ・ インフルエンザ、コロナなどの感染に関する情報を共有し、メンバーへの周知、手洗い、マスクの使用を徹底する。
- ④ 環境
 - ・ 感染・安全の観点から環境を調整するとともに、アメニティの向上をはかる。
 3. 利用者の目的にあったプログラムを設定し、充実させ、スタッフ間でもプログラム内容を共有する。
 - ① 心理教育のプログラムを充実する (CBT・ひらめきスイッチ・アサーションなど)。
 - ② 感染動向に留意しながらプログラムの修正・変更を検討し実施する。
 4. 費用対効果を考慮し、デイケアを運営する。
 - ① デイケアフレンズのPR活動
 - 新規獲得のために情報を発信し、活動内容の紹介を継続する。
 - (外来掲示板・院内広報「じんせい」など)

- ②プログラムマニュアルの更新をする。
 ③1日平均35人以上の利用を目指す。
 ④新規獲得のために、他部門と連携し、取り組む。
5. 研修および分散教育等に積極的に参加し、自己研鑽に努める。
- ①分散教育 第3(水)では、デイケア内で必要な知識・技術に特化した内容を年間計画に沿って実施する。

3 目標に対する取り組み

コロナウイルスは第5類感染症となったが、引き続きスタッフと利用者が協力して感染予防に努めている。そのうえで、これまで休止していたプログラムの見直しを行い、生活に直結するプログラムの他、季節を感じてもらおうイベントを増やした。

心理室、患者サポート室からの紹介の他、病棟入院中からのデイケア体験、Drから外来通院中の患者の紹介があり、継続利用につながるよう、連携を密にしつつ体験から登録、利用定着までサポートしている。他院患者からの当院デイケア利用相談も数件あった。

新規登録者は38名で前年に対し7名の増加があった。再登録者21名、登録抹消者は延べ28名であり、理由は症状悪化や入院、高齢化、就労などがあった。

就労支援では月に1回、希望者と事業所見学体験を行い、就労に至るケースが増えた。

仕事に集中するためデイケアを卒業されるのは、送り出すスタッフにとってうれしい出来事になっている。

コロナ以降デイケアの活動スペースが限られている中で利用人数が増え、対人関係に障害を持つ方の安心できる場所が少ない状況になっている。できうる限り利用者に寄り添うことでさまざまな葛藤を共に乗り越え、それぞれのリハビリを支えるようにしている。

事例検討はこれまでの月1回から週2回に増やし、

多職種連携のもと方針を統一化している。電子カルテや紙媒体の記録など抜かりがないよう、新たなチェック体制をつくった。

個人でZOOM研修や、現地でのリアル研修に参加しているスタッフもあり、学習意欲は高く、学びを利用者に還元できている。

4 次年度の課題

2024(令和6)年度も感染動向を見極めつつ、デイケアとして利用者に今必要な支援の質と量を提供していく。利用者がリハビリの成果を実感できる取り組みを続け、社会貢献と経営的安定を目指す。

精神科デイケア・ショートケア「フレンズ」 2023(令和5)年度 分散教育計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	統合失調症の心理教育	永野師長	50%
5月	PPE着脱・感染予防1	前田看護師	80%
6月	CVPPP講義	永野師長	67%
7月	PPE着脱・感染経路別予防対策	前田看護師	50%
8月	精神科倫理	永野師長	88%
9月	インテークの技法	大原公認心理師	88%
10月	精神保健福祉法	永野師長	88%
11月	感染対策シミュレーション	前田看護師 黒岩認定心理師	75%
12月	認知症講義	中山認知症看護認定看護師	88%
1月	マインドフルネス	大原公認心理師	100%
2月	行動制限最小化	永野師長	75%
3月	救急対応	永野師長 岡崎看護師 前田看護師	100%

(文責：精神科デイケア、ショートケア「フレンズ」
師長 永野 吉昭)



重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン(こころのセンター)

1 概要

所属長名：川田 留美

構成職員：

看護師	6名
介護福祉士	2名
作業療法士	3名
精神保健福祉士	1名
看護補助者	1名
合計人数	13名



2 2023(令和5)年度 目的・目標

- 患者・家族および院内外の関連諸機関との信頼関係を構築できる接遇対応を行う。
- 風通しの良い、働きやすい職場環境を整えることができる。

3. スタッフ全員が経営に参画する。
4. 感染対策徹底し、二次感染に至らないように努める。
5. 安全を確保したケア提供が行える。

3 目標に対する取り組み

1. について
患者・家族との信頼関係を構築するために、いつでも相談できる環境と傾聴を心がけ待遇対応している。デイケア運営にあたって、院内外の関係諸機関との連携においても待遇意識を高めた対応をして信頼関係の構築に努めている。
2. について
多職種が連携して勤務している中で、職員はそれぞれの職種の役割を十分に認識しその役割が発揮できるように環境を整えるようにしている。職員は、挨拶や声掛けなどを意識して職員間のコミュニケーションを活発に行い組織風土は良好に保たれている。デイケア勤務は、祝日の出勤があり連休も取得しにくい面があるため連日の日勤が続かない工夫を行い、また休日取得の公平性を保つことなどを意識して勤務シフトの作成を行い働きやすい職場環境を整えるようにしている。
3. について
施設入所中の方が、施設内のコロナ発生に伴いデイケアに参加できない利用者が多かった。利用者増量に向けて外部機関へのPR活動を行いパンフレットの郵送など普及を図った。毎日の利用者数を確認し参加者増加に向けての活動を全員で取り組むようにしている。
4. について
職員は、体調管理を行い発熱時や体調不良時には出勤せずTEL報告することを徹底している。

常に職員は、病院内で決定した感染マニュアルを遵守している。利用者には、感染対策として午前8時に各家庭に体調と発熱の有無の確認TELを行い、送迎時にも体調観察と来所後のバイタルサインの測定を行い異常の早期発見に努めている。

5. について
デイケア内の環境整備を行い、転倒転落の事故につながらないように動線上にある不必要な物品の排除や、異食を誘発するような口に入る物を利用者の手の届く場所にはおかないように注意している。在宅生活が維持できるように利用者個々のADLを把握し在宅で必要な介護物品の選定への助言や資料の提供などを行い在宅で残存機能を十分に発揮できる生活への支援を行っている。利用者の残存能力を維持して、家族の介護負担を軽減している。

4 次年度の課題

1. 利用者の増数に向けた院外PR活動を積極的に行う。
2. 感染対策を十分に行い、デイケア運営が継続できるようにする。

重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン 2023(令和5)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	重度認知症患者デイケアの目的と理解	中山師長	84%
5月	ボディメカニクス	黒岩介護福祉士	84%
6月	基本的な感染対策	松岡看護師	76%
7月	作業療法について	青木作業療法士	76%
8月	送迎時の事故発生時について	永田精神保健福祉士	84%
9月	高齢者虐待	永田精神保健福祉士	76%
10月	歯科薬剤関連(顎骨壊死)	内平歯科衛生士	76%
11月	当院の食事	前田管理栄養士	76%
12月	精神保健福祉法	川田師長	84%
1月	CVTTTP	永野師長	69%
2月	接遇	石本看護師	84%
3月	認知症について	吉谷作業療法士	92%

(文責: 重度認知症患者デイケア・デイ・アルテン師長
川田 留美)

薬 剤 部



薬剤部長
田中 照夫



1 概要

所属長名：薬剤部長 田中 照夫
副部長（部長代行） 小松 めぐみ
構成職員：薬剤師 13名
事務員 4名
合計人数 17名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 患者満足度の向上を目指した診療体制の整備

- (1) 心不全チーム、心リハ委員会の一員として活動を行った。入院患者に対する薬剤師初回問診票（患者背景、心不全の病識、日常生活での注意点、服薬状況、薬識）を作成し、病識や薬識など初回面談で確認するとともに、当院で作成した心不全パンフレットも活用することで、より効果的な患者指導を行うことが可能となった。また、外来患者への指導も開始した。今後も多職種と情報を共有し、服薬アドヒアランスの向上と再入院率の低下につなげていきたい。
- (2) 抗がん剤投与を受ける外来患者に対して「副作用チェックシート」を用いて副作用発現状況を評価するようにした。また、保険薬局に提供する「治療進捗に関する文書」として、お薬手帳シールにレジメン実施状況、投与量、主な副作用の発現状況などを記載し、外来化学療法の質向上を図った。
- (3) 医師に対して処方提案を500件／年以上行い、腎機能に応じた用法・用量などの適正化、薬歴チェックによる処方薬の適正化、抗菌薬の適正使用などに貢献した。
- (4) 院外処方箋の様式を変更し、リフィル処方箋を発行できるようにした。外来患者にとっては通院の負担や医療費の負担が減り、病院にとっても診察時間や負担を減らすことが可能となった。

2. 職員の働きやすく働き甲斐のある職場づくり

- (1) 働きやすく働き甲斐のある職場づくりの取り組みとして、調剤リーダを交代制で配置し、調剤業務の円滑かつ効率的な運営に努め、定刻で終業できる体制ができた。
- (2) 薬剤業務の見直しを行い、事務職員へのタスクシフトを行うことで、薬剤師が専門業務に専念できる体制に改善した。
- (3) 入院患者に対する看護師の与薬業務の効率化を図るため、薬剤師の視点から現状把握と改善方法の提案を行い、看護部、医療安全管理者と協議することで与薬業務の効率化に貢献した。
- (4) 全国学会で2題、中四国学会で2題、院内学術集会で2題の発表を行った。

3. 経営基盤の安定と強化

- (1) 後発医薬品の採用を促進し、使用体制加算1（後発医薬品使用割合90%以上）の算定を継続した。
- (2) 薬剤管理指導件数は、2,263件（内、算定件数は1,374件）であり、年間目標（2,760件）は達成できなかった。
- (3) 新たな取り組みとして、5月から外来化学療法連携充実加算の算定を開始した。
- (4) 術後疼痛管理チーム加算算定要件である研修に薬剤師1名が参加し研修を修了した。今後、同加算を取得していく予定である。

4. 感染対策の対応力強化

- (1) AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の活動として特定抗菌薬使用届にT A Z / P I P Cを追加し抗菌薬の適正使用に努めた。また、感染対策連携共通プラットフォーム（J - S I P H E）に加入し、連携する地域の施設同士の利活用およびAMR対策に関するベンチマークの構築に今後活用予定である。

(2)新型コロナ対策チームの一員として病院全体の感染防止に努めた。

3 今後の課題

1. 今年度は薬剤師が新人2名（1名は限定職員）入職したが、退職者も1名おり、欠員状態が続いている。病院薬剤師の確保は極めて困難な状況であ

るが、さまざまな方法でリクルート活動を行っていききたい。

2. 来年度も他職種と連携し、薬剤師の専門性を活かした活動を積極的かつ主体的に行っていきたい。

（文責：薬剤部副部長 小松 めぐみ）

医療技術部



医療技術部長
田中 照夫

1 概要

医療技術部部長：田中 照夫

医療技術部は、「放射線室」「臨床検査室」「栄養管理室」「リハビリテーション課」「精神科作業療法室」「臨床心理室」「臨床工学室」「歯科衛生室」の8部署から構成される。

2 活動内容・目標に対する達成状況

医療技術部では、毎月、薬剤部と合同で所属長会を開催し、院長方針や病院共通価値観の浸透に努めた。また、各部署の取り組みを報告し合うとともに、共通課題については協議を行い、部署間のコミュニケー

ションを図った。その上で、院長や他部門との協議が必要な内容については、進言や提案などを行った。

各部署では、病院の年度目標に従って具体的な定量的目標と定型的目標を策定し、目標達成に向けて活動した。なお、診療部や他部門との連携が必要な課題については協議を行い、目標達成に努めた。また、医療の質向上や患者満足度向上のため、新たな取り組みや業務改善などを行い、その成果は学会や院内学術集会などで積極的に発表した。

3 今後の課題

1. 各職種の専門性を活かし、病院理念を実践する。
2. 患者の視点に立った職種間連携に取り組む。
3. 業務改善に取り組み、生産性を向上させる。
4. 働きやすく働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
5. 職員の研修、学会発表などを推奨し、職員の知識・技量の向上を図る。

(文責：医療技術部長 田中 照夫)



放射線室

1 概要

所属長名：小松 剛

構成職員：診療放射線技師 7名
合計人数 7名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 働きやすい環境づくり

日高クリニックの撮影装置は開院以来使用してきた機器でX線透視撮影装置を一般撮影に代用して使用していたため、操作性や可動域が狭く取り扱いが困難であり、患者への負担も大きかった。今回新たに撮影装置と撮影台を導入し、車いすでも取り回しがしやすく安全な撮影業務が行えるようになった。また画像システムも一新しており、画像データ管理も安定して行える環境を整えた。

2. 他部署との連携

健康管理センターとの協力により件数増加のためCT・MRIの付加検査の案内やポスターの作成など取り組みを行った。

3. 被ばく線量管理

個人被ばく線量測定バッジを所有している職員に対し、動画視聴形式で放射線管理研修会を実施した。対象職以外の方々にも多く参加していただき、放射線業務に携わることのない職員にも放射線の



安全な利用や被ばくの防護など医療で使用する放射線の基礎について学んでいただいた。

4. 業務補助

マンモグラフィ診断支援ソフトウェアMGCA D-i（読影補助ソフト）の導入およびバージョンアップにより、乳腺の石灰化や腫瘍などの特定病変に関連した特徴を持つ画像上のパターンを自動で検出し、撮影者および医師の診断の補助が可能となった。

5. 12月から翌年3月末までの4カ月間、ERやウォークイン患者の受け入れを増やす目的で診療放射線技師、臨床検査技師、事務員の3部署の就業時間を21時半まで試験的に延長した。その間の

検査はやや増加したが、放射線室では人員減などの影響やオンコールでの即時対応が可能であることなどから見送ることとなった。

3 今後の課題

1. 来年度は少人数による当番勤務に対応すべく技師を2名増員することになった。
再来年度には新人技師たちが一人前に育つよう育成カリキュラムに準じて取り組んでいきたい。

(文責:放射線室長 小松 剛)



臨床検査室

1 概要

所属長名: 亀井 佳代

構成職員: 臨床検査技師 19名
事務員 1名
合計人数 20名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 患者満足度の向上を目指した診療体制の整備・強化
2024(令和6)年3月に自動採血管準備装置を導入した。装置から1検査オーダーごとにひとつのトレイに採血管や採血管情報を印字したラベルが準備できることで、作業効率のアップとインシデントの減少が期待できる。また、装置の導入を機に運用の変更を行った結果、報告時間の短縮を図ることができ、患者待ち時間の短縮につながった。2023(令和5)年11月から「K L - 6」検査を院内検査として導入した。リアルタイムで検査結果の報告が可能となり診療の質向上につながった。また「推定1日食塩摂取量」「推算C C r 値」「好酸球数実数」の報告を開始した。
外部精度管理として、日本臨床検査技師会と日本医師会と高知県精度管理調査およびメーカーの精度管理調査に参加した。日本医師会精度管理調査の参加項目修正点は98.4点、その他の精度管理についても良好な結果であった。
2. 職員の働きやすく働き甲斐のある職場づくりと働き方改革の推進
各自がスキルアップに取り組み、特定の検査業務担当者を育成できた。担当者内での休暇調整が取れやすくなり有給休暇取得率は6%上昇した。
医師が検査項目を入力できない場合、限定項目に限り代行入力を開始したことで、速やかに業務に取りかかることができた。
E R室に採血管ラベルプリンターを設置したことで、採血管の取り忘れが防止でき、手書き作業もなくなることができたことから、安全に効率よく業

務を行うことができるようになった。

3. 感染対策の対応力強化

2023(令和5)年4月から新規入院患者の新型コロナ抗原定量検査休日対応を開始して、陽性者を早期発見することができた。

I C T主催の育成研修を受講して、感染管理担当者が誕生した。必要な場面で確実にP P Eの着用ができるなど、自部署の感染対策の改善や推進に力を発揮できた。

3 今後の課題

1. 検体検査総件数は前年度比で約116%、生理検査総件数は前年度比で約115%であった。また、心臓超音波は毎年増加しており前年度比122%であった。今後も循環器疾患患者の増加が予想され、予約枠拡大が必須となってきている。対応できる人材育成、検査体制の整備・強化に取り組んでいきたい。
2. 救急車受け入れ体制の整備に伴い、時間外検査件数は増加した。使用機器の老朽化、処理能力、測定項目に課題を残しており、今後日勤帯、時間外に関わらず、診療体制に沿った検査機器の整備、更新が必要となってくる。

(文責:臨床検査室長 亀井 佳代)



栄養管理室

1 概要

所属長名：

細木病院：橋本 由佳

こころのセンター：前田 光代

構成職員：管理栄養士	11名
栄養士	1名
調理師	11名
調理員	12名
事務員	1名
短時間パート	9名
合計人数	45名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 患者満足度の向上（患者さんがHappy）
食事満足度調査の結果は食事全体の満足度が53%と前年度を下回った。クックチル食材中心のメニューは、調理スキルに左右されない安定した味付けの料理が提供できる反面、単調なメニューになってしまうことが課題である。今年度は北館耐震工事の影響で行事食の回数も減ってしまったことが満足度低下の要因と思われる。外来栄養食事指導加算件数は前年比119%に増加、入院栄養食事指導加算件数は前年比246%と大幅に増加した。急性期病棟担当を管理栄養士2名体制にしたことで、新規入院患者に対する初回栄養指導の強化につながった。
- 職場環境の改善（職員がHappy）
給食運営に必要な人員は十分に確保されない状況が続いている。厨房リーダー制度に続き、副リーダー制度を7月に導入した。年度末に意識調査をしたところ、厨房内での意見交換や相談回数が増加し、各厨房で人材活性化がみられた。ただ、厨房間の人材交流は不十分であり、働きやすく働きがいのある環境づくりは簡単ではないと感じている。しかし、コロナ感染対策が緩和されたタイミングで開催した「栄養ワンダー2023細木」では、数年ぶりに職員を対象に日頃の食事の摂り方を振り返ってもらう啓発活動ができた。厨房職員と協力した手作りマフィンの配布も好評であった。
- 経営基盤の安定に貢献（病院がHappy）
新館・南館と北館の給食運営を一体化して1年4カ月が経過した。3つ厨房で食種や食材、献立を統一したことは献立発注管理・在庫管理の一元化と無駄の削減につながっている。また、近年の人

材不足や物価高騰に対してもクックチル食材の活用は費用抑制に有効的手段であった。特別治療食加算については目標達成に至らなかったが、管理栄養士が積極的な栄養管理に取り組んでおり増加傾向である。

3 今後の課題

- 患者満足度の向上
入院患者が安心して療養生活を送れるように「塩分6～7g/日」「野菜350g/日」の栄養バランスを考えた食事提供を継続しながら、季節の彩を感じられる風土豊かな食事提供も課題としている。また、深刻な人員不足で「管理栄養士の病棟常駐」は難しい状況であるが、入院時の病室訪問など管理栄養士の顔が見える患者個々に寄り添った栄養管理を目標に、転院後の情報共有や在宅支援につながる栄養管理を目指していく。
- 安心安全な食事提供
給食管理システムの更新に伴い、インシデント防止を目的に食札表示や食数管理方法を改める予定である。わかりやすい帳票類のもと作業工程もシンプルになれば、職員の負担も軽減して少ない人材でも安定した給食業務が可能となることに期待している。非常時の食事提供についてもシンプルで提供しやすく食べやすいメニュー構成が必要と考えている。さらにローリングストックシステムを強化して食品を回転させることで、非常時の訓練にも活かしていきたい。

（文責：栄養管理室長 橋本 由佳）



リハビリテーション課



1 概要

所属長名：リハビリテーション課長 藤本 弘昭
 構成職員：理学療法士 45名
 作業療法士 27名
 言語聴覚士 17名
 リハ助手 5名
 合計人数 94名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 患者満足度向上

早出・遅出での患者介入や集団活動の再開、吃音リハの開始など、各病棟ユニットや職種で「患者さんのために今できること」を考え、実践まで進めることができた。

2. 働きやすく働き甲斐のある職場づくりと働き方改革の推進

職員の生活背景を考慮した配置部署の決定、短時間正職員の選択および男性育児休暇取得の推進を行い、働き方の多様化の一環として勤務シフトの増枠も行った。また、職員主導の業務改善案を積極的に登用したことで、意欲の向上や働き甲斐につなげることができた。空位だった役職位の配置を行い、職員へのサポート体制を整えることができた。

3. 経営基盤強化

療法士1人当たり70万円/月の実績目標に対し、725,886円/月と達成することができた。回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟では病棟職員と協力し施設基準を維持することができた。しかし昨年度施設基準を取得した摂食嚥下機能回復体制加算の取り組みやその活動に付帯する摂食機能療法件数は伸び悩み結果となり、目標件数2,500件以上に対し大きく下回る結果となった。ハートセンター増築後、訓練室増床と職員増員を実施し、心リハ件数を前年度比155%と実績向上することができた。



4. 感染対策対応力強化

感染管理担当者育成研修初級3名・中級1名の資格者を輩出できた。また今年度からリハ課感染スタッフ会を設置し、臨床現場で実践的な感染対策指導ができる職員の育成と感染対策に関する啓発活動を行い、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も継続したリハ提供を円滑に行うことができた。

5. その他

地域ケア会議や支援会議への参加による地域貢献、学会発表や講師などの学術活動を前年度以上に行うことができた。また、BLS・BVM・ICLS講習の運営に職員を派遣し、個々の緊急時対応力を高めるとともに、院内のチーム活動に貢献することができた。また学生育成は新採用希望者を増やすための重点取り組み事項として積極的に臨床実習を受け入れた。

3 今後の課題

1. 管理体制

令和5年5月に空位となっていた理学療法室係長、作業療法室係長を配置することができた。令和6年2月には新たな役職として教育担当係長を

配置した。今後は管理体制の基盤強化とさらなる教育体制の強化を図りたい。

- 働き方
各病棟での早出、遅出勤務を本格的に導入することになった。子育て期の職員が多く所属する職場であり、働き方の多様性を重視する時代なので、コアタイムを設定しフレックス勤務も導入する必要性を感じている。ただし、部分最適とならないような職場全体への配慮は必要と考えている。
- 経営貢献
できるだけ早くからのリハ介入が診療報酬上にも上がってきている中で、救急で入院された患者さんに対し、1日でも早い介入と退院促進の補助が

できればと考えている。病床回転率を上げることが全体の収益にも直結するので、リハとしてできる提案と実践を積極的に取り組んでいきたいと考えている。

- まとめ
次年度は職員間のつながりを強化し、コロナ禍で希薄になりかけた関係性を深い部分で強固なものにしていきたいと考えている。全ての所属員がこの職場でよかったと思ってもらえるように尽力していきたい。

(文責：リハビリテーション課長 藤本 弘昭)

□ リハビリテーション課 理学療法室

1 概要

所属長名：藤本 弘昭
 管理者：理学療法室係長
 寺岡 優
 構成職員：
 理学療法士 45名
 合計人数 45名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 収益目標の達成
収益(取得単位)目標は達成率97%と未達成であった。コロナ禍以降、感染対策の一環としてリハビリ介入における慎重な行動や判断が定着した結果、業務効率の低下が生じたことが要因の一つといえる。
- 接遇/マナーの向上
ご意見箱にPTの接遇に対する高評価を複数回いただいた。一方で指導が必要な職員もみられた。日常的な取り組みとしては、リハ課接遇委員会を中心に定期的なミーティングなどで啓発を行い、良いところは維持し、指摘をいただいた事項は改善を図っている。
- 職員の研鑽機会の拡大と専門性の向上
OJTの一環として、認定理学療法士を有する職員から一般職員に対する個別のリハビリ内容指導や相談対応を適時行った。
院外研修の参加は、月平均2時間以上の職員が2022(令和4)年度の51%から2023(令和5)年度は58%まで上昇した。多い職員では月平均10時間以上の研鑽を行っており、職員の研鑽意識は全体的に高まっているといえる。
- 各ユニット特性に応じた働き方の再構築
働き方の多様化としての早出・遅出勤務を検討し、配属部署ごとの必要性に応じた内容で運用を開始した。

- 円滑な備品の管理と適正な更新
修理・更新が必要な備品の確認作業を行い、一部で更新も実施できた。
- 次世代リーダーの育成
中堅職員の退職が重なったこともあり、若手職員の教育および患者・チームマネジメントスキルの向上はより喫緊の課題となった。

3 今後の課題

令和5年度は職員(中堅)の退職が多く見られた。同時期に育産休者やコロナ関連での欠員、南3病棟の運用変更などが重なったため、職員には少ない人数で多くの業務をお願いせざるを得ない状況になった。職員間のコミュニケーション・相互配慮/相互援助の風土・業務効率の改善の重要性を再確認した1年となった。

令和6年度は、業務の効率化を推進し、さまざまな業務手順や運用方法を見直すと同時に職員一人ひとりの意識付けを図っていく。これにより職員が患者と向き合う時間を拡大し、職員教育(OJTの充実)・症例を通じた職員間コミュニケーションの活性化を実現し、PTとしての仕事のやりがいを感じやすい職場づくりを目指す。最終的には、離職率の低下や収益性の向上につなげていきたい。

職場環境についても、備品の適正化や配置の見直しを図ることで、より良い環境を整備していく。

また、診療報酬改定への対応と合わせて、病棟毎に異なる施設基準や役割についての理解を深め、各病棟における最適な働き方を所属員全員で模索していく。

(文責:理学療法室係長 寺岡 優)

□ リハビリテーション課 作業療法室

1 概要

所属長名:

リハビリテーション課長

藤本 弘昭

リハビリテーション課

作業療法室係長

横山 美和

構成職員:

作業療法士 27名

合計人数 27名



2 活動内容・目標に対する達成状況

令和5年度は職員が主体となって室の運営に参加できるよう土台づくりに努めた昨年度から目標を継続し、「人は作業をすることで元気になる」「主体的にかつチームみんなで取り組んでいく」をテーマに空位であった係長職を配置し新体制で取り組みを行った。

1. 対象者を中心とした作業療法が提供できるように職員が主体となった作業療法室の運営および活動の展開ができる

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ変更となった年である。今まで自室対応を余儀なくされていた患者さんの生活面から社会参加(活動)など、多くの活動の拡大が図れるタイミングであり、患者さんの生活に合わせた介入を行うため、早出勤務の開始や病棟ラウンジでの食事の開始など生活の拡大に努めた1年であった。

活動企画では、主任の先導・サポートを得て各ユニットでいろいろな活動を企画し、患者さんの目的に合わせた活動を実施することができた。職員間で活動内容のすり合わせに困難を要することもあったが、活動を通して患者さんの普段見られない笑顔や言動などに触れる機会となり患者さんにとっても、自分たちにとってもよい経験となった。

2. 感染対策への理解と対応力を深め、継続的な作業療法の提供ができる

感染リンクスタッフを中心に毎月の感染チェックや室ミーティングで感染対策への周知や理解を深め、クラスターが発生しても継続して作業療法を提供することができた。なかでも、退院後の生活を見据えた家事動作訓練(調理)や集団活動な

ども感染対策を十分にいき、昨年度比175%増と多い頻度で活動を実施することができた。

3. 作業療法士として誇りを持ちこの病院で良かったと思える作業療法室を目指す

患者さんのために・自分の成長のためにも自己研鑽を行い、自分の意見や考えを発信できる経験を積めるよう、作業療法室勉強会では自分たちで体験して学ぶ(臨床に活かす)をテーマに、講師は全員(新人・時短勤務者は除く)に担当してもらった。発言・発信する機会のある場になるとともにユニットを超えた交流が図れコミュニケーションの場にもなった。

自己研鑽に関して、積極的に外部研修に参加している職員と頻度の少ない職員と二極化している現状にあった。

3 今後の課題

1. 職員が主体的に活動を実践していけるよう室全体で集団活動を企画し、場を共有しながら先輩・後輩が患者さんとの関わりを通して教え・学べる場をつくっていきたい。このような関わりを通して、自身の強みややりがい・達成感など職員間のコミュニケーション強化を図り関係性を深めていきたいと考える。
2. 自己研鑽に対して二極化している現状にあるため、質の高いサービスが提供できるよう、課題1に挙げている取り組みやリハ課で導入しているラダー制度を見える化(意識付け)し、経験年数に応じた研修会への参加など共にスキルアップを行っていく。

(文責:リハビリテーション課作業療法室係長 横山 美和)

□ リハビリテーション課 言語療法室

1 概要

所属長名：リハビリテーション課長
藤本 弘昭
管理者名：係長 楠瀬 さやか
構成職員：言語聴覚士（S T） 17名
合計人数 17名



2 活動内容・目標に対する達成状況

令和5年度は16名(実働15名)体制でスタートした。4月半ばより1名産休入り、6月に1名育休明け復帰、11月より1名産休入りとなった。また、中堅職員が2月に1名、3月に2名退職した。

5月以降、コロナウイルス感染症が5類になり世の中は解放ムードであったが、口を扱うことが多い職種であるS Tにとっては飛沫・空気感染のリスクは変わらずあり、感染対策を継続して業務に臨んだ。令和5年度は「正常化と再構築」をテーマに以下の目標を立てて取り組んだ。

1. 臨床業務の質の向上

(1) 患者満足度の向上

定期的にS T内カンファレンスを実施した。カンファレンスは病棟ごとの担当者で行い、患者情報を複数名のS Tで共有し訓練方針や内容を検討した。より効果的で有益なアプローチを展開できたと考える。また、院内接遇向上リーダーおよびリハ課接遇向上委員会を中心に接遇向上の意識付けを行った。そして、患者貢献度の向上を図るため自己研鑽(院外研修参加)を促した。年間152件の院外研修に参加した。

(2) 嚥下リハ提供回数の増加

令和4年度から継続し、摂食機能療法の提供回数の増加に取り組んだが、前年度を上回らなかった。10月から新館での嚥下回診を再開し、半年間で3名の患者がS T介入につながった。これはS T処方の出ていない入院患者の中から誤嚥リスクの高い患者を拾い上げ、早期対応することにつながった有意義な活動であったと感じている。

(3) 集団コミュニケーション療法の再開

感染対策を徹底した上で、11月から回復期リハ病棟、12月から南館医療療養病棟にて集団コミュニケーション療法を再開した。個別リハでは引き出せない患者の反応を引き出すことができ、S T側もハッピーを共有できている。今後は小児外来での実

施を検討中である。

2. 在宅部門の拡大

令和4年5月から専従者を配置し、2年目の一年であった。入院担当者から在宅担当者へ自宅退院予定患者の情報提供や他職種との情報共有、外部事業所への積極的な広報活動を行い、訪問リハの利用につなげた。時期により利用者数増減の波があり、安定に向けて広報活動強化等対策と実践が必要である。

3. 感染対応力の強化

感染対策知識の向上のため、感染対策リンクスタッフによる「S T室感染対策便り」の作成と配布を継続した。定期的なP P E (個人防護具) 着脱練習を継続して実施した。場面に合わせたP P Eの使い分けが今後の課題であり各自がP P Eそれぞれの目的を理解する必要がある。

4. 働き方の多様化への対応

当院はケアミックスの病院であり、幅広い患者層への対応が求められる。S Tは食事評価に関わることが多いが、患者の病期によって介入目的が異なる。病棟の特色や患者の状態に合わせたアプローチができることを目指し、食事場面への介入機会を増やすことを目的に、時間差勤務シフト(早出勤務・遅出勤務)を開始した。

3 今後の課題

中堅層の職員の退職があり、若手とベテランに二分化しつつある。安全に楽しく明るく堅実に建設的に業務に取り組めるようお互いに声をかけあいコミュニケーションをとっていく必要がある。

(文責：リハビリテーション課言語療法室係長
楠瀬 さやか)



精神科作業療法室

1 概要

所属長名：吉村 康世
 構成職員：作業療法士 6名
 合計人数 6名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 患者満足度の向上
 新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和に伴い、カラオケやストレッチなどの集団活動を再開することができた。患者に対する個別支援では、散歩や公共交通機関の利用支援などの院外活動も再開し、患者のニーズに合わせた取り組みを行うことができた。また、退院後の生活基盤の安定を図るために、積極的に多職種と連携し、外来での精神科作業療法の受け入れ体制を強化することができた。
- 働きやすく働き甲斐のある職場づくり
 職員が有給休暇を取得できる環境を整備し、有給休暇取得率の向上を図った。また、定期的な会議を行うことで、スタッフ同士の意見交換ができる機会を設けることができた。さらに、スタッフ一人ひとりのスキルアップを目指して勉強会を開催することができ、プログラムの創意工夫につなげることができた。
- 経営基盤の安定と強化
 精神科作業療法（入院患者、外来患者）の年間実施件数は20,138件で、前年比では2,359件増加した。上半期は院内の感染対策に伴って集団活動が中止となり、入院患者の実施件数は減少したが、



下半期は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、中止していた集団活動を再開し、活動の幅を広げることで参加件数を回復させることができた。

4. 感染対策の対応力強化

院内の感染対策を遵守し、体調不良時には速やかに休めるよう体制を整え、院内に持ち込むことなく対応できた。

3 今後の課題

全体的なOT参加件数は増加したが、院内の感染対策に伴う集団活動の中止により、入院患者のOT参加件数にはらつきがある。今後は経営基盤の安定を図るためにも、引き続き感染対策に留意しながら、患者ごとに異なるニーズや課題を理解し、プログラムを調整することで参加件数の安定を目指していく。今年度は個別支援および外来OTの件数を増加することができたため、来年度もスタッフのスキルアップを図りつつ、多職種連携を強化し、患者満足度を高めていきたい。

（文責：精神科作業療法室主任 吉村 康世）



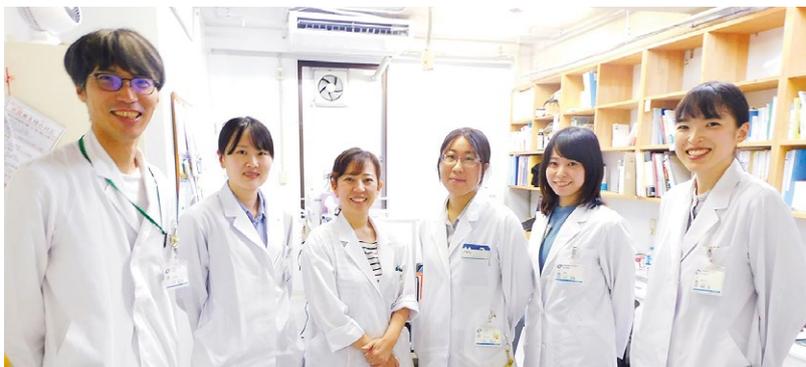
臨床心理室

1 概要

所属長名：池田 貴美
 構成職員：公認心理師 6名
 認定心理士 1名
 合計人数 7名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 患者満足度の向上を目指した診療体制の整備・強化（社会のニーズに応じた精神科診療体制の構築）
 学校や職場で不適応が生じている患者に対してはきめ細かな状況整理や行動療法的な取り組みが必要であるが、スタッフを増員したことで、より早く丁寧な治療的介入を行うことができた。心理検査の結果を患者・家族に伝えることで自己理解を促し、環境適応のための具体的方策を一緒に考えることで学



校・職場への復帰を達成できた。

また発達障害を持つ患者の家族がその対応に悩んでいる場合には家族支援も同時に行い、支え手である家族が安心を得、柔軟に対応できるようになることで、患者自身の成長発達を促進していけるよう働きかけることができた。

2. 職員の働きやすく働きがいのある職場づくり

スタッフの増員に伴いスタッフルームを移設し、電子カルテを1台追加した。電子カルテは現在4台配備されているが、人数分はなく、譲り合いながら業務を行っている状況である。また、心理検査室・心理面接室も他部署と兼用で予約制となっており、働きやすい環境とは言えない状況であるため、働きやすい職場づくりは今後も継続した課題である。

患者・家族への支援においては、県内外の他病院への通院歴のある数名の患者・家族から「ここがかかって良かった」と言っていたが、スタッフのモチベーションにつながっている。

若手心理士の知識・技術の向上を目指し、先輩心理士が適時支援している。先輩心理士が運営する集団療法に参加し、コリーダーとしての経験を積み重ねている。

3. 経営基盤の安定と強化

心理検査の年間件数は742件で前年比では206件増

加した。心理面接の年間件数は3,377件で前年比では292件増加した。心理検査・心理面接ともに大幅増加しており、スタッフ増員に伴い心理業務を拡大できたことの影響が大きい。心理検査では発達障害の鑑別を目的とした依頼が増えていることも本年度の特徴である。集団療法（精神科ショートケア330点にて算定）は年間113回実施し、前年比では19回増加した。また入院の必要な患者に対し、入院治療のメリットや治療の見通しを説明し、年間9名を心理士主導で入院治療につなげることができた（前年比では3名増加）。入院治療での介入件数は年間30件であり、「入院して良かった」と思っていただけのように取り組むことができた。

3 今後の課題

令和4年度のリクルート活動の結果、令和5年度は2名増員の7名で業務にあたった。当院精神科の大きな特徴である“カウンセリングを受けられる病院”が安定した形で提供できる状況は整ったと考える。各心理士が知識・技術を高め、提供していく心理支援の質を高めることが今後の課題である。

（文責：臨床心理室係長 池田 貴美）



臨床工学室

1 概要

所属長名：医療技術部長 田中 照夫

構成職員：臨床工学技士 3名

合計人数 3名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 臨床工学室では院内で使用する医療機器（以下、機器）の保守管理を主に中央管理方式で行っている。部署管理の機器に関しては故障時や異常時に対応し、一部の管理クラスの高い機器に関しては定期的に訪問点検を行った。また、手術室の術中使用予定の機器に関しては使用前に毎回作動確認を行った。
- ハートセンター業務では、臨床工学技士の専門性を活かし、心臓カテーテル室での術前および術中の医療材料（心臓カテーテルなど）の準備、医療材料の出納管理を行っている。また、ECMOやIABPなどの補助循環の操作、カテーテルアブレーション時に使用するCARTOシステムなどの操作を行い、高度で質の高い医療の提供を行っている。夜間・休日のオンコール体制も構築し、緊急症例に対し迅速に対応できるようになった。
- 新採用職員に対して、当院にある機器を安全に使用できるように基本的な操作方法やチェック方法

などを研修会で開催して講習した。また、ハートセンターの患者増に伴い、ECMO、IABP、CHDFも導入され、病棟看護師に対し管理方法や操作説明を行った。

3 今後の課題

- ハートセンターにおける清潔野業務への関わりなど、さらなる業務拡大に取り組む。
- 人員増加に伴い、新たな業務への参画を検討したい。
- 接遇研修を積極的に行い、患者をはじめ職員からも信頼される臨床工学技士を目指す。
- 専門職としての自覚と自信を持つため、研修プログラムに基づいて教育を行い、臨床工学室全体の

レベルアップを図るとともに、医療の質の向上を図っていききたい。

5. 臨床工学室が管理する医療機器および医療消耗品にかかるコストの見直しを行い、支出の削減に取り組みたい。

り組みたい。

(文責：臨床工学室担当 金本 雄泰)



歯科衛生室

1 概要

所属長名：医療技術部長 田中 照夫

構成職員：歯科衛生士	2名
デンタルアシスタント	1名
歯科受付事務	1名
合計人数	4名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 令和5年4月より歯科受付事務員を1名配属し、歯科事務業務（電話対応、予約管理、会計、歯科診療室までの案内）を担ってもらうことで、歯科外来、病棟での歯科受診が円滑に行えるようになった。特に、予約の取り方や管理の方法を改善したことで、診療効率は上がり、患者への医療サービスの向上につなげることができた。歯科診療への問い合わせの電話対応においては、顔が見えない分、丁寧な対応を心掛け、心配り、心配りに配慮している。
2. 医科歯科診療連携においては、誤嚥性肺炎予防のために歯科クリーニング、患者の口腔内の困りごとへの対応、口腔内の衛生改善などを行い、食べる喜びを感じる環境を整え、栄養状態の回復を目指す活動に取り組むことができた。
3. 全身麻酔を受ける患者に対しては、外科、整形外科、麻酔科と連携して術前に口腔内の確認をすることで、安心・安全に手術が受けられるように取り組み、術前から術後のトータル管理に取り組めた。
この取り組みは退院後の歯科外来受診にもつなげることができた。

4. 6カ所のグループホームを定期的に毎月訪問し口腔内管理を行うことで、口腔衛生管理加算の点数拡充に貢献できた。また、施設利用者の口腔内に変化があった場合には、施設職員と連携し治療が行えるように歯科外来受診を行った。

3 今後の課題

1. さらなる医科歯科連携の強化を図り、口腔ケアの重要性を周知することで患者の早期回復、術後の合併症予防に努め、患者に寄り添った治療の提供を行う。
2. 施設訪問では、利用者がこれからも、しっかりかんで食べる「お口づくり」に取り組む。
3. 病院内併設の歯科の強みを生かし、口腔・健康管理のトータルで利用のQOLの向上に努めるべく自己研鑽していきたいと思う。

(文責：歯科衛生士 濱田 身奈)

事務部



事務部長
中嶋 光宏

2023（令和5）年度の事務部門は、年度当初に以下の目標と取り組みを掲げ、業務遂行に努めました。



1 事務・独立部門の方針

1. 事務部・人事総務部・独立部門が相互に必要な情報を共有し協力し合う。
2. 細木病院の取り組み（院長方針）にコミットする。
3. “強い部門” “頼られる部門” “情報発信する部門”を目指す。
4. 常に当事者意識を持ち、“チェンジ・チャレンジ”する。
5. 働きやすく、働き甲斐のある職場環境を目指す。

2 2023（令和5）年度 事務・独立部門の取り組み

1. 患者満足度向上を目指した取り組み強化
 - ①患者満足度調査の定時実施と具体的な対応策の検討および実行
 - ②職員の接遇リーダー育成と接遇レベルの向上
 - ③本館1Fの受付・待合の拡充とER・有熟者外来の環境整備に伴うポストコロナに向けた機能とホスピタリティの向上
 - ④ホームページの全面リニューアル
2. 安心安全な働きやすい職場環境づくり
 - ①職員の給与規程および人事考課制度の見直し
 - ②職員満足度調査の定時実施と具体的な対応策の検討および実行
 - ③防災対策の強化に向けた取り組み⇒『大規模災害訓練』と『北館中棟の耐震補強事業』の実施
 - ④時間外勤務の削減と有給取得率の向上
 - ⑤建物内のスペース見直しによる有効活用の推進
3. 経営基盤の安定に向けた取り組み強化
 - ①入院増患プロジェクトの本格始動と具体的施策の実行
 - ②物品管理のデジタル化による一元管理の推進
 - ③医療消耗品の価格管理の推進と徹底
 - ④『院内感染対策室』の体制強化と職員感染対策リーダーの育成
 - ⑤サイバーセキュリティ対応の強化

3 取り組みとその成果

2023（令和5）年度は、前年度に引き続き、コロナ禍（特にオミクロン株の猛威）での難しい病院運営を求められた1年でした。その中で、以下の取り組みを推進し成果につながるよう努めています。

- ①患者満足度の向上を目指した診療体制の整備・強化
 - ・ポストコロナに向けた機能とホスピタリティの向上に取り組むため、本館1階患者受付・待合・ER・有熟外来・各病棟のリフォームに着手し、ハード面の整備を進めている。
 - ・患者満足度を継続的に数値化するため（株）ケアコムとの協力を得ながら、患者体験価値に伴うアンケートの継続実施と評価・対応に取り組み、成果につながるよう努めた。
 - ・ホームページのリニューアルに取り組み、それに伴う診療機能の整理にも着手し、患者への分かりやすい情報発信と広報強化に取り組んだ。
 - ・内科外来枠の整理、本館1階のリフォーム（外来再来機や自動精算機などの配置を再検討し、見直し）、待ち時間への運用上での工夫などに取り組み、動線の適正化を図り、外来の混雑回避や待ち時間への解消に向け、努めた。
 - ・国際おもてなし協会の指導により、各部門から21名の接遇リーダー育成と継続的な全職員に向けた教育研修に取り組み、進めている。
- ②職員の働きやすく働き甲斐のある職場づくりと働き方改革の推進
 - ・職員に対して、分かりにくいとの反省から、（株）日本経営の協力を得ながら、職員給与規程および人事考課制度の抜本的見直しに取り組んでいる。
 - ・精神科当直体制の廃止を実施する。
- ③経営基盤の安定と強化
 - ・入院増患プロジェクトによる6つのWG（救急、外来、病院連携、在宅／高齢者施設、精神科、ベツ

トコントロール)を中心に各入院ルートごとの増患への具体的な取り組みを進め、成果につなげている。

- ・入院収益の増収対策として、夜間帯の救急車受け入れの整備として、検査部門や事務部門を21時30分までの常駐を実施する。
- ・救急患者に対する入院提案の徹底として、レスパイト入院や念のため入院による短期入院奨励に取り組む。
- ・救急車受け入れ促進として、消防局・消防署へ当院の強みとする救急対象患者の説明に取り組む。
- ・南3病棟を障害者病棟から急性期病棟へ転換し、機能のレベルアップにより、急性期患者の受け入れ体制を拡充することで収益アップに取り組む。

・物品・材料購入WGを立ち上げ、物品・材料の価格見直しに取り組んでいる。

④感染対策の対応強化

- ・院内感染対策室では新興感染症などの流行時に備えて、感染管理専門看護師を1名から2名体制とし、体制強化を図る。
- ・今後の新興感染症などの流行に対応できるよう当該病棟を感染症患者受け入れ病棟へ転換できる運用に整備する。
- ・コロナ5類化に伴い、新2・新3病棟の一部空調工事、南3病棟の空調工事、南1・南2病棟の酸素アウトレット工事を実施する。
- ・南1・南2病棟の空調工事の検討中である。

(文責：事務部長 中嶋 光宏)



人事総務課

1 概要

所属長名：尾原 団

構成職員：

事務（人事グループ）	4名
給与グループ	4名
総務グループ	7名
秘書	1名
交換業務	3名
合計人数	19名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1) 人事グループの活動内容

- ・採用や退職、雇用契約に係る各種手続き
- ・昇給、賞与、賃金に係る各種作業全般
- ・障害者・高齢者等雇用状況報告に係る各種手続き
- ・職員人事考課に係る作業全般
- ・福利厚生、人材派遣に係る各種手続き 他
- ・年報に係る調整作業全般

2) 給与グループの活動内容

- ・給与システムDX（給与明細クラウド電子管理）への準備
- ・給与、賞与に係る作業全般（支給計算・明細書印字・社会保険の手続きなど）
- ・年末調整に係る各種作業
- ・人事データに係る入力作業
- ・職員の労務管理全般（有休・欠勤・遅刻・早退・産休・育休・傷病・休職など）
- ・退職金計算に係る各種作業
- ・看護・介護職員処遇改善に係る実績集計・各種作業 他

3) 総務グループの活動内容

- ・労働災害、福利厚生施設に係る作業

- ・消防訓練・災害通信訓練・災害対応に係る作業
- ・院内保育・病後児保育に係る各種届け出作業
- ・理事長、院長、医局に係る秘書業務全般および役員給与に係る作業全般
- ・ドクターカー運転手業務、業務車両管理
- ・ほそぎ10分ミーティング運営や各種会議場設営に係る作業全般
- ・院内の工事・清掃等業者調整業務、防犯に係る作業
- ・ストレスチェック事務作業全般
- ・院内掲示物に関する作業全般
- ・電話交換業務に係る作業全般
- ・さまざまな部署より受けた依頼への対応 他

1. 令和6年4月より実施する給与明細書電子化に向けた準備を実施。令和6年1月より事前給与明細電子化移行を行い、円滑に給与明細DX化を進めた。
2. 年2回の消防訓練を実施。シェイクアウト訓練(参加者411名)や毎月実施される高知市災害通信訓

練を行った。令和5年7月21日上町地区共同で開催した細木病院地震体験訓練では、起震車や炊き出し訓練を行った。令和5年10月12日には消防署立ち入り調査対応を行った。

- 令和6年1月18～21日の3日間、第6回職員作品展覧会を細木病院新館地下1回高行記念講堂で開催し運営に関わった。
- 令和6年1月30・31日ハートセンター庇増設工事、令和5年6月21～30日グループホーム介援隊解体工事を担当し、現場の管理調整を行った。
- 高知県知事選挙・高知市長選挙など各種選挙の不在者投票を各市町村と調整を行い実施した。

3 今後の課題

令和6年4月より細木病院職員給与明細が電子化される。その準備段階として給与グループ森田主任を筆頭に給与明細電子化準備を円滑に行い、令和6年4月からの本格導入に対応していく。また、年2回の消防訓練も行ったが、大規模災害への備えが十分整備ではないため、今後今ある体制を強化できるよう人事総務課として関わっていく。人事総務課内の連携についても業務に漏れのないようお互い確認し合う体制を強化していく。

■ 令和5年度 給与・採用・退職者処理人数 (15日締めで集計)

令和5年度	給与処理人数*1	採用者	退職者	病欠・休職者*2
4月	919	45	23	27
5月	912	13	12	20
6月	914	15	6	22
7月	917	10	9	23
8月	911	7	15	27
9月	912	15	13	30
10月	912	10	7	27
11月	911	9	5	28
12月	911	9	8	29
1月	908	6	8	31
2月	908	15	9	36
3月	904	9	16	37
合計	10,939	163	131	337

単位：人

※1：役員、三愛、あうん高知は含まない

※2：病欠・求職者数は給与処理人数に含まない

(文責：人事総務課長 尾原 団)

医事課

1 概要

所属長名：萩野 益照

構成職員：

本院	20名
（課長 1名	
係長 1名	
主任 1名）	
こころの医事課	4名
（主任 1名）	
派遣職員	7名
合計人数	31名



細木病院 医事課

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 人事交流などによる新しい意見や考え方を取り入れた業務改善に取り組む
- コミュニケーションスキルの構築と接遇能力向上を目指し患者満足および職員満足度につなげる
- 延滞未収金の回収率の向上
- 専門職としての技術を身に付けスペシャリストを目指す
- 感染症全般に対して、基本的感染対策の徹底
- 働きやすい職場環境の構築

離職者が出るも入職者に関しては、レセプト業務・会計入力業務経験者の補充もでき、また、レセプト業



こころのセンター こころ医事課

務の見直しによって超過勤務時間もわずかながら減少できた。接遇についてもワーキング活動の強化で成果が出つつある。延滞未収金に関しては、調停などの実

施で回収率向上に一定の効果は出ている。また、教育に関しては、体制が十分ではなく今後の課題である。

③今後の課題

1. 医事課は、「病院の顔」であるということを十分認識し、「細木でよかった」と思っていたかのように日々努めていく。
2. 働きやすい職場環境、教育体制の構築により業務

の効率化、スキルアップを図り超過勤務時間削減と有給休暇取得率アップを実現させていく。

3. 自動精算機、患者番号呼び出し表示導入に続き、6年度は、自動再来受付機、POSレジの更新、後払いシステムの導入を予定しており、なお一層の待ち時間の短縮を目指す。

(文責：医事課長 萩野 益照)



用度課

①概要

所属長名：村田 真

構成職員：事務 3名

派遣社員 1名

合計人数 4名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 令和5年度5月に新型コロナウイルスが第5類感染症に移行されたことに伴い、プラスチック手袋・プラスチックガウン・サージカルマスクなどの防護衣関連品の価格はコロナ前に戻りつつある。しかしながら、東欧の情勢不安からの原材料および原油高騰などの影響や、外国為替市場での円安が続いていることもあり、診療材料・一般消耗品共に多くの商品でコストアップとなった。そのため前年度に引き続き、同等・同仕様品の安価な商品への変更や商材の見直しを行い、コストダウンを図った。
2. 2020（令和2）年より確保してきた防護衣関連品の備蓄在庫を、新型コロナウイルスの第5類移行と院内での感染が落ち着いたこともあり、約2カ月分から約1カ月分に見直しを行った。余剰在庫分を通常の払出に回したことにより、業者への発注数が一時的に抑えられたため、約110万円のコストダウンとなった。
3. インボイス制度（適格請求書等保存方式）と電子帳簿保存法が始まったことにより、請求書の突合作業が大きく変化した。電子請求書対応業者のリストアップとチェック表の作成を行うなどし、人事総務部・財務課への支払指示報告に抜かりがないように努めた。また、電子請求書の電子保管だけでなく、適格請求書に該当する領収書や納品書



などの保管も必要となったため、保管方法別のマニュアル作りが課題となっている。

③今後の課題

1. 令和6年度も円安が続いており、原材料および原油高騰や物価上昇に歯止めが利かない状況となっている。コスト削減を図るのに厳しい状況であるが、新しく発足された物品・材料管理WGの中で、診療材料物品の見直しや商品の標準化、業者への価格交渉などによるコストダウンを図り、病院運営に貢献していきたい。
2. WEB上で請求できる「消耗品管理システム」利用部署は8割程になったが、未だ紙伝票での請求もあるため、アナログ作業とデジタル作業の両方を行っており、発注業務に多くの時間を割いている。発注業務のデジタル化を目指し、将来的に全ての部署に消耗品管理システムの利用をしてもらえよう取り組んでいく。
3. 請求書突合業務の工程が増えたことや、退職による人員不足で業務が回っていないのが現状である。早急に課員の補充を要請し、業務の分散化を行い、働きやすい職場環境となるよう体制を整えたい。

(文責：用度課主任 松枝 恭子)



施設課

1 概要

所属長名：真鍋 誠	
構成職員：技能員	3名
運転手・技能員	1名
運転手	4名
合計人数	8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院方針による建物改築を行う
2023（令和5）年度も改築改装工事が多くあった。
主な工事をあげてみた。

- ・前年度から工事を行っていたハートセンター1階の増築工事が4月に完成した。主に心臓リハビリテーション室部分が広がった。
- ・本館6階に「美容皮膚科」を6月に開設することになり、それにともなって6階東側の部屋を美容皮膚科に改装した。
- ・本館4階に「こえと嚙下のセンター」を開設することになり耳鼻咽喉科の改装工事を行った。どの改築改装も、なるべく診療に影響がないように工程を立てて工事を行った。工事完了後にも追加工事などの依頼があり対応した。他にも小さな改装などはたくさんあった。

随分前から計画していた北館中棟の耐震工事が始まった。それにともない現在の歯科や厨房などのスペースが工事中には使えないので、その間は他の場所での業務となる。工事中の仮スペースの確保や各機器の移設などの作業があり苦労した。北館中棟はもちろん北館N棟と北館南棟も工事の音や振動もある中での通常通りの病院業務なので患者や職員にも迷惑をかけている。

2. 老朽化している設備機器の更新
ここ数年かけて新館と南館のエアコン更新を行ったが、病院全体ではまだまだ古いエアコンが多く



あり、故障しても修理部品のない機種のエアコンもありその都度取り替えを行った。

3 今後の課題

耐震工事完了後には、以前から検討している北館中棟の全館空調機を個別エアコンに更新したいと考えている。

今年度も改築改装がたくさんあった。次年度も改築改装があると思うので、病院の意向を聞き工事内容を業者に連絡し相談しながら工事を進めていきたいと思う。

（文責：施設課長 真鍋 誠）



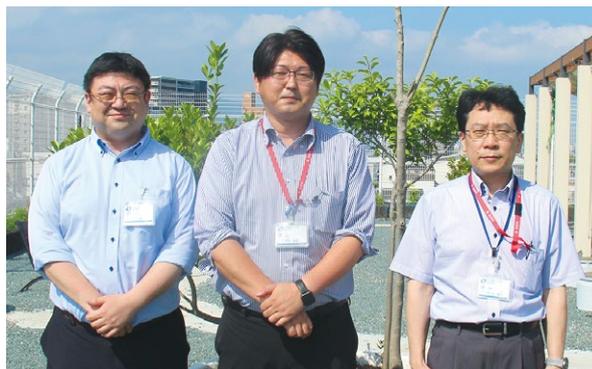
情報システム管理課

1 概要

所属長名：前田 卓郎	
構成職員：システム担当	3名
合計人数	3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 電子カルテシステム・院内PC保守
日々・月次の集計作業、電子カルテシステムのハード面を含めた運用サポート、院内PCなどの保守作業を行いました。今年度も引き続き院内PCの



性能が低いものに関しては内部部品の交換を行うことで費用を抑えることができました。

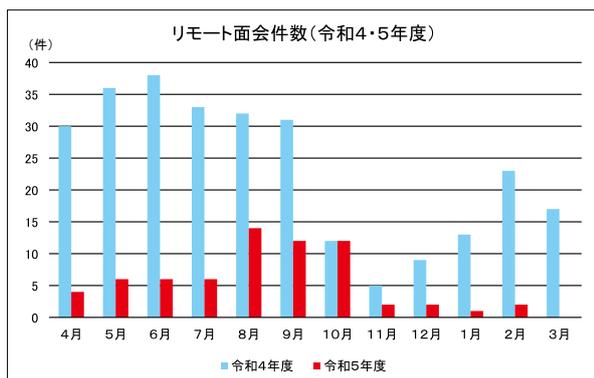
- Web会議・リモート面会対応
院内・院外のWeb会議などや講習動画の投稿およびWebアンケートの作成作業を行いました。院内アンケートはWebアンケートに移行しており、ペーパーレス化・集計作業の短縮に非常に有効なツールとなっています。
- 情報セキュリティ対策
電子カルテシステムの保守で使用する遠隔操作回線について、詳細な資料化および各ベンダーに対して遠隔操作機器の確認などを行いました。

■ リモート面会件数

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	30	36	38	33	32	31	12	5	9	13	23	17	279
令和5年度	4	6	6	6	14	12	12	2	2	1	2	0	67

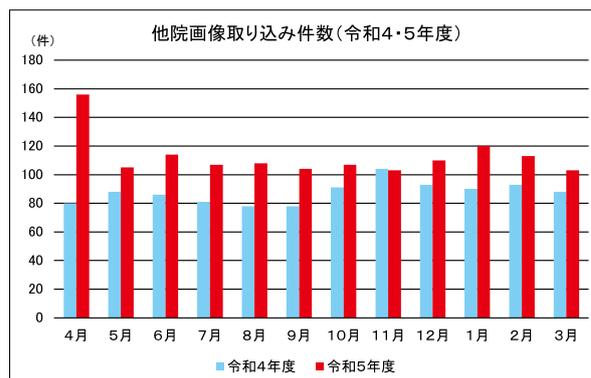
■ 他院画像取り込み件数

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	80	88	86	81	78	78	91	104	93	90	93	88	1,050
令和5年度	156	105	114	107	108	104	107	103	110	120	113	103	1,350



3 今後の課題

- サイバー攻撃対策
電子カルテシステムに対するサイバー攻撃対策の一環として、サイバー攻撃を想定した事業継続計画(BCP)の早期策定を行っていく。
- 院内IT推進・強化
医療DX推進に向けた情報収集を行い、ハード・ソフトの両面で医療従事者の負担軽減を図っていく。また、院内ネットワーク上のPC機器を管理・セキュリティ保護を進めていくため、資源管理ソフトの導入・運用整備を行っていく。



(文責：主任 前田 卓郎)



臨床支援課

1 概要

所属長名：門田 美紀
構成職員：医療秘書 11名
合計人数 11名

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 臨床支援課業務の強化
 - 書類作成のプロセス改善を行い、一部の書類ではあるが効率化に向けての取り組みを行うことができた。
 - 各チーム業務改善についての取り組みを行い目標達成できており、その後の業務に活用するこ



とができている。

2.人材育成

- 専門性を深化・拡大するため、レベル別に応じ

たスモールステップとして研修会やセミナーなどに参加している。また、当課キャリアパスに地方もしくは全国レベルでの学会発表を盛り込んだ。今後も研究力や発表能力を養い高めていきたい。そのほか、新採用者に対する採用後1・3・6カ月の具体的目標に対するチェックシートを活用も開始した。

- (2)臨床支援業務のアウトカムの場として、医師事務作業補助者協会全国学術集会で1演題を発表することができた。
- (3)月1回の勉強会を継続し、医療秘書としてさまざまな知識やスキル獲得の涵養に務めることができた。
- (4)チーム力を高めるために課内グループワークとしてコンセンサスゲームを企画、実施し、チームで業務を行う大切さを学ぶことができた。

3 今後の課題

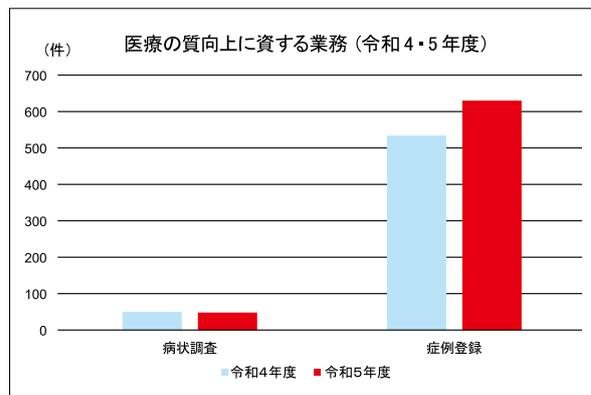
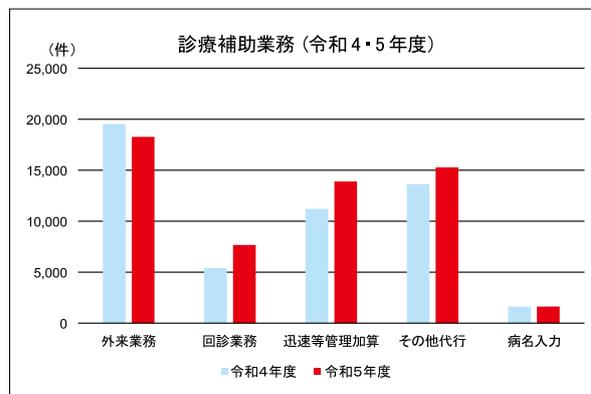
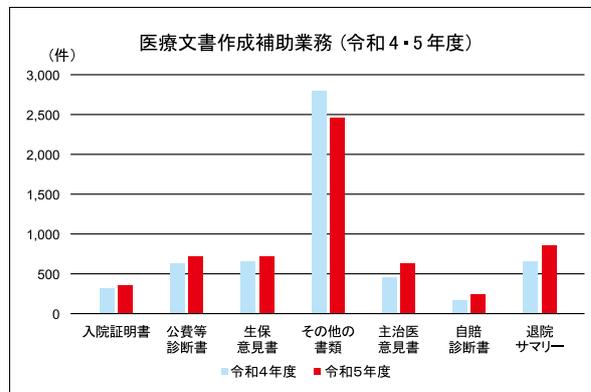
多種多様化する業務に対して生産性を高めるため、業務の効率化・標準化に努めている。また、業務改善について、毎年度、全チームが意欲的に課題に向き合

■ 2023(令和5)年度 臨床支援課 業務実績

業務分類	項目	令和4年度	令和5年度
医療文書作成補助	入院証明書	320	356
	公費等診断書	637	723
	生保意見書	658	726
	その他の書類	2,804	2,461
	主治医意見書	455	630
	自賠診断書	168	239
	退院サマリー	661	857
診療補助	外来業務	19,531	18,272
	回診業務	5,402	7,668
	迅速等管理加算	11,211	13,894
	その他代行	13,634	15,275
	病名入力	1,627	1,629
医療の質向上に資する業務	病状調査	50	48
	症例登録	534	630

い達成できており、スタッフの取り組みが定着してきたと感じる。

昨年実施した業務棚卸を基に当課キャリアパスの見直しを行い、レベル別のスモールステップの提示を目指していたが、残念ながら今期それらを行うことは難しく、引き続き今後の課題としたい。



(文責：臨床支援課長 門田 美紀)



診療情報課

1 概要

所属長名：古谷 英理

構成職員：

事務員 7名

(うち診療情報管理士 3名)

合計人数 7名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 医療の質を見守る専門職としての知識と行動力を身につけ、新しい概念・知識・技術などにも柔軟な対応力を持つ。
2. 医療や他の分野から多くの情報を正しく理解・吸収し、病院経営に対して専門職としての貢献を目指す。
3. 課内全体の業務把握、洗い出しを行い、課としての業務工程表の立案を行う。

DPCコーディング、データ提出を通じ、医師、多職種との連携によるコミュニケーション力の構築を図り、また、意見交換することによる知識の習得、判断力強化となり、柔軟な対応が可能となっている。

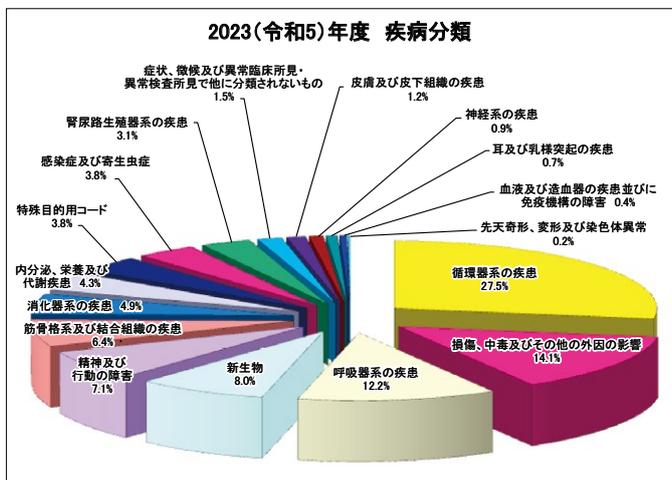
DPC委員会では、データを活用した協議が行えており、在院日数短縮による機能係数アップの取り組みを行った。

今年度は、第19回日本マネージメント学会高知県支部学術集会で、『退院時サマリーの退院後14日以内作成率100%と質的向上を目指して』にて演題発表を行った。また、同演題にて院内学術集会で発表ができ優秀賞を受賞。学会での発表を経験す

ることで業務の見直し、考え方の共有ができており課内の環境改善にもつながった。また、知識、スキルを深めることができています。

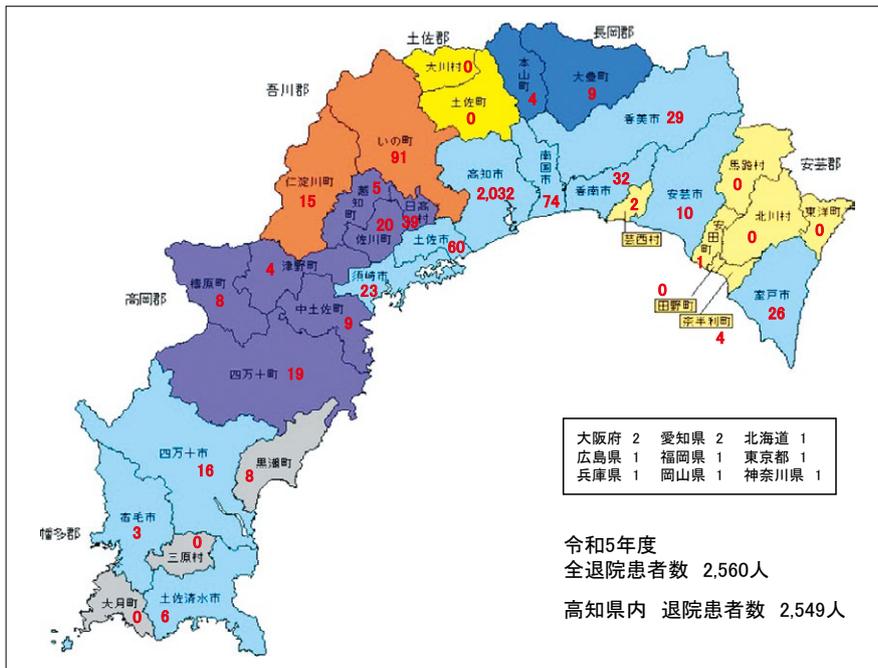
3 今後の課題

1. 診療情報課の業務は専門性を含め多岐にわたる。業務の洗い出しを行い可視化し整理することで無駄をなくし、今後はDXを取り入れた業務改善を進めていきたい。
2. 施設基準の届け出は項目ごとに必要な様式が多い。当院の施設基準を深く理解し、適切に運用できる能力が求められる。通知や告示、疑義解釈などを熟知し、他部署とコミュニケーションを密に行い、必要な情報をスムーズに収集できるスキルを身に付けていく必要がある。
3. 院内における患者のカルテや検査記録などの診療情報を点検・管理・収集・分析を専門職とし、多くの情報を正しく理解し病院経営に貢献したいと考える。まず、分析力の強化を行い、病院機能評価を視野にいれ質的向上に努めたい。



令和5年度 ICD10 大分類

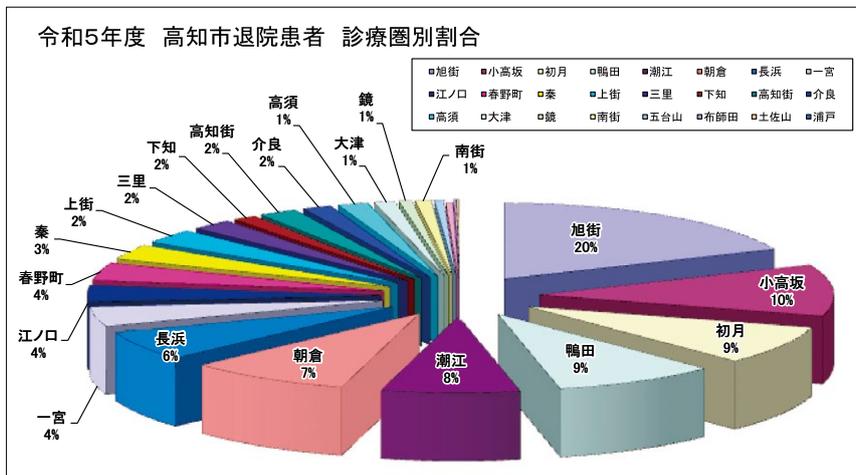
循環器系の疾患	703
損傷、中毒及びその他の外因の影響	360
呼吸器系の疾患	313
新生物	205
精神及び行動の障害	181
筋骨格系及び結合組織の疾患	165
消化器系の疾患	126
内分泌、栄養及び代謝疾患	110
特殊目的用コード	97
感染症及び寄生虫症	96
腎尿路生殖器系の疾患	80
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	39
皮膚及び皮下組織の疾患	30
神経系の疾患	22
耳及び乳突突起の疾患	18
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	11
先天奇形、変形及び染色体異常	4
	2,560



	5年度	4年度
高知市	2,032	1,619
いの町	91	75
南国市	74	60
土佐市	60	38
日高村	39	25
香南市	32	28
香美市	29	25
室戸市	26	17
須崎市	23	26
佐川町	20	16
四万十市	19	12
四万十市	16	7
仁淀川町	15	7
その他(県外)	11	12
安芸市	10	5
大豊町	9	11
中土佐町	9	7
黒潮町	8	5
橋原町	8	2
土佐清水市	6	12
越知町	5	7
奈半利町	4	5
津野町	4	4
本山町	4	1
宿毛市	3	6
芸西村	2	1
安田町	1	1
土佐町	0	1
東洋町	0	1
馬路村	0	1
北川村	0	1
田野町	0	1
大川村	0	1
大月町	0	0
三原村	0	0
その他	0	1
合計	2,560	2,041



	5年度	4年度
旭街	402	300
小高坂	196	177
初月	193	133
鴨田	173	145
潮江	171	123
朝倉	150	145
長浜	126	102
一宮	77	68
江ノ口	76	57
春野町	75	62
秦	71	51
上街	46	49
三里	45	37
下知	43	21
高知街	40	34
介良	32	26
高須	29	27
大津	19	18
鏡	19	11
南街	17	14
五台山	8	8
北街	8	6
布師田	7	2
土佐山	4	2
浦戸	3	1
御豊瀬	2	0
福井	0	0
合計	2,032	1,619



(文責：診療情報課長 古谷 英理)

企画課

1 概要

所属長名：門田 紘和
構成職員：事務員 3名
合計人数 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

2023（令和5）年度の企画課は、新・事務部門体制の移行に伴う適合および細木病院の理念の実現ならびに行動計画を達成するために、その作成や進捗管理、各種データの分析を行い、病院全体が最高のパフォーマンスを発揮できるように最大限にサポートを行うことを目標に活動を行った。

主な業務は、①事務部長直轄業務、②経営管理に関する業務、③初期研修医および医学部実習生の研修・実習の事務局業務、④歯科関連業務、⑤広報関連業務（広報課支援含む）などで構成されている。

1. 新・事務部門体制への移行に向けて

2023（令和5）年度の事務部長交代に伴い、企画課は、事務部長方針に適合するため、事務部門の情報整理・課題整理等を行い、事務部長室、人事総務部（課）、企画課との週1回の打ち合わせで、資料提供および提案などを行った。

また、事務部門と入退院サポートセンターとの月1回のミーティングを再開し、事務部長方針や各所属部署からの情報を共有できる体制を再構築し、事務部門の連携強化を図った。

2. 広報領域の強化

2022（令和4）年度に着手したホームページのリニューアルは、2023（令和5）年6月に完成し運用を開始した。

また、今後の広報戦略について、リニューアルしたホームページを基に「細木情報プラットフォーム」をキーワードとし、広報課と連携して週1回の企画会で検討を行った。

企画課は、考え方、ビジネスフレームワーク、院内調整、スケジュール感などの視点から企画提案を行い、広報課は、業者選定、デジタルマーケティングの視点からたたき台となる打ち合わせ資料の作成、アクションプランの策定・実行へつなげた。

また、広報課では、課員が新しくなり、各部署より、講演、見学会、お知らせなどの周知を目的とした、広報物の制作依頼が増加した。ホームページの活用を中心に運用・情報発信を検討し、①ヒアリング、②原稿、写真素材収集、③情報整理、④デザイン制作、⑤校正、⑥完成の手順での作業、ホームペー



ジに掲載など、情報集約および情報発信を行うことができた。

結果、ホームページリニューアルをスタートに、病院パンフレットの見直し、動画作成の検討、チラシなど、広報領域の幅を広げることができ、当院の広報力向上に貢献をした。

3. 2023（令和5）年度医師臨床研修制度

2023（令和5）年度、プログラム責任者とともに研修改善に向けて、同責任者と事務局との定期的な協議の場で、研修の達成度（PGEPOC）の進捗状況やその対応、研修の課題整理、サポート環境の整備に注力した。また、研修担当の業務見直しを行い、マネジメントの視点で携われるように整備を行った。

その結果、臨床研修管理委員会の開催や進行、高知県臨床研修協議会への参加、高知県の研修イベント対応、研修施設との意見交換などスムーズに対応することができた。

4. 歯科での定期ミーティングの開催

歯科の構成メンバーは、診療部と医療技術部により構成されており、日々の業務が忙しくなるとコミュニケーションが取りにくい状況があった。企画課では、コミュニケーション不足を解消するために毎週30分程度の定期ミーティングを開催することを提案し、ファシリテーターとなることで、お互いの考えを理解するだけでなく、診療の方向性のずれの解消に取り組み、結果として過去最高の収益を上げることにつながった。

5. DX化の検討

（1）高知県庁の伴奏支援による連携事業

病院長から高知県庁が伴奏支援をするベンチャー企業との連携事業のご提案があり、企画課が窓口となり検討を開始した。

まずは、現状把握をするため、提案内容、相手企業の考え方、進め方、意見交換に注力した。その結果、AIを活用した医師の負担軽減や不整脈領域での実証実験を進める方針となった。

(2) 事務部門のDXの検討

事務部門の業務量増および人員確保が厳しくなっている現状を鑑み、2023（令和5）年度下期よりDXの検討を開始した。

まず、DXの考え方（DX化、デジタル化、IT化など）、進め方を整理し、対象部署を医事課、人事総務課、診療情報課に絞り、アンケートを実施した。このアンケート結果および限られたIT人材のポジションや連携を勘案し、デジタルツールを選定し、製品検討を行った。

3 今後の課題

1. ホームページリニューアルの今後

ホームページリニューアルに伴い、運用体制、人員体制の検討を行い、①ホームページを軸とした情

報整理、②財産としてのホームページの在り方、③更新業務の効率化を中心に整理し、今後の広報戦略に広報課と連携して進めていきたい。

2. DX化への一歩

2023（令和5）年度に検討した、①高知県庁の伴奏支援による連携事業（2事業）と、②事務部門のDXについて、2024（令和6）年度は“カタチ”にしていき、業務効率化の第一歩へとつなげたい。また、DX視点での働き方の変革や業務見直しができるきっかけになるように、院内で横展開できる仕組みを構築し、DX促進へとつなげたい。

3. 新・事務部門体制化での企画課の深化

2023（令和5）年度は、新・事務部門体制に伴い課内の業務見直しおよび事務部門のサポートに注力した。2024（令和6）年度は、各事務部門の課題整理・集約をし、企画・提案をする“流れ”・“調整”を意識し、事務部門のパフォーマンス向上へとつなげていきたい。

（文責：事務部副部長兼企画課長 門田 紘和）

健康管理センター



健康管理センター部長
森下 延真



内科長
弘瀬 祥子



内科医師
松田 勇蔵



副院長
上地 一平



医局長/外科部長
尾崎 信三



外科医師
中村 衣世



で実施した。福利厚生費からの支出となる職員健診分(10,389,429円)を除いた総収入は61,064,320円(前年比8.4%増)であった。

1 業務内容

①健康診断

全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ)生活習慣病予防健診、事業主健診(企業健診)、人間ドック、特定健康診査(特定健診)、高知市の乳がん検診、子宮頸がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検査、診断書、福寿園、あかねの里への出張健診など

②職員健診

細木病院職員の定期健康診断、新採用者、中途採用者の健診、ストレスチェックの実施

③予防接種業務

細木職員のB型肝炎ワクチン接種など

2 令和5年度の実績

令和5年度の健康管理センターの総業務件数は6,115件(前年比6.6%増)であった。内訳では健診部分が4,529件(前年比5.1%増)、職員健診は1,586件(前年比11.3%増)であった。令和5年度は新たに、軽費老人ホーム「あかねの里」への出張健診を始めることとなった。細木病院職員のB型肝炎ワクチン接種は、新型コロナウイルスのワクチン接種を内科で行う影響で、令和5年度も引き続き健康管理センター

3 まとめ

令和5年度も感染対策を徹底し、健診部門は中断することなく業務を遂行することができた。新型コロナウイルスの影響により令和2年度に大きく減少した健診件数も徐々に回復し、初めて6千件を超えた。当該年度は特にオプション検査に力を入れた効果もあり、総収入も過去最高であった。令和6年度からは働き方改革関連法施行の影響が予想されるが、長時間労働を避けながら、健診の質、量を保つよう、努力していきたい。

4 常勤医師

診察担当

森下 延真、弘瀬 祥子、松田 勇蔵

乳がん検診担当

上地 一平、尾崎 信三、中村 衣世

5 非常勤医師

子宮がん検診担当

松浦 拓也、平川 充保、大黒 太陽、

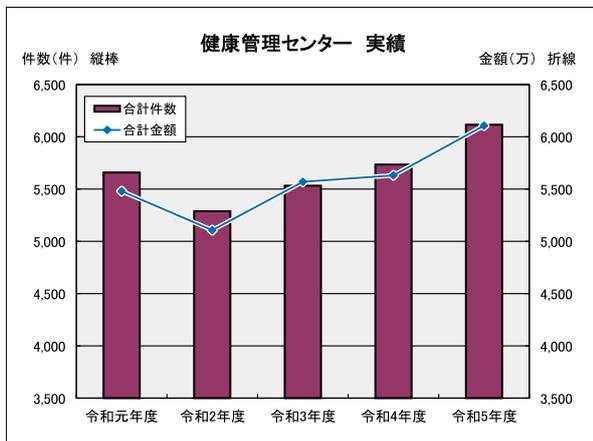
下元 優太(高知大学産婦人科)

健康管理センター 実績 件数

	ドック	協会けんぽ 健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分 小計	予防接種	職員健診	合計件数
令和元年度	247	1,286	1,150	100	639	501	413	0	4,336	8	1,314	5,658
令和2年度	222	1,160	1,110	101	560	461	365	0	3,979	0	1,309	5,288
令和3年度	243	1,222	1,128	115	593	492	375	0	4,168	62	1,302	5,532
令和4年度	241	1,311	1,045	131	583	484	382	0	4,177	132	1,425	5,734
令和5年度	256	1,328	1,144	135	569	510	409	0	4,351	178	1,586	6,115

健康管理センター 実績 金額

	ドック	協会けんぽ 健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分 小計	予防接種	合計金額	職員健診
令和元年度	8,961,001	24,563,874	12,115,144	327,581	2,949,185	2,857,635	2,987,602	0	54,762,022	36,000	54,798,022	9,243,900
令和2年度	8,244,980	22,251,493	12,355,539	228,045	2,713,142	2,628,647	2,647,335	0	51,069,181	0	51,069,181	9,299,162
令和3年度	9,200,615	24,387,634	13,400,626	332,446	2,813,095	2,819,623	2,717,912	0	55,671,951	20,900	55,692,851	9,549,119
令和4年度	9,566,809	25,435,038	12,442,332	436,028	2,721,038	2,876,082	2,784,906	0	56,262,233	48,400	56,310,633	10,215,777
令和5年度	10,489,844	27,548,905	13,979,415	465,296	2,645,075	2,821,838	3,005,267	0	60,955,640	108,680	61,064,320	10,389,429



(文責：健康管理センター部長 森下 延真)

ほそぎ入退院サポートセンター



1 概要

所属長名：西岡 達矢

構成職員：

センター長	医師	1名
副センター長	看護師	1名
入退院サポート室	看護師	3名
	事務員	2名
患者サポート室	社会福祉士	7名
	医療ソーシャルワーカー	2名
	精神保健福祉士	7名
	(出向2名含む)	
	事務員	1名
	合計人数	24名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 細木病院入退院可視化シート活用をすすめ「入院前から入院中、退院に至る切れ目のない質の高い支援」を提供する。

入退院サポートセンターの役割として入退院支援の実践的な支援を担う部署であり患者が住み慣れた地域で生活できるよう整え、また継続した療養のために地域医療機関へつなぐなど、一人ひとりの患者に見合った支援を実施してきた。その支援を可視化シートに適用させながら多職種と患者の状態に応じた退院ゴール設定、支援計画と実践、評価を行う一つのツールとして適応する患者に一部ではあるが実施できた。また、院内のみでなく地域包括支援センターや介護事業所などとも患者の抱える問題にそれぞれの職種の強みを活かしながら協働できたのではないかとと思う。

2024（令和6）年は診療報酬のトリプル改訂を受け、より在宅にシフトしていくことの必要性が問われてくる。そのため、地域とつながることがさらに重要になってくると考えている。それに向け「入退院可視化シート」を活用しながら地域とつながるための支援過程を明確にしつつ患者にできる限りの質の高い支援を多職種でつないでいくことを今後も目指したい。

2. 地域包括ケアを支える医療機関の役割分担と機能分化の促進

ケアミックスを兼ね備えた医療機関として地域のニーズに応え地域完結型医療機関として連携業務としての迅速な対応を実施する

急性期から慢性期、在宅に至るまでの患者紹介の受け入れ窓口としての役割を担っている。紹介元の医療機関や在宅施設からの相談を受け当院への入院、外来受診の調整を実施している。その際には、受診、入院目的を明確にしながらお断りなくそれぞれのニーズが満たされるようにと取り組んでいる。2023（令和5）年度はコロナ感染症も5類に移行したが在宅施設で療養することの困難さからコロナ患者の入院相談もあった。入院中に在宅の生活が維持できなければリハビリを強化しつつ介護サービスなどの調整も必要とされることも多々ある。5類に移行しても感染対策は緩めきれずコロナ感染症以前の日常を取り戻すことは医療の現場では容易ではない。

3 今後の課題

1. 入退院支援部門として入退院可視化シートを活用しながら患者・家族の意思決定を支援し不安なく療養できる環境を多職種協働で整えていく
入退院可視化シートを活用しながら入院前から入院中、入院後を多職種協働で支え整えていくことに努めたい。
2. 医療連携部門として受診、転院（入院）のトリアージを行いながら専門的な医療提供の実施と患者が適切な診療科で適切な時期につながるよう医療機関と連携し調整していく
当院の医療機能を最大限に活かしながら医療機関同士の連携を強化し患者にとって最適で最良の医療が提供されることを目指していく。

（文責：ほそぎ入退院サポートセンター長

西岡 達矢）



入退院サポート室

1 概要

所属長名：永野 亜希子	
構成職員：看護師	4名
精神保健福祉士	1名
事務員	2名
合計人数	7名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 入退院支援事業の促進

本年度も高知県立大学入退院支援事業の地域・病院・多職種協働型入退院の仕組みづくりに看護師1名が参加した。患者が安心して地域に住み続けられるように、入院前から入院中、退院後の生活の切れ目ない支援体制を多職種間で協議を重ね入退院可視化シートを作成した。

本年度は、入退院可視化シートを用いて事例を展開した。途中より看護師の異動に伴い、メンバーとしての直接的な関わりがなくなり振り返りに至らなかった。次年度は、新たな看護師の入職が決定していることから事例の選択や展開、振り返り、入退院可視化シートの見直しに多職種と協働し携わってきたい。

2. 室内の役割担当を変更し、業務の効率化と人材育成をはかる

コロナ禍では体調不良や濃厚接触者などの理由

で、数名の職員が不在となる事態が発生し、業務に一時的に支障をきたした。今後、コロナ感染が5類に移行しても院内の感染対策の大幅な変更はないと考え、業務に支障が起らないよう見直しを図った。また、退院支援専従看護師の業務の最優先させること、入院相談窓口とベッドコントロール対応が可能な看護師の育成の必要性を感じ、紹介・逆紹介を中心で対応していた看護師の業務移管を行った。組織内での協力や本人の意欲も相乗し、3カ月後には一人で業務を実践でき、スキルアップやモチベーションアップにつながった。そして室内全体の柔軟性が向上したことで、必要性に応じて業務の調整が可能になり、効率的な運用が可能になった。次年度は、事務職の業務移管を検討したい。

3 今後の課題

1. 患者が適切な医療を受けられるようにサポートするために、今後も業務の見直しや業務移管を実践する。
2. 患者が安心して地域に住み続けられるように、入院前から入院中、退院後の生活の切れ目ない支援体制づくりを新たなメンバーと多職種と協働し検討したい。

(文責：入退院サポート室 永野 亜希子)



患者サポート室

1 概要

所属長名：佐々木 美知子	
構成職員：社会福祉士	7名
医療ソーシャルワーカー	2名
精神保健福祉士	7名
(出向2名含む)	
事務職員	1名
合計人数	17名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 今年度も、「入院前から入院中、退院後の生活に向け切れ目のない支援体制の推進」を主目標に相談業務を行った。

入退院支援の体制基盤を整えるため、継続して高知県立大学入退院支援事業に医療チームメンバーとして参加し、作成した可視化シートの流れに沿い、具体的に展開した。自宅退院ばかりではなかったが、入院前から地域の支援者と連携し、退院前訪問時には地域のサポート力を体験、実感することができた。

また、感染対策を取りながらwithコロナを踏まえ、患者や家族面接、居宅ケアマネージャーや施設入所前面接、退院前自宅訪問、多職種カンファレンスなど、可能な限り「顔が見える・会える」場面を調整し、リモート面会も有効に活用した。

救急搬送の受け入れ件数の増加に伴い、思いがけず入院療養を余儀なくさせられる方が増加しており、経済的問題調整、荷物や家財・財産管理、家族間の調整や身寄りの希薄な方への介入が増えた。早期より多職種協働し、専門的な介入や関係機関と情報共有や連携しながら、安心して治療を受けられる環境づくりに努めた。

2. ソーシャルワーカーとしての資質向上のため、教育・人づくり

経済的影響によって困難を抱える人々が増える中、社会保障制度の利用や精神的な支援が求められる。病院全体の機能が維持でき、患者・家族の病気や治療、生活上の問題に対し、ソーシャルワーカー

として適切な支援を提供することが必要であり、コミュニケーションスキルやそのための知識が必要であり、人材育成が重要であると考えます。

今年度の部署内の構成員の動向として、退職者2名、新卒者2名の採用があり、教育体制を整え、計画的に指導を行った。相談業務を充実させるため、事務関連の業務改善の取り組みとして、事務職員1名を配置した。

また、感染対策を見据えながら、主任を中心に企画運営し、対面での症例検討会を継続して行うことができた。相談業務を振り返り、まとめ、報告することで報告者も参加者ともに新たな気づきや課題を見出すことができ、ソーシャルワーカー相互研修となっている。

今年度の社会福祉学生実習は、高知県立社会福祉学部5名、聖徳大学通信教育部1名を受入れた。ま

た、高知県立大学社会福祉学部に特別講師として、精神領域で働くソーシャルワーカーの現状について講義を行い、後進の育成の一端を担った。

社会活動として、高知県が主催する地域移行・地域定着支援関係者研修会で、医療機関の立場から地域移行支援の実際について講師を務め、精神科領域で退院促進や地域生活支援の課題など現状報告を行った。

3 今後の課題

社会動向を把握しながら、今後も患者や家族の気持ちに寄り添い、院内外の関係機関や多職種と協働し、生活安定や療養生活のための相談支援や、社会に貢献をしていきたい。

(文責：患者サポート室長 佐々木 美知子)

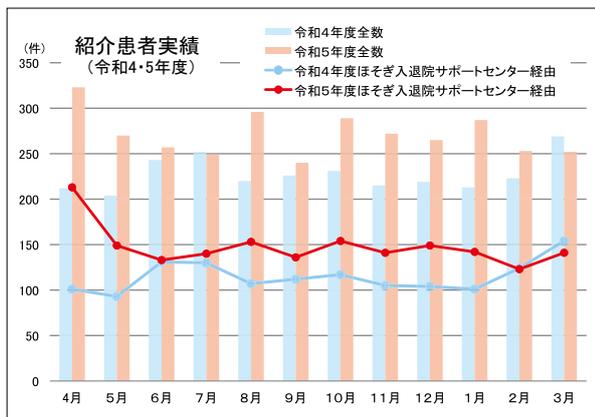
▶▶▶ 診療実績・業務実績統計

ほそぎ入退院サポートセンター

■ 紹介患者実績

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度比(%)
令和5年度	全数	323	270	257	249	296	240	289	272	265	287	253	252	3,253	119.3
	ほそぎ入退院サポートセンター経由	213	149	133	140	153	136	154	141	149	142	123	141	1,774	128.6
令和4年度	全数	212	204	243	252	220	226	231	215	219	213	223	269	2,727	105.4
	ほそぎ入退院サポートセンター経由	101	93	131	130	107	112	117	105	104	101	124	154	1,379	93.9



在宅部



在宅部長
廣井 三紀

1 概要

所属長名：廣井 三紀	
構成職員：看護師	44名
理学療法士	8名
作業療法士	5名
言語聴覚士	1名
精神保健福祉士	1名
介護職	115名
事務員	4名
調理員	3名
運転手	1名
合計人数	182名



GHの家族や利用者には、入居時のみならず定期的にACPへの聞き取りを行い、その人らしく人生を全うできるような関わりを続けている。

インシデント事例は、毎月全事業所のレポートをまとめて、全事業所が事故事例を共有できており、各事業所の安全対策に役立てている。GHさくらんぼには、県の補助金を活用して「眠りスキャンとeyeカメラ」を導入することができた。それにより、入居者の安全管理と睡眠状態の把握を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、夜間における職員の精神的負担や業務負担の軽減につなげることもできている。インターナショナルリレーション協同組合の仲介で、ミャンマーからの技能実習生を3名受け入れて、GH3カ所での勤務が開始した。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり。

- ①働きやすい職場に向けて、良好な人間関係を保ち、日頃から気づきを言い合える。
- ②丁寧語で会話する習慣をつけて接遇の向上を図る。
- ③知識の習得、適切な判断能力を養うため、全員が院内外の研修会や学会に計画的積極的に参加し、研修内容を職員間で共有し、質の高い看護・介護を提供する。
- ④全職員が、ACPを理解し、利用者を支援できる。
- ⑤インシデント0レベルの報告書を事業所の中で共有していき事故防止に取り組む。
- ⑥業務の効率化を図り、時間外労働の削減をする。

【評価】毎朝、ZOOMにて全事業所との顔合わせを行い、周知事項の伝達や各事業所の困りごとなどを情報共有し、日頃から、お互いに言い合える関係づくりを構築してきた。点在する事業所間での情報共有手段としては、LINE NETWORKSを導入し、効率のかつ迅速な対応ができている。また、管理職が管轄する組織を見直し、身近に職員の悩みなどを聞き、運営に関することの対応ができた。丁寧な言葉遣いについては、慣れが生じてくるとどうしても雑になってくるので、継続して気を付けるようにしていきたい。

院外の研修においては、新たに防災士の資格を取得することができた職員もあり、在宅部には、現時点で合計20名の防災士が在籍している。

2. 健全で安定した事業所の運営をする。

- ①病院や院外の事業所との連携を取り、在宅部の利用者増・実績増につなげる。
- ②介護保険の改定に向けた情報を理解し、各事業所が目標値を意識し戦略的に経営に取り組む。
- ③とりあえず入院する目的のナースカーの活用で、在宅利用者の安定した生活を支援していきながら、細木病院の運営に貢献する。
- ④大規模災害発生時BCP、感染症発生時BCPを全員が認識し継続して取り組める。
- ⑤事業所の広報、情報発信を適切に実行する。

【評価】毎月の在宅部会では、経営戦略的な知識を得るために、都司副部長が講義をして、介護保険以外の知識を付けることができていた。田村事務主任が、動画を作成しYouTubeにアップし、事業所の取り組みは、多方面に公表できていた。年間のナースカー利用者は16件、入院応需率は100%で、利用者の安心・安全を図るとともに病院経営にも貢献することができた。在宅部の大規模災害発生時BCPマニュアルを改訂し、毎月全職

員が災害伝言ダイヤルを利用し、在宅部対策本部への情報集約訓練を実施している。高知県南海トラフ地震対策優良取組事業所の認定更新も受理され、今年度も5つ星認定を受けた。さくらんぼのビルは、福祉避難所の指定を受け、防災備品の設置が完了した。災害時には高知市とも連携を取りながら、対応していく。新型コロナウイルスは、GHひだかの里、GH西町、GHさくらんぼ、DS赤とんぼ、DCゆうゆうでクラスター発生したが、事業所間で協力し乗り越えた。感染症の発生時には、感染症発生時BCPマニュアルを活用できている。

3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

- ①細木病院の理念のもと、地域づくりに貢献できるように、ネットワークを広げ幅広い視野でさまざまな機関や人と良好なつながりを持つ。
- ②出前講座を広めて実施し地域の住民力向上につな

げる。

【評価】事業所主体の秋祭りやバザーの開催、よさこい祭りでは、升形競演場の支援を実施し、地域に貢献した。また、城西中学校とは、協働してバザーを実施したり、支援センターが城西中学校1年・2年生に対して認知症サポーター養成講座を開いたりして協働して地域づくりができた。今年度は、休止していた認知症予防のさくらんぼサロンを再開することができ、毎月定例開催を実施している。まっこと出前講座は例年を大きく上回り、約80件実施。口コミで評判を得て、多くの依頼を受けて継続実施できている。

③今後の課題

1. 働きやすい環境を調整し、人材の確保をしていく。
2. 長期的な視点で検討し、ダウンサイジングも視野に入れ、効率的な事業所運営をしていく。

(文責：在宅部長・副院長兼務 廣井 三紀)



ニャンでも相談センター (旧 まっことネット細木)

①概要

所属長名：副院長兼在宅部長 廣井 三紀
構成職員：パート勤務員（ケアマネジャー） 1名
合計人数 1名

②活動内容・目標に対する達成状況

各種の活動を通じて地域へ貢献することが、ひいては細木病院の広報となり、地域に根差した支援をすることが求められている。特に出前講座は大変人気があり昨年は26件であったが、今年度は79件もの要請があり増加し、講座内容も多岐にわたりDr、Ns、PT、STなどの専門職により実施でき、地域からの期待に貢献できた。

その他デイサービス赤とんぼの季節に応じた新鮮な野菜を栽培し、利用者の方の副食としても食べていただいた。あまりの野菜類（大根、サツマイモ、ジャガイモ、玉ねぎ、ナス、山芋、きゅうり、インゲン、オクラなど）は安価で販売し、職員や地域の方に喜んでいただいている。

【職員主体の活動】

- ①介護相談：月、木の9時から16時まで電話や面談で介護相談に対応し、その後は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などにつないだ。月、木以外の平日は在宅事務で対応している。
- ②マインドフルネス：一瞬を無の状態に捉え、呼吸法に集中するというこの活動は年間10回実施し、66名の参加がみられた。
- ③生け花教室：月1回の実施で79名の参加者であ

たが、生け花の難しさを感じながらも楽しくされていた。

- ④北館庭園に車椅子用通路開設：廣井副院長兼在宅部長発案で院長承諾の下、庭園に車椅子移動可能な通路を廣井部長含む5人で完成。費用は業者見積32万円の所をセメント、砂などの原材料のみで1万円弱で仕上がった。その後、庭や花壇などの除草等作業は継続して行っている。新鮮な空気を吸いながら高知城や市内を眺め休憩するなどして活用していただきたい。
- ⑤職員持ち寄りの品々でバザー開催：当日は城西中学生の作品の出店をいただき、大勢の方がみえられた。ほとんどの品物が完売し、当初の予定より早い店じまいとなった。
- ⑥ミャンマー研修生宿舍の北側の空き地を畑に開墾：野菜類の栽培を開始し、研修生の生活の一助になればと思い、玉ねぎやジャガイモ、にんにく、ピーマン、唐辛子、ナス、さつまいも、キュウリ、もちきびなどを栽培中である。

【地域主体の活動】

イキイキ百歳体操：月、木の週2回実施しているが、月曜は祝日の振り替えなどの休みや体調不良などで休まれる方がおられ、1回の平均参加者は5～6人であった。

③今後の課題

- ①出前講座は広報の効果が見られ今後多くの依頼が予想される。

②百歳体操の参加者は体調不良などで休止される方が増え、しかも隣にも会場があるため、参加者の増加は期待薄く、地域包括支援センターなどによる参加促進を依頼するなど、周知活動を行う必要があると

考える。

(文責：介護支援専門員 山本 剛光)



ケアサポートセンターほそぎ

1 概要

所属長名：木村 まり

構成職員：ケアマネージャー 6名

合計人数 6名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり。

①地域包括ケアシステムの考え方に基づいた、ケアマネジメントが実践できる。令和5年度当初、169件の実績から、令和6年1月には、184件まで実績が上がっている。また、法人内調整率も毎月80%前後を維持している。うち、包括支援センターと連携により、高知街・上町・小高坂地区に的を絞り対応しており、令和5年度は、24件紹介を受けて対応させていただいた。

②各自が医療・介護・福祉など幅広い分野で知識を習得し、質の高いケアマネジメントが実践できる。院内の研修に加えて院外研修やブロック会などの研修にも積極的に参加して各ケアマネが、自己研鑽に努めることができた。

③アドバンスケアプランニングについて理解を深め、マネジメントに生かすことができる。アドバンスケアプランニングについて研修で学んだことを、実際に末期がんの利用者を受け持った際に生かし、年間4件の在宅看取りを支援した。

④法令遵守を徹底し、インシデント0レベルの報告書を出し、事業所内で共有することで事故防止につなげる。0レベル1件・1レベル1件事業所内で事業所内で共有し、対策を検討した。

2. 健全で安定した事業所運営を効率的に行う。

①病院や他事業所との連携を強化し、在宅の利用者数・実績増につなげる。

病気で休職している職員がいるため、担当できる利用者数が減っているが、新しいケアマネを迎え実績増に取り組んでおり、令和5年3月の稼働率95.5%・法人内調整率80%を達成している。

②各事業所の実績の推移を把握し、安定した経営状態が維持できるように入退院サポートセンターや各事業所との間で密に連携をとる。



ケアマネが不足しており、新件依頼依頼を受けられないこともあったが、新しいケアマネの獲得に取り組み、入退院サポートセンターや各事業所とも連携していくことができた。

③地域包括支援センターが実施する事例検討会に参加する。地域包括支援センターの実施する事例検討会に参加している。

3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

①他事業所の災害訓練などに積極的に参加・協力する。グループホームでの避難訓練に参加させていただいた。

②独居高齢者や高齢者世帯への災害への備えの提案や避難場所の確認を行う。新規契約の際に、避難場所や津波避難ビルの確認をご本人やご家族と行っている。

また、高知市の要配慮者避難支援対策事業の委託を受け、対象者66人を受け、そのうち、20人の計画策定や計画の見直し、同意の取得などを行った。

③地域の高齢者の在宅生活を支えるために、支援センターやナースカーなどと連携し、スムーズに医療が受けられるよう、柔軟に対応することができる。ナースカーでは、独居の高齢者や家族が病院へ連れていけない利用者の入院に柔軟に対応していただき、地域の高齢者のスムーズな入院ができています。

3 今後の課題

1. 地域包括ケアシステムの考え方に基づいた、質の高いケアマネジメントが実践できるように、各自が医療・介護・福祉など幅広い分野で自己研鑽に努めます。
職場環境を整備し良好な人間関係を維持することで働きやすい職場となるようにします。
2. 健全で安定した事業所運営を効率的に行うために、各事業所の実績の推移を把握し、安定した経営状態が維持できるように入退院サポートセンターや各事業所との間で連携を密にします。法令遵守を徹底し、インシデント0レベルの報告書を出し、事業所内で共有することで事故防止につな

げることができるようにします。

3. 大規模災害や感染症発生時もサービスが継続できるよう、職員ひとり一人がBCPを意識して行動できるよう訓練に参加するだけでなく、独居高齢者や高齢者世帯への災害への備えの提案や避難場所の確認を行います。また、地域の高齢者の在宅生活を支えるために、支援センターやナースカーなどと連携し、スムーズに医療が受けられるよう、病院や訪問看護などとの連携に努めます。

(文責:ケアサポートセンターほそぎ主任

木村 まり)



訪問看護ステーションほそぎ

1 概要

所属長名：谷脇 貴美子

構成職員：

看護師	6名
在宅看護専門看護師	1名（非常勤）
理学療法士	5名（非常勤）
作業療法士	2名（常勤・非常勤）
言語聴覚士	1名（非常勤）
合計人数	15名



2 活動内容・目標に対する達成状況

目標1 個別性を尊重した質の高い看護サービスを展開するとともに責任と思いやりのある在宅ケアを目指す。

- ①利用者、家族の主体性、価値観を尊重した看護計画を立案し、展開、評価していく。
- ②カンファレンスや多職種との連携を通して専門性を活かしたサービスを展開する。
- ③知識の習得、適切な判断能力を養うため、院内外の研修会や学会に積極的に参加し、スタッフ間で共有を行い現場に活かす。
- ④利用者の立場にたち人としての尊厳、権利を尊重したケア介入を提供する。
- ⑤ACPを理解し利用者に支援する。

評価

・高齢者および医療処置の必要のある独居の方が多く、状態に合わせた看護が求められている。また精神科の利用者の方も幻聴や妄想に左右され不安な状況で生活を強いられている。そのためその利用者の方々が自分らしく自宅で生活ができ、何を訪問看護に求めているのかを念頭に置き、看護計画を立案、展開し、専門性を活かした在宅ケアサービスを行うことに努めた。また1年間に7名の在宅看取りにも携わることができ、主治医や多職種と連携した個別ケアにも取り組み、ACPを活用

した支援に努めた。

目標2 安全性を考慮しながら早期発見、事故防止に努め、具体的な解決策をアセスメントしチームケアを継続する

- ①利用者のADL維持、QOL向上に向けてリスクマネジメントを行いながら看護を統一し、チームケアを実践する。
- ②精神看護・フィジカルアセスメント・コミュニケーションスキルを高めながらチームでの情報共有を密にし、異常時の迅速な対応に努める。
- ③インシデント0レベルの報告書を出し事業所内で共有し事故防止に努める。

評価

・安全性を考慮しながらチームケアに取り組むことはできていたと思われる。高齢者は病状や状態が変化しやすく早期発見、早期の対処にてアセスメントに努めており、また褥瘡発生リスクの高い利用者にも主治医と連携しケアに取り組むことでほぼ治癒に結び付けることができた。精神科の利用者さんに対してもちょっとした症状の変化に気付き多職種と連携を取りながら入院に結び付けるこ

とができた。今後もアセスメントしながら自分たちのスキルを上げ職務に努めたい。

目標3 効率的、効果的な事業所運営を行うとともに働きやすい職場づくりを構築し、地域包括システムにも貢献する

- ① 1カ月の訪問件数1人80件を目指し、新件を獲得していく。
- ② 多職種との情報共有を密にし、スタッフ間で助け合いながら効率的な業務を行う。
- ③ 院内外のカンファレンスや研修会、感染対策をしながら可能な限り参加し、多機関多職種との交流を図り広報へとつなげていく。
- ④ 働きやすい職場に向けて良好な人間関係を保ちながら日頃から気づきを言い合えるようになる。
- ⑤ BCPに基づいた防災および感染対策の知識を高めながら安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを持つ。

評価

- ・ 1カ月あたりの訪問件数は557件と目標数に達成することができた。また新件確保に向け、他職種と連携し患者サポート室に出向くことで新件利用者が増えることにつながることができた。これも

スタッフ間での情報共有しながら助け合い、また、一丸となって取り組めた結果と思われる。

③今後の課題

1. 地域事業の定着
今現在も独居で必要な医療を受けられず自宅での引きこもりをしているケースや孤独死が後を絶たない。一人でも多くの方を病院につなげ、治療を行うことができるように地域包括支援センターと連携し社会に帰れるように支援をする。その後も多職種と連携しながら“その人らしさ”を大事にして関わりを持っていく。
2. 訪問看護の拡大
訪問診療開設にあたり医師および多職種と連携を取り、訪問利用者、ターミナルの利用者を積極的に受け入れ実績増につなげる。
3. BCPに基づいた防災および感染対策の知識を高めながら、地域に目を向け、防災活動に参加し、安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを持つ。

(文責:訪問看護ステーションほそぎ主任

谷脇 貴美子)



訪問リハビリテーション

①概要

所属長名：
リハビリテーション課長
藤本 弘昭
管理者名：橋田 寿恵
構成職員：
理学療法士（PT）3名
作業療法士（OT）2名
言語聴覚士（ST）1名
合計人数 6名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 健全で安定した事業所運営と働きやすい職場づくり
 - ① 訪問看護との情報共有や相談、検討など連携が強化され、退院直後で不安のある利用者へ特別指示で訪問し、安心して在宅生活が送れるよう支援ができた。また、在宅で療養されている指定難病の利用者に対しても訪問看護と連携することができ、利用者が増加した。
 - ② 前年度に比べ、新件獲得数が減少し、特に当院からの依頼件数が10件減となった。
 - ③ 今季の訪問件数目標を一人当たり4.5件/日とし477件/月としていたが、平均485件/月の実績が上げられ達成率102%となった。

- ④ 訪問リハ終了者の一定数が目標達成し、活動参加へつながったことで次年度の移行支援加算を取得できる結果となった。
- ⑤ 訪問看護や通所リハとの連携を行い、在宅の利用者の生活動作の改善に取り組んだ。要支援者に関しては身体機能の維持、改善した方が一定数おり、次年度、事業所評価加算を取得できることとなった。
- ⑥ 上半期、急な職員の長期休暇があり勤務調整に苦慮したが、平均74.2%の有給を取得することができた。
- ⑦ 新件獲得のためパンフレットを更新し、YouTubeを活用し広報を行った。
2. 在宅リハ機能の充実と質の向上
 - ① 毎日必ず夕礼を実施し、利用者の状態を職員で共

有し、困難事例に対しては検討を行い、より良いサービス提供ができるよう取り組めた。

- ②リハビリテーションマネジメント加算を取得できたケースは1件のみであったが、リハビリテーション会議では、利用者とその家族の他、医師を含めて情報共有や目標の設定が行えた。
 - ③令和6年度の介護報酬改定に向けて、情報共有を行い次年度の取り組みを検討した。
3. 感染症対策と事業継続
- ①COVID-19に感染した職員がいたが、それ以上感染を拡大することがないよう日頃の感染対策を行いPPE着脱の練習などを行った。
 - ②繁忙期にも新件を断ることなく事業継続を行った。
4. 地域貢献
- ①訪問C型サービス事業では9人の方に訪問した。活動内容を訪問C型サービス事業研修会で発表した。

3 今後の課題

1. 令和6年度の改定では、さらに医療介護連携の強化が求められている。医師との連携を強化し、退院前カンファレンスへの参加や情報共有を引き続き行っていく。また、リハビリテーション・機能訓練・口腔・栄養の一体的取り組みが示されており、当院の強みである『言語聴覚士の常勤配置』を活かし、歯科医とも積極的に連携を取っていく。
2. 当院退院後、生活混乱期にある利用者に対し、積極的に関わっていただけるようリハビリテーション課全体で取り組めるよう医療在宅連携を進めていく。
3. リハビリテーションマネジメント加算を取得できるようリハビリテーション会議を開催し、LIFEへの登録を進めていく。
4. 利用者へのサービス提供を充実するため、土曜日開設の準備を進めていく。

(文責：リハビリテーション課在宅担当係長
橋田 寿恵)



ホームヘルプステーション城西

1 概要

所属長名：高島 恵美子
 構成職員：介護福祉士 7名
 ヘルパー2級 1名
 合計人数 8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 働きやすい事業所運営に努める。
 評価：職場環境を良くし、職員の満足度も上げていく。利用者の情報共有を行い不安なく支援が行えるように都度話し合いをしてきた。
2. 他部署との連携を図り利用者に安心、安全、なサービスが提供できる。
 評価：利用者の知りえた情報や困りごとをケアマネ、多職種との連携を図ってスムーズに解決に導くようにしてきた。
 何より利用者本位の支援が実施されるように傾聴、話しやすい状況を作れたと思っている。介護技術や研修を行い認知症の利用者の対応も学んでいる。
3. 事業所実績 増を意識した運営ができる。
 評価：事業所の毎月の実績を月例会で伝達目標値の意識を持ち、実績につながるようキャンセルの振り替えも行えている。



3 今後の課題

1. 新人職員の教育、経験年数が長い職員も研修参加をして知識の獲得を行う。認知症の理解対応、また、障害、精神疾患の利用者の対応策も学んでいくようにしていきたい。
2. 新人職員に限らず、各個人で連携が取りにくい職員にも責任を持ち利用者に関わることの連絡体制が持てるようにしていきたい。
3. 部会での資料の回覧や事業所目標を一人ひとりが意識して新件獲得に向け協力体制が持てるよう意識改革を行いたい。

(文責：ホームヘルプステーション城西 主任
高島 恵美子)



通所リハビリテーション ゆうゆう

1 概要

所属長名：	主任兼介護福祉士 佐伯 智恵子
構成職員：	理学療法士 1名 作業療法士 1名 言語聴覚士 1名 看護師 3名 (うち1名はパート) 介護福祉士 10名 事務 1名 合計人数 17名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 要支援1から要介護5の認定を受けた利用者が通所し、利用者一人ひとりの生活水準に合わせた目標を定め、安定した在宅生活が送れるようにリハビリ計画を立てて実践しています。リハビリ職員による自宅訪問や退院後の短期集中リハビリを行い、スムーズな在宅生活への移行を支援したり、失禁予防体操や転倒予防体操、筋力トレーニング、個々の距離にあった屋外歩行訓練などを行い、身体機能の回復や維持・向上を図っています。また、小集団活動やレクリエーション・行事、外部講師による華道や絵画教室、机上作業では折り紙や貼り絵・習字などの集団活動も行っています。
- 今年度の目標として、①「安心で信頼される質の高い看護、介護サービスの提供と働きやすい笑顔あふれる職場づくり」では職員間の声掛けや気づきを言い合いながら情報共有に努め、各研修に参加することで知識の習得に努めます。また、利用

者や職員の笑顔を大切にしてお互いに協力しあえる職場づくりをしていきます。②「健全で安定した事業の運営を行う」では地域の方や居宅介護支援所への営業活動・チラシ配りなどを行っています。現在も感染対策を行った座席配置にしており若干定員は少なくなってきたものの、利用者数は増えており実績は増加となっています。③「安心して生活できる、地域をまきこむかわりをしていく」では防災訓練を継続して行い、BCPも継続的に見直していきます。

3 今後の課題

引き続き新規利用者の開拓とニーズに応じた事情運営を行いつつ、「今日もゆうゆうに来て楽しかった」と思ってもらえるようより良いサービスの提供を目指して職員一同笑顔と元気で頑張っていきます。

(文責：管理者代行 佐伯 智恵子)



デイサービス赤とんぼ

1 概要

所属長名：	溝淵 万希子
構成職員：	管理者、相談員、介護福祉士兼務 1名 看護師、機能訓練員兼務 2名 准看護師、機能訓練員兼務 1名 介護福祉士 2名 調理員 1名 合計人数 7名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
認知症と診断された要介護1～5までの利用者さ

まが来所され、午前中は入浴や個別機能訓練、集団体操、作業活動や脳トレーニングを中心に、午

後は風景を楽しみながらの散歩やレクリエーションを行い利用者さま同士の交流を図っている。また、施設の南隣にある『赤とんぼ農園』で採れた野菜の下ごしらえをしていただいたり、その野菜を昼食で提供するなど、利用者さまに楽しみや喜びを感じていただける工夫をしている。

2. 目標に対する達成状況

- ①安全で信頼される接遇を意識した、質の高い看護・介護サービスを提供する。

日頃から丁寧語での会話を心掛け、院内外の研修に参加し、研修内容を職場内で共有しサービスの向上に努めた。

- ②健全で安定した事業所の運営をする。

居宅介護支援事業所に広報活動や地域でポスティングに回ったが、新規を増やすことができず、ま

た利用者さまの介護医療院や施設へ入所のための中止が相次ぎ、実績の減少が続いた。

- ③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

利用者さまと一緒に地域の防災訓練に参加したり、朝晩の挨拶を地域の方々とすることにつながりを保っている。

3 今後の課題

職員一人ひとりが専門職としての自覚を持ち、認知症ケアにつながる知識と技術向上のため、研修会に参加し、また、利用者さまやご家族の気持ちに寄り添った看護、介護を提供していく。

(文責：デイサービス赤とんぼ 溝渕 万希子)



デイサービスさくらんぼ

1 概要

所属長名：山口 三喜

構成職員：

管理者(相談員・看護師・機能訓練員兼任)	1名
看護師(機能訓練員兼任)	2名
介護福祉士	4名
調理員	1名
運転者	1名
合計人数	9名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

利用者さん、ご家族からも“さくらんぼで良かった”と心から思っていたいただける事業所を目指し、日々職員一同個々の状態に合わせた機能訓練・集団体操・日常生活の支援継続維持に取り組んでいます。コロナ禍で休止していた外部講師の先生2名の健康体操・書道も復活開始しました。さくらんぼ祭りやさくらんぼカフェも再開し、地域の方々・ご家族さま方の参加協力のもと、毎月第2金曜日14:00～15:00までさくらんぼサロンと名を改め、ボランティア活動をされている多種多様な方々をお迎えして開催させていただいています。少しずつ定着にて参加していただいている方々から「次回を楽しみにしています」と声掛けが聞かれるようになってきています。これからも感染対策を行いながら継続活動を行いたいと思います。

2. 目的に対する達成状況

- ①安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり

【評価】お互いの人格を尊重し合い、言葉掛けやすい雰囲気・相談しやすい環境づくりを心掛け、

良好な関係性を築けるよう取り組みました。利用者さん・ご家族さまの思いに寄り添い共に在宅生活継続が一日でも長くできるよう、ケアマネ・支援センター・施設関係者の方々と些細なことでも情報共有し提供できたと思います。

- ②健全で安定した事業所の運営をする。

【評価】内外の介護事業所の運営方法を参考に、利用者さん・ご家族・担当ケアマネ・各事業所間への情報共有を心掛け、手紙・お便り・電話で発信し実績増へつなげることはできた。入院や・コロナ感染により実績が落ちた月もあるが、職員一同で実績増へつないでいく意識を高く取り組む努力はできた。

- ③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

【評価】認知症カフェを改めさくらんぼサロンと名称変更し、地域住民の方々・ご家族・支援センター・社会協議会の方々などの支援・協力をいただき、しばらく中止していた活動が再開することができました。その後毎月第2金曜日に実施できています。まだ何かと準備・行事予定計

画などは不慣れではありますが、地域住民・ご家族さま方が参加していただき地域ネットワークにつながりを持つことができたと思います。さくらんぼ祭りも無事再開することができました。また、津波避難ビルとしての役割認識、地域住民と相互協力できるよう、GH・DS合同防災訓練も年内2回実施することができ、今後も継続して取り組んでいきます。

3 今後の課題

1. 感染対策・クラスター発生予防強化の意識づけ・事前の予防処置を、職員一同で対策確認・反省・修正・

実践・情報共有を密に取り合い、安全な事業所を目指す。また、職場の良好な人間関係を保てるよう気配り・気づきなどを話し合える職場を目指す。

2. 全職員が自然災害・人為的災害なども含めた危機管理意識を高く、利用者・職員間の体調変化を見逃さず、安定した業績を保てるよう全職員で事業所運営を行い、充実した介護力をつけていく。定期的に災害対策への備蓄品の準備・再確認をしながら災害時に備え「津波避難ビル」と「福祉避難所」しての充実化を図る。

(文責：デイサービスさくらんぼ主任 山口 三喜)



グループホーム「ハッピー万々」「西町」「さくらんぼ」「赤とんぼ」

1 概要

所属長名：堀本 佐知

構成職員：

管理者(介護福祉士)	5名(堀本含む)
介護支援専門員(介護福祉士)	4名
看護師	4名
(訪問看護ステーション兼務)	1名
(ハッピー万々・赤とんぼ兼務)	1名
(デイサービス赤とんぼ兼務)	1名
(在宅部兼務)	1名
介護福祉士	28名
ヘルパー	17名
(技能実習生3名含む)	
調理員	1名
合計人数	59名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
新型コロナ5類移行に伴い利用者の生活も活気が戻りつつ、ご家族に会える楽しみも増え、外出の機会も多くなった。施設内では役割参加やレクリエーションの充実を図り、調理や園芸、創作活動に取り組んだ。日課の散歩や機能訓練も継続できている。
2. 目標達成状況
地域運営推進会議も開催でき、地域の祭りに参加するなど地域交流もできた。働きやすい職場づくりに努め、気づきが言い合える関係の構築に努めた。
新たに複数の職員が防災士資格取得で災害時対応の意識が向上している。

3 それぞれのホームのトピック

- 【西町】技能実習生を受け入れ、介護技術、知識を習得できるように取り組んでいる。
- 【さくらんぼ】福祉避難所としての協定締結に向けて



グループホーム「ハッピー万々」



グループホーム「西町」



グループホーム「さくらんぼ」

地域住民と共に災害対策に取り組んだ。

【赤とんぼ】コロナ禍で制限があった家族との交流が再開し利用者の心の豊かさを実感した。

【ハッピー万々】4事業所でコロナ感染があり身をもって感染対策を実感した。迅速な協力体制に言葉にならない感謝であった。

4 今後の課題

1. 職員の高齢化と介護の担い手不足により介護負担が大きくなっている。介護職員の着任と定着が大きな課題である。
2. 利用者が安全で安心な生活を継続するため、災害対策、感染対策、医療機関との連携など専門職としての知識と技術の向上に全職員で取り組まなければならぬ。



グループホーム「赤とんぼ」

れなければならない。

(文責：グループホーム担当係長 堀本 佐知)



精神障害者グループホーム「介援隊」「やまもも寮」「介援隊2」

1 概要

所属長名：坂本 万理

構成職員：

管理者兼サービス管理責任者	1名
世話人（内1名グループホーム西町兼任）	5名
生活支援員（患者サポート室兼任）	1名
合計人数	7名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 利用者の権利を擁護し、グループホームで安心して生活を送れる支援を提供する。

【評価】職員全員、院内の研修参加はできた。院外の研修会の一部の職員だが少しずつ参加が増えてきている。

利用者への声掛け、職員同士の会話は丁寧語で話すことを意識し、習慣になっている。

就労に関しては個々の状態に合わせた事業所の利用の支援ができた。今後も継続する。

2. 各利用者の障害や疾患の特性を理解し、個性を重視した支援を行う。

【評価】在宅部内の研修会でACPの理解を深めることができた。職員間でも話す機会となった。利用者へリビングウイル（事前指示書）の意向確認をした際、終末期にどういった対応を希望しているか確認することができた。今後も利用者の希望を確認していく。

3. グループホームのBCP活動に取り組み、大規模災害、感染症発生時に備えて今後できる準備をしていく。

【評価】グループホーム内で感染症発生があり、感染症発生時BCPを活用しながら対応することが



できた。今後も大規模災害発生時BCP、感染症発生時BCPを職員全員で確認し対応へつなげていく。

現在、アクションカードの作成中のため訓練に活用することができていない。次年度、防災訓練時に活用する。利用者、職員ともに災害伝言ダイヤルの訓練を実施できた。

3 今後の課題

1. 利用者の権利を尊重し、専門職として知識の習得、適切な判断能力を養うため、院内外の研修会や学会の情報収集し積極的に参加する。また、職員は丁寧語で会話をすることを習慣づけ、接遇の向上に努める。就労について情報収集し、個々の利用者にあった就労支援を進める。
2. 利用者の障害や疾患の特性を理解し、将来利用者が希望する生活へつながる支援を検討する。職員全員でACPの理解を深め利用者支援に取り入れる。
3. 大規模災害発生時BCP、感染症発生時BCPを

職員全員が認識し継続して取り組む。自部署のアクションカードを防災訓練時に活用する。在宅部の情報集約訓練を通じて、職員間の災害時対応や

意識向上に努める。

(文責：施設管理者 坂本 万理)



デイサービス いちご学校

1 概要

所属長名：浅井 文	
構成職員：管理者（相談員、介護福祉士兼務）	1名
看護師	1名
介護福祉士	4名
理学療法士	1名
作業療法士	1名
合計人数	8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

コロナが5類に移行し、感染対策に留意しながら文書開催だった運営推進会議を再開した。

また、イチゴいちえと合同で2年ぶりにバザーを開催し地域交流にも努め、まっこと出前講座やボランティアによる演奏会などにも力をいれた。

2. 目標に対する達成状況

①安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり

【評価】

ZOOMミーティングや毎月の職員会で意見を出し合い、情報共有し業務の効率化と良好な人間関係の構築に努めた。接遇も意識し気持ちよく利用者者に過ごしてもらえよう職員同士で声を掛けあっている。

②健全で安定した事業所の運営をする

【評価】

職員間で毎月の実績を共有し、キャンセルの振り替え利用の提案や担当者会での新件依頼、居宅介



護支援事業所への営業訪問や施設へ事業所PR活動を行った。

③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする

【評価】

定期的に催し物を開催し、地域住民の参加を呼び掛けるとともにイチゴいちえと合同で防災訓練を実施し連携強化にも努めている。

3 今後の課題

いちご学校周辺は通所系サービスの激戦区となっている。

営業活動継続するとともに地域で選ばれるデイサービスを目指して、在宅生活を支援するデイサービスとして取り組んでいきたい。

(文責：デイサービスいちご学校主任 浅井 文)



サービス付き高齢者向け住宅「イチゴいちえ」

1 概要

所属長名：大泉 太一	
構成職員：管理者 理学療法士	1名
看護師	3名
介護福祉士	1名
ヘルパー	3名
合計人数	8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

(活動内容)

コロナが5類移行になったが、感染予



防のための施設内の消毒や職員・入居者のマスク着用、手指消毒の徹底に取り組んだ。運営懇談会で出た案件に対応しQOL向上に努めた。また、入居者の健康状態を維持、改善するためリハビリ体操や脳トレ、折り紙教室などを行った。

(目標に対する達成状況)

1. 安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり。

- ①日々の業務の中で意見を出し合える人間関係を継続し業務の効率化と良好な人間関係をする。
- ②職員間・入居者への言葉遣いに気を付け接遇の向上を図る。
- ③院内外の研修に積極的に参加し、職員間で情報共有することで看護・介護の質の向上を図る。
- ④ACPについて全員が理解し、入居者・家族の意思確認を支援する。
- ⑤インシデント0レベルの情報共有し、事故防止に取り組む。

(評価)

職員間や入居者・家族、関係機関との情報交換を密に行った。研修会に積極的に参加し看護・介護の質の向上を共有することを目指した。接遇については親しき中にも礼儀ありを意識し、職員間、入居者・家族に対し丁寧な言葉遣いや対応が行えた。研修については院内研修に積極的に参加できた。出前講座には入居者と参加ができ、入居者の健康意識向上にもつながった。

インシデントの情報を全員で共有することによって事故防止に取り組めた。

2. 健全で安定した事業所の運営をする。

- ①関連事業所と連携し、空室情報を共有し入居者増につなげていく。
- ②職員一人ひとりが目標値を意識し広報活動に取り組む。
- ③入居者が安心して生活できるようナースカーを活用していく。
- ④災害や感染症対策のBCPが効率的に活用できるよう職員全員がマニュアルを理解する。
- ⑤特定施設入居者生活介護に向けて、準備を行うにあたり、勉強会を開催し理解を深める。

(評価)

空室状況を把握し、職員が協力し各事業所に

パンフレットを用いて広報活動に取り組んだ。利用者の日々の体調確認を行い、在宅部と情報共有し病院受診につなげることができた。

令和6年1月にコロナ陽性者が4名出たが、マニュアルを活用しながら職員で協力し、無事収束することができた。

防災訓練を定期的実施し、防災対策の講演を受けることで災害に対しての意識づけと行動方針の見直しをすることができた。

特定施設入居者生活介護の準備では、資料を集め学習し理解を深める。

3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

- ①地域住民と共に防災訓練を行い、災害時に対応できるよう良好な関係を継続していく。
- ②出前講座やボランティアのネットワークを活用し、入居者と地域住民の交流を図る。

(評価)

出前講座へ入居者と参加ができ、デイサービス合同でのバザーを実施し地域住民との交流を図ることができた。また、緊急時に連携を図ることが必要となる災害防災訓練はデイサービスと合同で行い、地域住民の方も足を運んでいただき交流と連携が図れた。

3 今後の課題

入居者の高齢化に伴い、身体機能・認知機能の変化があり、入院や介護が必要になったということを経験し他の施設へ移行するケースが増えてきた。入居者の健康管理およびリハビリ体操を継続し、少しでも長く健康に生活できるよう支援していく。新規の入居者の確保を行うため、広報活動を実施し地域のニーズを把握できるよう努める。施設見学から入居につながるよう、提供サービスの充実を図り事業所をPRしていきたい。

引き続きBCPを意識し業務に従事する。災害避難場所および福祉避難所として十分な機能を果たせるように地域と密着し、受け入れができる体制を整えるため防災訓練を計画・実施する。

(文責：サービス付き高齢者向け住宅

「イチゴいちえ」管理者 大泉 太一)



高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター

1 概要

所属長名：在宅部長・センター長
廣井 三紀

構成職員：

看護師・介護支援専門員	1名
主任介護支援専門員	1名
社会福祉士・介護支援専門員	1名
生活支援コーディネーター・理学療法士	1名
介護支援専門員	1名
合計人数	5名



2 活動内容・目標に対する達成状況

上街・高知街・小高坂地域の住民の皆さんの身近な相談窓口として、介護や生活に関する全般的な相談対応、権利擁護、虐待防止支援、介護予防活動の普及・啓発、地域のネットワークづくりなどの業務に携わっている。令和5年度より地域をサポートする生活支援コーディネーター1名、要支援のケアプランナー1名が増員となった。

1. 専門的な機能が発揮できるように新しい情報や幅広い知識を習得し、チーム一丸となって、住民の対応やACPへの意識向上に取り組む

【評価】想いをかなえるノート活用11件・リビングウイル活用3件・成年後見人活用支援5件・日常生活自立支援事業活用支援6件などチームで協力して住民の相談対応の展開ができた。

2. BCPを全員が理解し、地域の防災意識向上への関わりや訪問時に地震対策を意識して取り組む。

【評価】毎月の机上訓練実施・在宅部ビルでの訓練参加・近隣のGHの訓練に参加するとともに、生活支援コーディネーターが防災士の資格を取得し、地域での防災フェアの支援・参加を実施した。また、介護予防のプランナーは担当者会議で利用者の避難所や避難場所の情報提供に取り組んだ。

高知市の災害対策の一環として在宅酸素療法の個別避難計画作成に協力実施した。

3. 住み慣れた地域でいきいきと住み続けられるよう、介護予防の推進、地域住民によるネットワークの開発、各関係機関の連携強化を支援する。

【評価】新屋敷サロン、小高坂サロン継続支援。さくらんぼサロン再開支援。

さき編みサロン開催協力・地域内のまっこと出前講座開催協力実施、城西中学校との交流イベント（oneforall in城西中）に参画、B型事業立ち上げ相談（クリーニング店）や山の端マップ作り、小高坂小学校ほおっちょけん学習協力、

民生委員さんの協力で向こう3件両隣り運動を再開できた。

上街百歳体操会場での栄養改善活動実施協力。認知症サポーター養成講座を3カ所で開催（高知福祉専門学校・ヤクルト・城西中学校）、また、県立大、社協、基幹包括、細木病院在宅部、ボランティアの協力のもと、土曜の永国カフェが立ち上がった。

4. 地域ケア会議や地域の活動を通じ、地域が抱える課題の把握、理解、解決に向けて地域住民や関係機関と共に取り組む。

【評価】井口町：集いの場・上町：買い物⇒高齢者の買い物状況をアンケートで把握予定。

八反町・上町：ACP（想いを叶えるノート）取り組みなど地域の課題が明らかとなり今後住民と協力して課題解決に取り組む。

3 今後の課題

1. コロナが5類となり、地域での活動が元に戻りつつあるが、止まっていた時間に再開不能となった活動もある。令和5年度より配置された生活支援コーディネーターを中心に、今後は、地域の課題や住民のニーズを把握し、地域資源の開発、地域の組織づくりに取り組んでいきたい。また、地域や親族との関係性が希薄化した独居高齢者も増加しているため、日頃からACPへの取り組みや地域との良好な関係が築ける橋渡しを心掛け、支援を行う必要があると考える。
2. 地域の防災フェスタの開催支援や地震対策に関しての呼び掛けを継続し、高知市の災害対策、在宅酸素療法の個別避難計画作成だけでなく、一人での避難が難しい方、身寄りが居ない方など、個別支援が必要な方の把握、避難計画作成が必要である。

（文責 高知市上街・高知街・小高坂
地域包括支援センター 主任 中居 江美）

委員会

定例会	診療運営会議
	経営会議
	医局会議
委員会	倫理委員会 ⇒臨床倫理部会
	診療記録開示検討委員会
	臨床研修管理委員会
	医療安全管理委員会 ⇒医療安全管理室会
	⇒医療安全推進委員会
	院内感染対策委員会 ⇒ICT委員会
	大規模災害対策委員会
	医療ガス安全・管理委員会
	臨床検査適正化委員会
	褥瘡対策委員会
	身体抑制委員会
	NST委員会

委員会	リハビリテーション委員会
	回復期リハ棟システム委員会 ⇒回復期リハプロセス委員会 ⇒脳卒中パス委員会
	栄養管理委員会
	外来診療運営委員会
	ハートセンター運営委員会
	心臓リハビリテーション委員会
	情報システム委員会
	診療情報管理委員会
	DPC管理委員会
	手術麻酔管理委員会
	輸血療法委員会
	薬事委員会
	図書委員会
	安全衛生委員会
	健康管理センター運営委員会
	救急委員会

委員会	地域連携推進委員会
	虐待等対策委員会
	化学療法委員会
	サービス向上委員会
	福利厚生委員会
	院内行動制限最小化委員会
	職員研修委員会
	医療放射線管理委員会
	新型コロナ対策チーム会
DCT委員会	
こころのセンター運営委員会	
仁生会全体	仁生会事務部門委員会
	仁生会広報委員会
	仁生会教育委員会
	仁生会人事制度委員会
	仁生会在宅ネットワーク委員会
仁生会年報編集委員会	

※上記の「⇒」は、委員会の下部組織です。



医療安全管理委員会 / 医療安全管理室

1 2023 (令和5) 年度目的・目標

- 安全な医療・介護を提供できるよう安全管理体制の構築を図る。
 - 情報収集・分析・改善策を立案し職員へフィードバックする。
 - 医療安全巡視を通し危険箇所の発見に努め、改善の提案をする。
 - 医療安全マニュアルの見直し
- 医療安全に関する職員への啓蒙活動を行い安全文化の醸成を図る。
 - 医療安全研修会にて職員教育を行う。
 - 定期的な医療安全巡視を行う。
 - 医療安全情報を提供する。
 - 医療安全推進週間への取り組みを継続する。
- 医療安全対策加算（地域連携加算）協力病院と継続的に連携ができる。



9. 救命処置研修会（ICLSコース4回・BLS講習会21回・「窒息時対応」講習会11回）

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 医療安全管理委員会開催（毎月開催）・緊急対策会議（計3回開催）
- 医療安全管理室会議（50回）
- 医療安全推進委員会（毎月開催）
- 医療安全に関する研修会（6回）
- 院内巡視（在宅部を含む）(毎週)
- 医療安全情報（Webにて12回配）
- マニュアル改定（6月、9月に実施）
- カンファレンスへの参加（計22件）

令和5年度の総報告件数は1,229件で、前年度比102%増であった。内、医師からの報告は全体の約1.5%で昨年度の0.5%から増えている。アクシデントの発生率は前年度と同様2.7%であった。当院の病床数からのインシデント報告数としてはまだまだ十分ではなく、医師からの報告割合としても少ない。ただ、増加傾向ではあり、これからも啓蒙を図りたい。本年度は来年度のインシデントレポートの電子化に向けての準備を整え、来年度からの導入が決定した。電子化により、電子カルテと連動させることが可能となり、レポート作成の手間が大きく削減できる。これにより報告数

の増加が期待できる。また、分析ツールも豊富に備わっており、事例によって最適な分析法を選択することで分析の幅が広がることも期待される。転倒転落のアクシデントが減少しないことへの対策として、看護部を中心にワーキンググループを立ち上げ、リハビリテーション科を含めた他職種で協働し評価を行い、対策を講じる形とした。これにより個々の患者に対してより詳細で的確な評価、対策が可能となり、大きな効果が期待される。

全職員必須の研修は、YouTubeによる動画研修を行い、また、on demandでの視聴が可能な形式としていたが、動画保管場所がわかりにくいという問題点があった。病院全体の研修動画を同一のフォルダに保管する対策を講じ、視聴率の向上に努めた。また、10

分ミーティングでも研修の開始と終了を通知し、視聴率の低い部署も公表することで、一定の効果が得られた。この視聴率においても、医師の視聴率が低く、医師の医療安全意識の向上が大きな課題である。

本年は医療安全管理室に事務担当として関川菜摘さんが加わってくれました。委員会の議事録や医療安全ニュース、研修の資料や動画の作成などを担っていただき、これにより門田管理者は苦手なコンピューター作業から解放され、本来の医療安全業務に集中することができるようになりました。医療安全管理室にとって本年度1番の収穫であったかも知れません。

(文責:医療安全管理委員長 山本 哲史)



院内感染対策委員会／院内感染対策室

1 2023 (令和5) 年度 目的・目標

1. 院内の感染防止対策の強化
 - ① 自部署で感染対策の改善や推進が図れる職員の教育
 - ② 感染管理体制やシステムの見直し
2. クラスターやアウトブレイクの拡大防止
 - ① 各種サーベイランスの充実
 - ② AST活動の推進
 - ③ ワクチン接種の推進



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 院内感染対策委員会 (以下、ICC) および感染対策チーム (以下、ICT) 会議開催
2. 感染対策研修会 (年2回)、AST研修会 (年2回) の開催
3. 薬剤耐性菌、職員感染、アルコール使用量、デバイスサーベイランス、針刺し事故サーベイランス (毎月)
4. 感染情報週報の発行 (毎週)
5. ICTラウンド (週1回)
6. 感染防止対策加算施設との合同カンファレンス開催 (年4回)、施設訪問 (6回)
7. 地域連携加算施設 (加算1施設) との相互訪問 (年1回)
8. 職員のワクチン接種の推進 (インフルエンザ、B型肝炎、コロナウイルスワクチン)
9. 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) による抗菌薬カンファレンス (週1回)
10. 感染リンクスタッフ会の開催 (月1回)
11. 新型コロナウイルス感染症対策

12. 感染管理担当者育成研修 (2023 (令和5) 年7月～2024 (令和6) 年4月)

2023 (令和5) 年5月から新型コロナウイルス感染症 (以下、コロナ) が5類感染症へと移行され、コロナに特化した感染対策ではなく本来必要な標準予防策の感染対策の周知と徹底が課題となった。ここ1～2年程は、MRSAなどの薬剤耐性菌の検出率の増加も課題の一つとなっており、現場主体の感染対策の遵守率向上を目指して、今年度より感染管理担当者育成研修を開催することとした。2023 (令和5) 年度は、当院と感染対策向上加算で連携している施設を含めて院内外で25名が参加し、その内9名の職員が中級コースまで修了できた。受講修了者が自部署の課題解決のための感染対策活動と継続ができれば支援していきたい。2024 (令和6) 年度も育成研修会を開催する予定としており、感染対策チームと協働して対策に貢献できる職員を増やしていきたい。

(文責:院内感染管理者 土居 世知)



認知症対策室／認知症ケアチーム委員会

1) 2023 (令和5) 年度 目的・目標

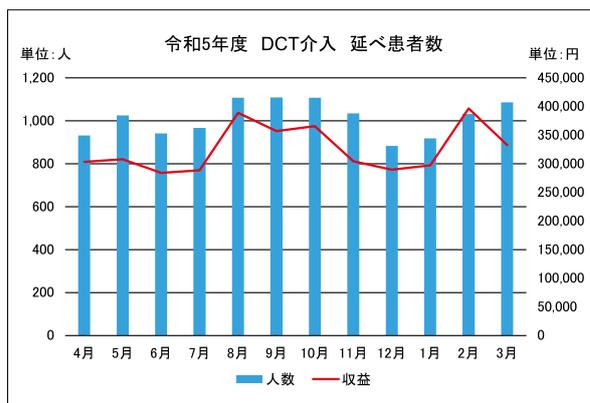
- 1) 認知症ケア加算1 (診療報酬) の施設基準が維持できる。
 - ①精神科医師が認知症ケアチーム (以後DCTと記載) 介入。およびDCT委員会へ参画する。
 - ②1回/WのDCTラウンドとカンファレンスを実施できる。
- 2) 認知症ケア研修会を実施する。

2) 活動内容・目標に対する達成状況

- 1) 認知症ケア加算1の施設基準を維持できている。
 - ①こころのセンター長 吉岡医師が認知症対策室室長を統括し、牽引している。DCT委員会には、ふたりの精神科医 (吉岡医師、佐々木医師) が参加している。
 - ②DCTが設置され、4年が経過し、診療報酬規定の週1回のラウンドとカンファレンスを行い、DCTの維持に努めている。
DCTラウンドは、週2回に分けて実施。新1・2・3病棟を徳岡医師、南1・2・3病棟を佐々木医師が担当し、精神科医師とともに社会福祉士、病棟看護師、認知症看護認定看護師でラウンドを行っている。
認知症の治療やケアでは、環境の変化などにより、惹起されるせん妄を重要な症状として位置付け対応している。また、認知機能低下を来した高齢の

患者や認知症患者は、自ら意思決定することが困難であり、今後も家族や他科医師と協力し、少しでも安心して治療ケアが受けられるように関わっていききたい。

- 2) 認知症ケア研修会は、予断を許さないコロナの感染対策のため、昨年に引き続きユーチューブでの研修会開催とした。視聴期間は1カ月で設定し、各個人のタイミングで視聴できることで、ニーズのあった研修会となった。



(文責：副院長・こころのセンター長・
認知症対策室長・医師 吉岡 隆興
認知症対策室管理者・
認知症看護認定看護師 中山 充代)



褥瘡対策委員会

1) 2023 (令和5) 年度 目的・目標

目的

病院全体での褥瘡発生・予防および発症後早期からの適切な褥瘡対策を討議・検討し、その効果かつ効率的な推進を図る

目標

1. 推定院内発生率1%以下
2. 発生から回診までの実施内容の周知徹底
3. 各専門職の連携強化による院内発生 (特に踵部褥瘡) の軽減

2) 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

1. 毎月 第3月曜日 委員会
2. 毎週 月曜日 褥瘡回診
回診者：専任医師 (美容皮膚科)、看護師2名
作業療法士、管理栄養士、薬剤師

目標に対する達成状況

2023 (令和5) 年度より三愛病院で褥瘡回診をしていた三好に担当医が変わり、これまで長きにわたり回診をされていた外科 上地先生からの目的・目標を引き継がせていただき回診を行っている。コロナ感染対応中は写真診で評価を行った。

推定発生率1%以下は達成することができなかった。対象者の増加で回診後の外来開始時間に影響が出始めたため、病棟にご不便をおかけするが回診を2週に分けて13時から行うことになり、新規についてはこれまで通り毎週回診を行った。これに伴う対応策として褥瘡発生時に全病棟で同じ対応ができるように、発生から回診までに実施すべき内容を病棟に配布した。全職員への周知には時間がかかるため、回診時にこまめに伝達を行うなどして今後も周知徹底を行っていききたい。

回診者は看護師2名に増員、作業療法士も加わり回診時にその場でポジショニングや栄養状態の情報

共有ができるように病棟担当者の立ち会いをお願いしている。

委員会では月ごとの褥瘡保有数と新規発生数および部位別件数をグラフで示し、今後の課題を明確化した。結果は院内発生数が多く、部位別では仙骨部、

踵部の順に多かった。まずは除圧と確認が行いやすい踵部の院内発生を各専門職と連携して減らしていきたい。

(文責：褥瘡対策委員会委員長 三好 みちよ)



NST委員会

1 2023(令和5)年度 目的・目標

目的

1. 入院患者の“低栄養状態”を早期に発見し改善するために院内の体制を整える
2. チームで低栄養状態に関する評価を行い適切な栄養療法を提案・実施する

目標

「職員全員のNSTに対する意識を向上させる」

2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

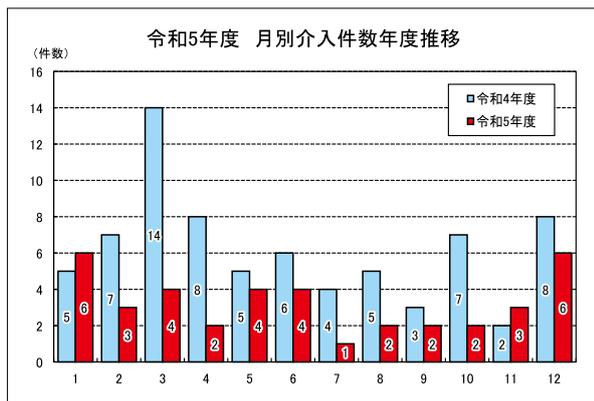
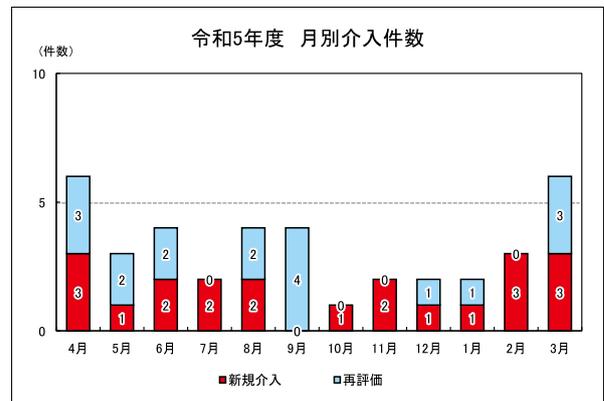
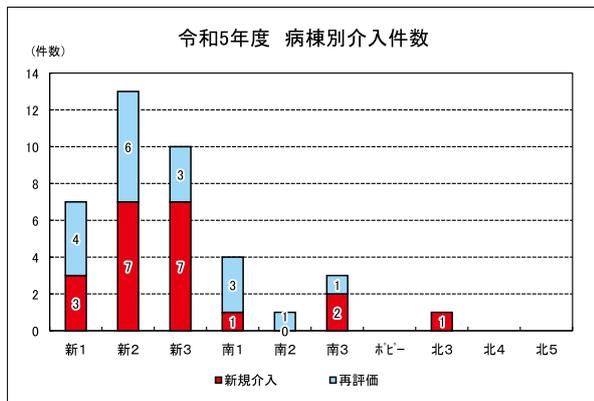
1. 毎週木曜日 多職種参加のラウンドとカンファレンス
2. 2カ月に1回、委員会・通常の集合式勉強会とYouTubeを用いた勉強会

目標に対する達成状況

1. 今年度は日本臨床栄養代謝学会(2024[令和

6]年4月1日より：日本栄養治療学会)認定のNST稼働認定施設の更新時期であり、書類審査を経て、2024[令和6]年2月14日NST(栄養サポートチーム)施設として認定された。(認定施設番号05-000410 認定期間2024[令和6]年4月1日~2029[令和11]年3月31日)

2. 今年度の勉強会と委員会は、2カ月に1回の開催で、委員会は6回・勉強会は5回(2024[令和6]年3月は委員会のみで勉強会はなし)行った。勉強会は、前年度のNST委員対象の年度末アンケートを参考に希望に沿った内容とした。コロナ禍ではあったが院内での行動制限も緩和されYouTube配信のみだけでなく講師を招いての現地開催を行った。平均120人/回とたくさんの方に視聴していただいた。また、研修内容についての資料要望もあり、My Webの案内時にファイルを添付し自由に印刷できるように対策を行った。



2023(令和5)年度 NST委員会 勉強会一覧

実施月	勉強会の内容	演者
5月	NSTについて・摂食嚥下障害と食事介助	明治乳業株式会社
7月	今、話題の機能性脂質(MCT)について	日清オイリオグループ株式会社
9月	心臓リハビリテーションと栄養	株式会社 大塚製薬工場
11月	咀嚼と健康	歯科医 細木弓子先生
1月	褥瘡と栄養管理	ネスレ日本株式会社

3. N S T介入件数は、前年度に比べ39件と減少した。ラウンドの自粛は継続中だったが、令和6年3月より再開した。コロナ禍前から栄養管理室で行っていたカンファレンスは、各病棟で行うように変更した。N S T新規介入件数は21件、再評価件数18件だった。新規介入者に対する再評価率は、85.7%で再評価中に死亡退院された方は12.8%（5名）だった。重症化してからの介入対応は難しく厳しい結果となった。
4. N S T委員対象の年度末アンケートの結果から、勉強会のYouTube 配信について72%の人

がWEB配信がよいと返答し次年度も対面式とWEB配信のハイブリッド型で進めていくこととした。

5. 前年度から持ち越していたN S Tカンファレンスシートの見直しを行った。各職種の記入スペースが狭く記載し難いため、記録枠をシートあたり4回分から3回分に変更し記入スペースの確保を行った。

（文責：N S T委員 西尾 由香）



薬事委員会

1 2023（令和5）年度 目的・目標

1. 医薬品の採用・削除を審議する。
2. 後発医薬品の使用促進を図る。
3. 医薬品の適正かつ効率的な使用および管理を図る。
4. 医薬品の副作用報告を一元管理する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 委員会を4回（5月、8月、11月、2月）ハイブリッド形式で開催した。2023（令和5）年度は、新規採用薬23品目（内、院外処方専用薬からの切り替えが2品目）、新規院外処方専用薬17品目（内、採用薬からの切り替えが1品目）、採用中止薬（院外専用薬を含む）36品目、臨時採用薬299品目を決定した。2023（令和5）年度末での採用医薬品数は1,072品目である。
2. 先発後発品から後発医薬品へ新たに4品目の変更

を行った。また、医薬品の欠品、販売中止が相次いでいることから、安定供給可能な製薬会社の医薬品へ26品目の銘柄変更を行った。後発医薬品使用体制加算は加算1（後発医薬品の使用割合90%以上）を継続している。

3. 院内で発生した副作用報告は薬剤部が一元管理し、今年度は4件の報告があった。薬事委員会で報告するとともに、医局会、診療運営会議で情報共有を図った。
4. 「リフィル処方せん」発行に伴う院外処方箋様式の変更（8/8開始）についての説明を行い、承認された。
5. 院外処方箋への検査値印字開始に向けての詳細説明を行い、異議はなく承認された。

（文責：薬事委員会委員長 田中 照夫）



安全衛生委員会

当委員会は、職員の安全衛生に関する計画作成と実施、評価を行い、職員の労働災害・健康障害の防止および健康増進を図ることを目的に設置された労働法に基づく法定委員会です。

2023（令和5）年度の主な取り組みを、以下に報告します。

1 2023（令和5）年度の主な取り組み

- ①2023（令和5）年度も“コロナ禍との闘いの年”となり、職員のストレスも大きなものがあった。
- ②そのため、コロナ禍でのメンタルヘルスやクラスター発生時の職員対応に力を入れた。
- ③具体的な活動は、年間活動計画に沿って行った。
⇒表（p108）を参照

■ 令和5年度 安全衛生管理計画書

2023(令和5)年度 細木病院 安全衛生管理計画書(案)										(50人以上)				
基本方針	1 安全衛生体制を確立し、ゼロ災害を目指すこと。 2 安全衛生教育および健康診断を計画的に実施すること。		2023(令和5)年度 労働災害発生状況					産 業 医 氏 名		森下 延真				
	事業場名	社会医療法人 仁生会 細木病院	2022年3月末労働者数	延べ労働時間数	死 傷 件 数			損失日数	度数率	強度率	衛生管理者氏名	荻島美奈子・井上加奈子 橋本奈生子・西森明日香		
所在地	高知市大膳町37 TEL 822-7211			死亡	休業4日以上	休業4日未満	計				安全・衛生委員会開催有無	有 無		
				0	8	52	60				計画書について、安全・衛生委員会での審議の有無	有 無		
損失日数=業務災害による休業日数×300÷365 度数率=1,000,000×死傷件数÷在籍労働者の延労働時間数 強度率=1,000×損失日数÷在籍労働者の延労働時間数														
重点実施項目	具体的実施項目	実行計画												担 当
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. 安全衛生管理体制の確立・強化	1)安全衛生の年間計画および基本事項の審議 2)安全衛生委員会の開催(月1回) 3)北館および在宅部も含めた安全ハローの実施 4)災害事例に基づく再発防止対策の検討実施 5)ストレスチェックの実施と課題フォロー				○									安全衛生委員会 安全衛生委員会 施設課・衛生管理者 安全衛生委員会 病院全体
2. 安全衛生教育の充実	6)新採用研修および中途採用研修時の安全衛生教育の実施 7)採用時、部署変更時および業務変更時の職場教育の実施 8)業務上および通勤時の交通事故防止のための交通安全教育の実施 9)針刺し事故防止・感染対策研修・ハラスメント研修の実施	○						○						健康管理センター 健康管理センター 健康管理センター 栄養管理室 安全衛生委員会
3. 健康診断の実施	10)採用時健康診断の実施 11)定期健康診断(年1回の職員対象)の実施 12)定期健康診断(年2回必要な夜勤従事者対象)の実施 13)調理に従事するものに対する検便(月1回)の確認(業務委託先) 14)予防接種(インフルエンザ・B型肝炎等)の勧奨拡充と推進	○										○		健康管理センター 健康管理センター 健康管理センター 栄養管理室 安全衛生委員会
4. 機械設備等の改善	15)機器の点検修理・整備時の不安全行動の排除(安全に実施) 16)作業方法の改善(改善提案に基づき随時) 17)X線発生装置の安全点検(全機器月1回)													施設課・部署管理者 部署管理者・安全衛生委員会 放射線室
5. 職場施設・労働環境改善	18)X線発生装置周辺環境測定(年2回) 19)病理検査室のホルムアルデヒド測定の実施(年2回) 20)労働環境の改善(改善提案および環境測定に基づき随時) 21)危険防止対策(危険箇所や危険作業の発見時等)の実施 22)職場のコロナ感染対策とワクチン接種の推進 23)残業時間調査と削減対策の推進	○										○		部署管理者・安全衛生委員会 部署管理者・安全衛生委員会 部署管理者・コロナ対策チーム 部署管理者・安全衛生委員会
6. 健康増進活動の推進	24)職員のスポーツ活動への支援 25)禁煙の推進と受動喫煙対策の徹底													総務課・安全衛生委員会 安全衛生委員会

(文責：安全衛生委員長 中嶋 光宏)



リハビリテーション委員会

1 2023(令和5)年度 目的・目標

1. コロナ5類対応下における業務正常化の促進
2. 「摂食嚥下機能回復体制加算」の拡大のための取り組み
3. 医師からのタスクシフト・シェアの推進

2 活動内容・目標に対する達成状況

前年度に引き続き、コロナ禍にて委員会を継続するために、会場とウェブを用いたハイブリッド開催とすることで、基本毎月の開催を継続することができた。10月は適時調査対応、3月は病院内他委員会と重なり休止となった。

前年にならって偶数月は全体に関わる内容、奇数月は病棟単位で取り組みを報告する形をとった。活動詳細は以下に記載する。

- 4月：『リハビリテーション課令和5年度目標』『摂食嚥下機能回復体制加算』の取り組み
- 6月：『第24回日本語聴覚学会(愛媛)予演会(自己刺激を強化子として活用した無発語ASD児との関わり～関係性の構築と言語行動への介入～)』『早出勤務の開始について』
- 8月：『摂食嚥下機能回復体制加算の現状報告』『マネジメント学会予演会(①職員提案から始

まった 地域包括ケア病棟の働き方改革～コロナ対応で見てきた 働き方の多様化と早出勤務の必要性～(②当院維持期リハビリスタッフの働き方に対する検討)』

- 12月：『理学・作業・言語療法室上期振り返り』
- 2月：『リハ処方について医師への依頼事項説明』『作業療法室年末・年始の取り組み報告』

※奇数月開催のリハ課各部門報告では、①連携など取り組み事項、②入棟、退棟時のFIM点数推移、③コロナ禍からの脱却(正常化に向けての取り組みなど)、④リハ介入目的および目標、⑤年間振り返りなどを報告した。

今年度は5月に5類移行となったコロナウイルス感染者への介入方法や、感染者が存在する病棟での業務継続について検討することと、昨年度施設基準取得した「摂食嚥下機能回復体制加算」を通じた多職種連携を肝として取り組んだ。医師からのタスクシフト・シェアは医師事務作業補助者とも協力体制を取り、書類面での負担軽減では一助になったのではないかと考えている。

来年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービスなど報酬改定のトリプル改定となるため、各領域で細木病院リハビリテーション課の視点から取り組みを検討

する1年になる。早期の在宅復帰と住み慣れた環境での生活継続支援や積極的な地域活動への展開が望まれていると考えている。

(文責：リハビリテーション委員長 藤本 弘昭)



サービス向上委員会

1 2023 (令和5) 年度 目的・目標

1. 医療接遇の強化①：院内の医療接遇の向上に向け、各職種より「接遇リーダー」を選出し、接遇研修を受ける。院内の接遇向上への取り組みを開始する。
2. 医療接遇の強化②：接遇リーダー研修後、問題点、解決策を検討し、新たな取り組みへつなぐ。
3. 患者経験価値アンケートの実施

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. ①各職種21名を選出。6月に21名で国際おもてなし協会の協力を得て、医療接遇リーダーを研修受講。
②病院全体で接遇に対する「意識改革」を行うため9月に全職員に向けて接遇への意識調査アンケートを実施。さまざまなご意見をいただくことができ、接遇に対する意識が高い職員が多いことが伺えた。このことも院内接遇向上を推進していく上でモチベーションとなり、取り組みを検討した。
2. ①10月：接遇リーダー6名を新メンバーとし、委員会メンバーの交代を行った。
②11月：院内接遇ラウンド開始。毎週、接遇リーダー2名(交代制)で、部署を6分割し、業務場面および、ハード面を含めた職場環境を評価。各所属部長へ称賛と課題をフィードバック。

- ：毎月「院内接遇合言葉」を決め、オンライン朝礼にて接遇リーダーより、1カ月間取り組む共通目標を発表し、病院全体で取り組みを開始。
- ③12月：病院全体の必須研修として医療接遇eラーニングの視聴実施。
 - ④2月：広報誌「じんせい」1面でサービス向上委員会紹介文掲載。
 3. グーグルフォームでのアンケートの集計は容易で便利ではあるが、ご高齢者にはハードルが高い面もあり、思った程アンケート数が伸びず。また、アンケート回答者からは「質問項目が多すぎる」「関係ない質問が多い」「わかりにくい」といったご意見が多く、ケアコムとともに来年度に向けて内容を再検討中。

今年度は接遇に関して大きく舵取りができた1年となり、病院内でもあいさつが増え、職員同士の声掛けも見かける機会が多くなり、委員会の取り組みが院内の雰囲気改善に向かっていていると感じています。接遇向上は患者満足度を上げるために必須要素となりますが、この向上の推進力は、職員満足度の向上が必要不可欠です。来年度は別の切り口の取り組みと、接遇向上に向けて取り組みを継続していきたい。

(文責：サービス向上委員長 細木 弓子)



福利厚生検討委員会

1 2023 (令和5) 年度 目的・目標

- ①職員とその家族の生活の安定と向上につなげることができる。
- ②働きやすい環境を整備することで、職員の成長を支援できる。
- ③福利厚生の見直しを行い発展させ、魅力ある職場環境を整備する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

7名の構成委員が、毎月集まり、職員の福利厚生について話し合いを進め、リロクラブの活用促進の他、1年間の間では、以下の検討、実施をしてきた。高知ハウスの手数料2割引き、美容皮膚科の職員割引

き、リロクラブのスマホ登録促進のための説明会、北館6階屋上庭園の整備・パワースポットガーデンの散歩コース(コンクリート塗装)、職員作品展覧会(令和6年1月18・19・20日開催、延べ225人来場)、ゆとりすとパークおおとよ利用料割り引き、そらみるさめうら湖利用料割り引き、2024年よさこい祭り参加の準備。リロクラブの利用については、細木病院の職員のスマホへの登録割合は、55%で全国平均値とほぼ同等のことだが、全職員が使っている訳ではない。さらに多くの職員の福利厚生につなげていけるように検討をすすめていきたい。また、今後は、働きやすい職場環境の整備についても福利厚生検討委員会で積極的に議題として取り上げていくようにする。

(文責：委員長 廣井 三紀)



新型コロナ対策チーム

1 2022（令和5）年度 目的・目標

新型コロナウイルスに対する感染対策を決定し、各部署に指導、指示、命令する

4. メンバーは、決定した感染対策が適切に実施されているか評価する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. メンバーは、最新情報を入手、共有し必要に応じて発信する。
2. メンバーは、各担当業務に関わる情報収集と情報伝達などを担う。
3. メンバーは、感染対策を検討し、決定する。

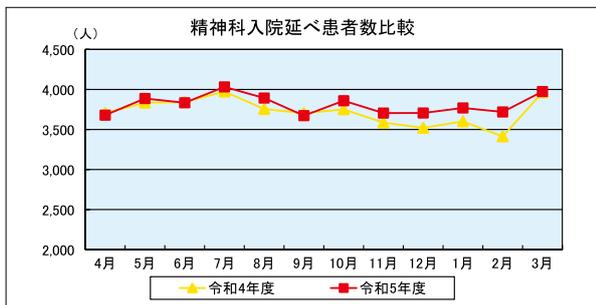
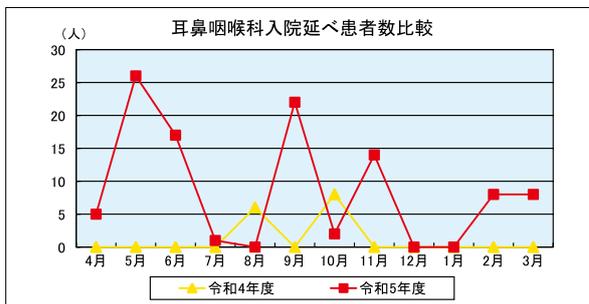
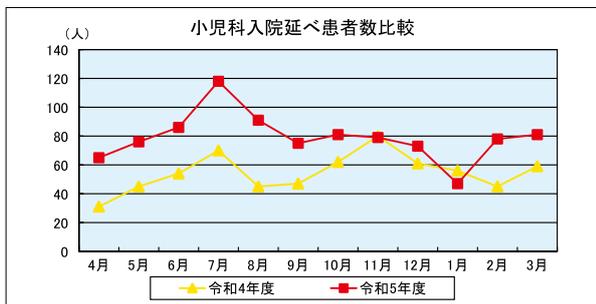
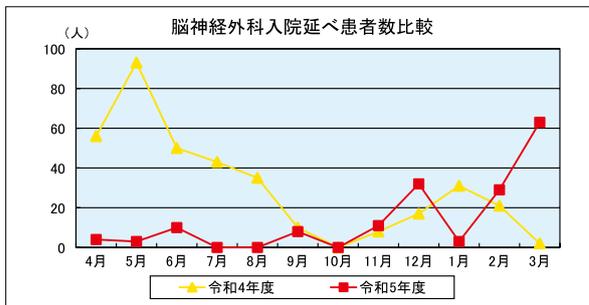
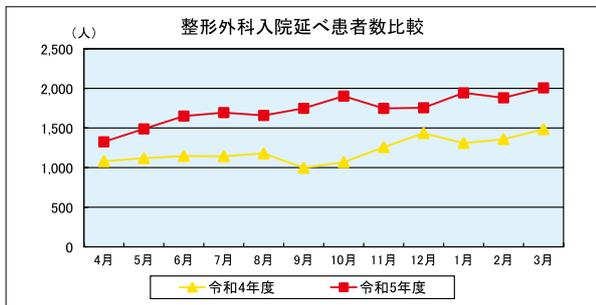
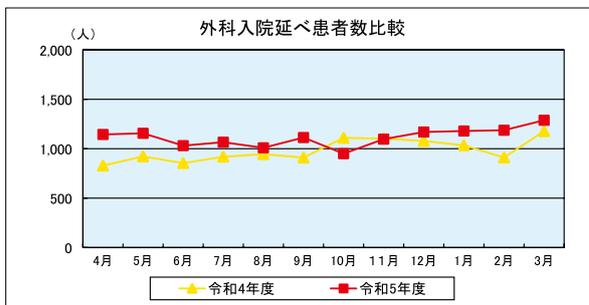
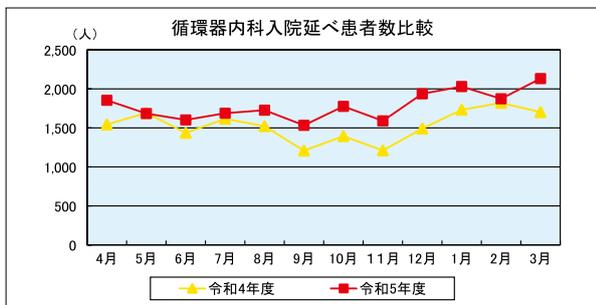
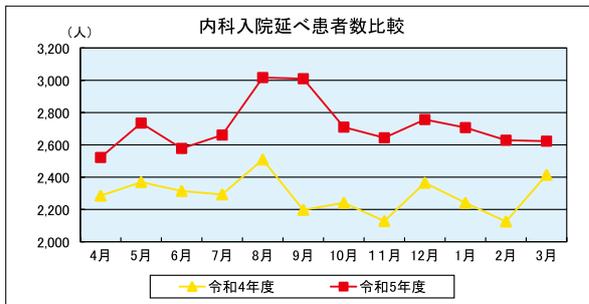
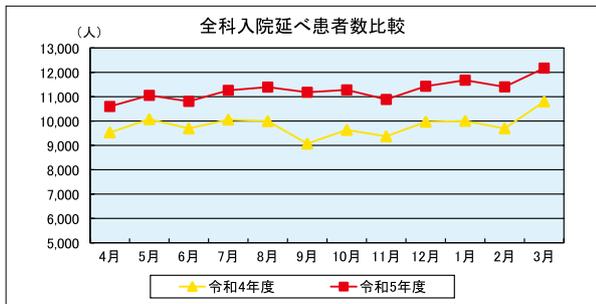
感染状況に応じて週1～2回のチーム会の開催を継続。令和5年5月新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことに伴い院内マニュアルの見直しを進めながら上記1.～4.を実施した。

（文責：新型コロナ対策チーム委員長 尾崎 信三）

診療部

令和5年度 入院患者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 合計
稼働率(%)	69.7	71.3	70.9	71.1	70.7	66.3	68.2	68.5	70.5	70.8	75.9	76.4	80.7
延べ患者数(人)	10,394	11,055	10,810	11,260	11,395	11,185	11,280	10,889	11,198	11,678	11,404	12,175	134,723
平均患者数(人)	346.5	356.6	360.3	363.2	367.6	372.8	363.9	363.0	361.2	376.7	393.2	392.7	368



細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

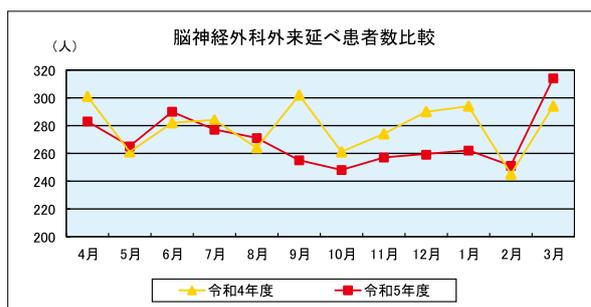
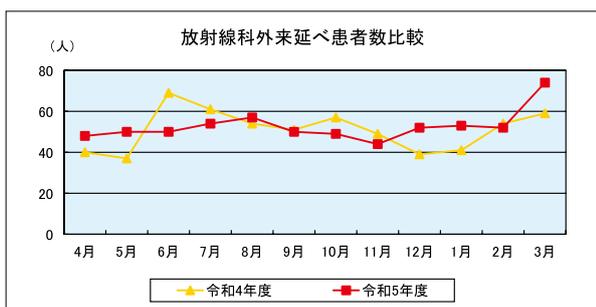
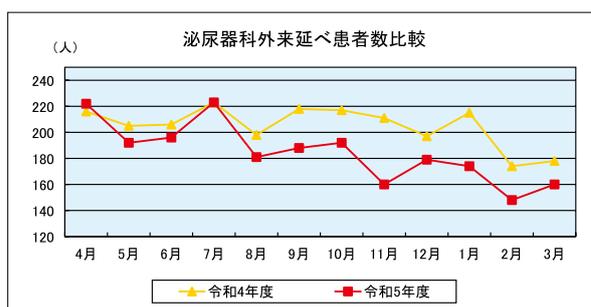
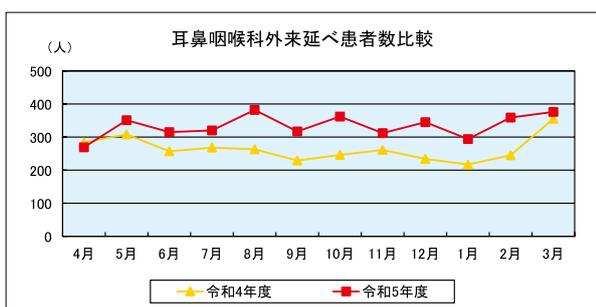
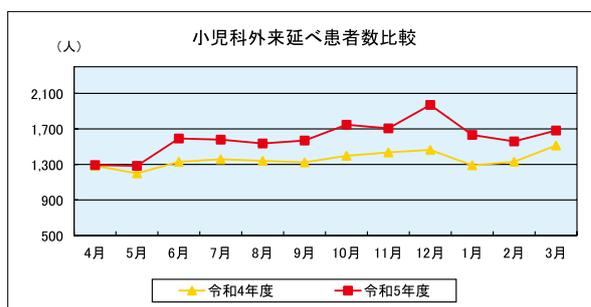
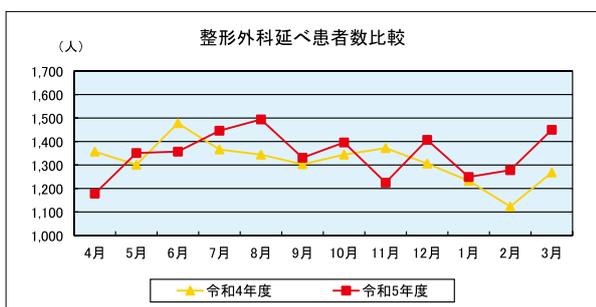
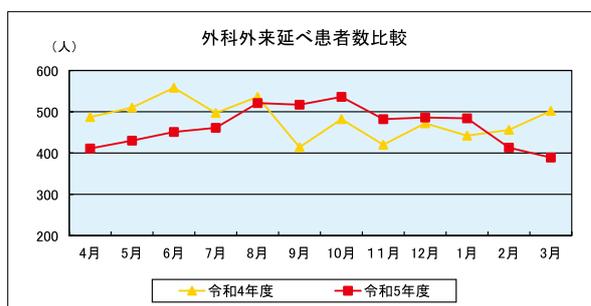
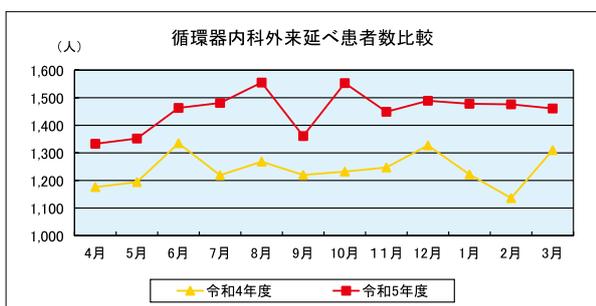
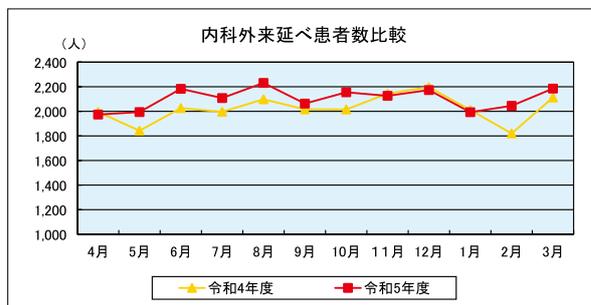
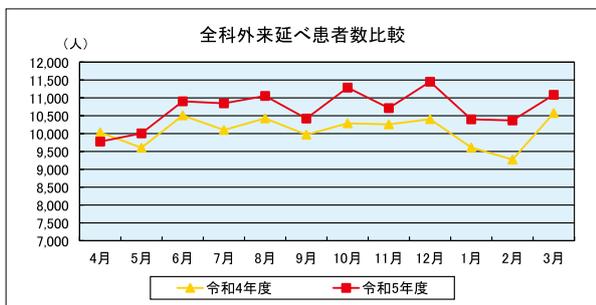
福寿園

積善会

令和5年度 外来患者数統計

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数	6,721	6,756	7,253	7,292	7,536	7,176	7,682	7,375	7,920	7,343	7,406	7,650	88,110
延患者数	10,034	9,604	10,508	10,100	10,427	9,969	10,287	10,258	10,404	9,611	9,272	10,575	121,049
平均患者数	418.1	400.2	404.2	404.0	401.0	415.4	411.5	427.4	400.2	417.9	403.1	423.0	4,925.9
初診患者数	1,024	1,082	1,242	1,317	1,287	1,155	1,322	1,234	1,441	1,229	1,168	1,230	14,731



細木病院

三愛病院
あつん高知

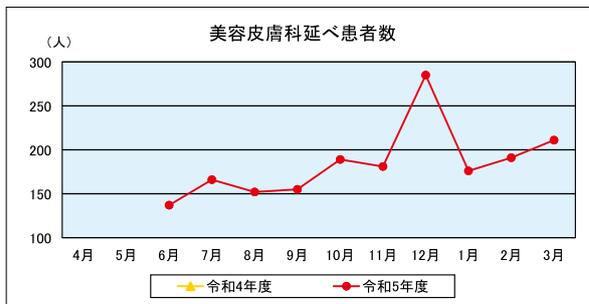
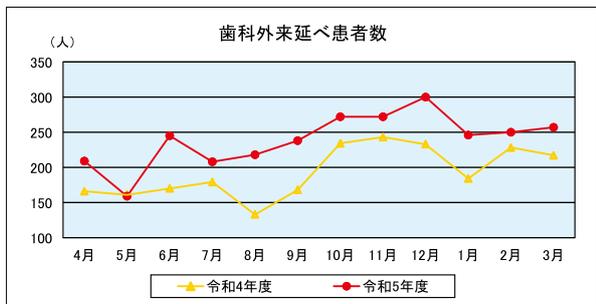
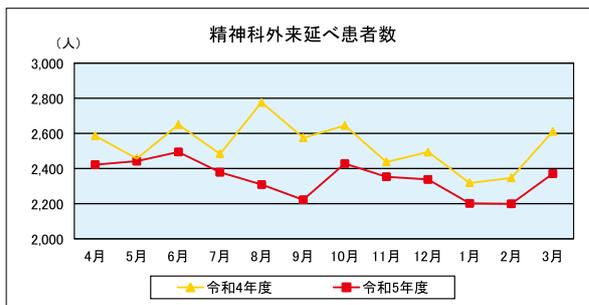
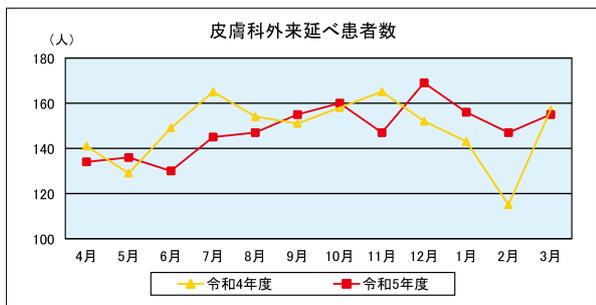
日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会



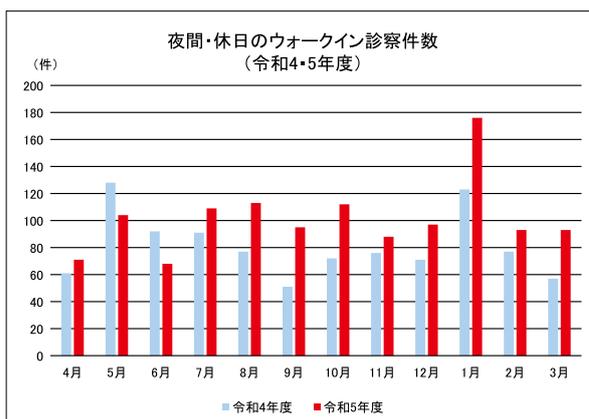
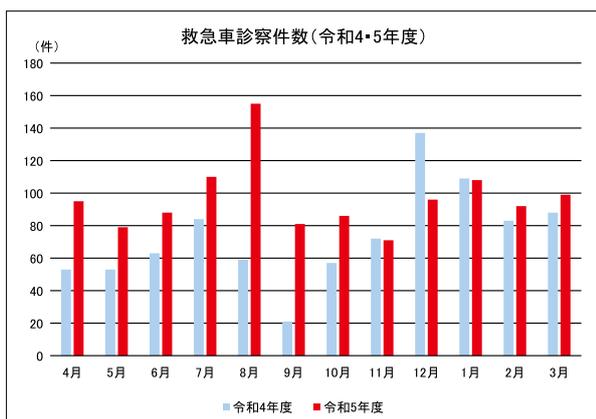
■ 2023 (令和5) 年度 救急件数

救急車診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	53	53	63	84	59	21	57	72	137	109	83	88	879
令和5年度	95	79	88	110	155	81	86	71	96	108	92	99	1,160

夜間・休日のウォークイン診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	61	128	92	91	77	51	72	76	71	123	77	57	976
令和5年度	71	104	68	109	113	95	112	88	97	176	93	93	1,219



2023（令和5）年度

検査件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

■ 消化器内科（内視鏡手術を含む）

上部消化管内視鏡（総数 1,582）	
内視鏡的粘膜切除術・粘膜下層剥離術	0
内視鏡的胃ろう造設術	4
内視鏡的消化管止血術	13
内視鏡的逆行性胆道膵管造影	0
内視鏡的食道静脈瘤結さつ術・硬化療法	0
下部消化管内視鏡（総数206）	
内視鏡的ポリープ切除術・粘膜切除術	9
内視鏡的消化管止血術	8
経皮経肝胆嚢ドレナージ	0
腹部血管造影・肝動脈塞栓術	0
エコー下肝生検	0
合 計	1,788

■ 糖尿病・内分泌内科（検査）

甲状腺穿刺吸引細胞診	19
合 計	19

■ 過去3年間の病理組織検査

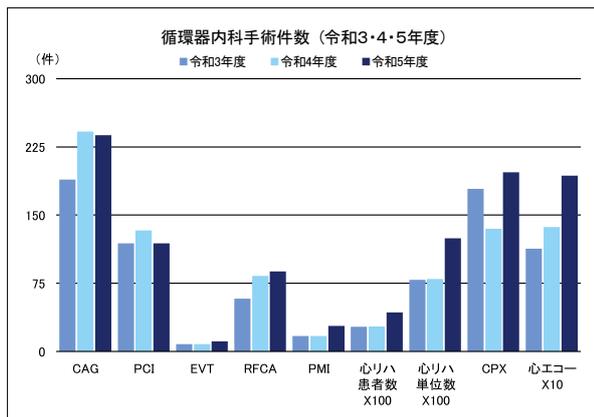
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内 科	178	93	57
循環器内科	—	4	2
外 科	99	94	105
整形外科	2	8	9
耳 鼻 科	0	0	0
皮 膚 科	16	19	12
脳神経外科	0	0	0
歯 科	1	0	0
美容皮膚科	—	—	11
院内計	296	218	196
三 愛 病 院	8	13	19
合 計	304	231	215

2023（令和5）年度

手術件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

■ ほそぎハートセンター（循環器科内科）(手術)

	CAG	PCI	EVT	RFCA	PMI	心リハ患者数	心リハ単位数	CPX	心エコー
令和3年度	189	119	8	58	17	27.04	78.9	179	112.9
令和4年度	242	133	8	83	17	27.38	79.78	135	136.8
令和5年度	238	119	11	88	28	43.01	124.38	197	193.3



■ 耳鼻咽喉科（手術）

外耳道異物除去術（複雑）	1
外耳道異物除去術（単純）	15
鼻腔粘膜焼灼術	2
咽頭異物摘出術	2
合 計	20

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

2023（令和5）年度

手術件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

■ 外科（手術）

全麻・腰麻・硬麻	令和4年度	令和5年度
胃がん		
胃全摘術		
幽門側胃切除術		
開腹		
腹腔鏡補助下		
噴門側胃切除術		
結腸がん		
部分切除術		
半側切除術		
腹腔鏡補助下		
人工肛門造設術		
直腸がん		
高位前方切除術		
低位前方切除術		1
直腸切断術		
経肛門的切除術		
人工肛門造設術		
腹腔鏡補助下		
胆石症		
鏡視下胆摘	4	4
鏡視下胆管切石		
開腹胆摘	1	1
胆管切石術		
イレウス		
腸管切除あり		
腸管切除なし	3	
胃空腸吻合術		
腸瘻造設・閉鎖		
急性虫垂炎	8	1
成人鼠径ヘルニア	25	21
小児鼠径ヘルニア		
陰嚢水腫		
腹壁癒痕ヘルニア	2	
恥骨上ヘルニア		
大腿ヘルニア	1	
閉鎖孔ヘルニア	1	
臍ヘルニア		3
痔核		
硬化療法	3	3
結紮切除	1	4
結紮切除＋硬化療法		
P P H		
痔瘻		
肛門膿瘍切開排膿		

	令和4年度	令和5年度
直腸脱		
デローメ	1	1
ガント三輪＋Thiersch		
P P H＋Thiersch		
開腹術		
S S G		
肝部分切除術		
肝外側区域切除術		
肝左葉切除		
乳がん	39	44
甲状腺腫瘍	1	3
単純胃切除術		
膵頭十二指腸切除術		
膵体尾部切除		
胆嚢がん		
消化管穿孔		
腹腔鏡下結腸切除		
結腸憩室炎（腸切）		
直腸腫瘍切除（経肛門的）		
下肢静脈瘤ストリッピング手術		
その他	4	4
合 計	94	90

乳房腫瘍摘出術	13	9
陥入爪手術		
皮膚皮下腫瘍摘出術	18	25
切開排膿術		3
創傷処理		1
リンパ節生検		
血腫除去		
趾切断		
リンパ浮腫ドレナージ		
その他	1	3
合 計	32	41
手術総計	126	131

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

2023（令和5）年度
手術件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

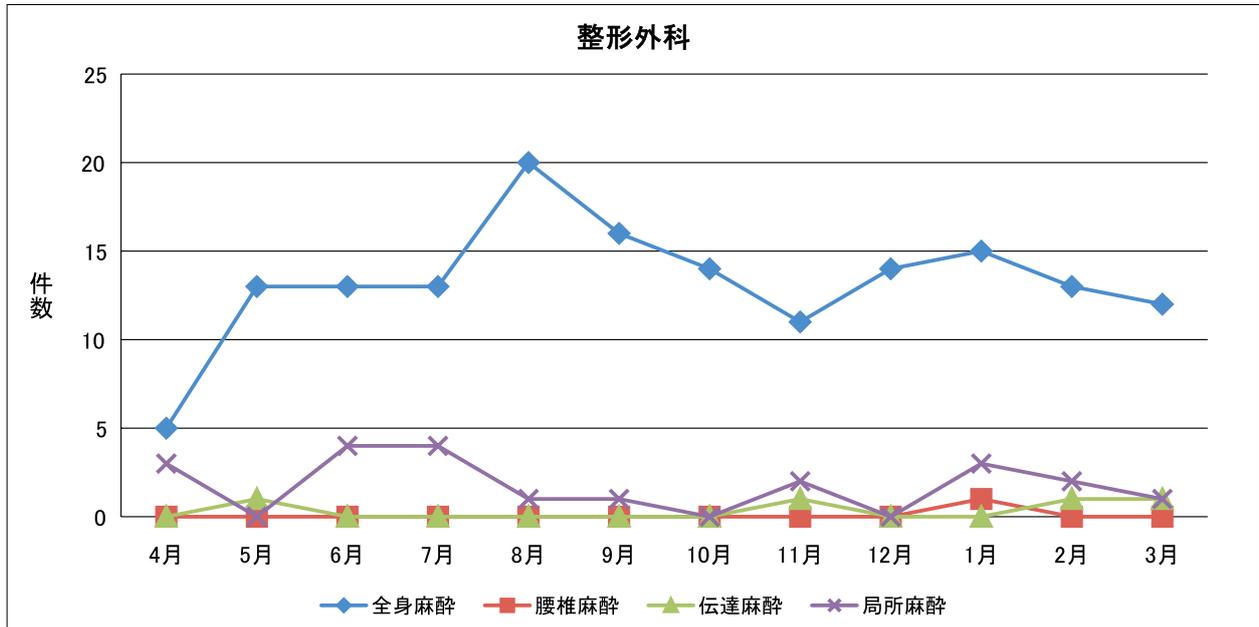
■ 整形外科（手術）

I. 脊椎手術		
側弯症手術		0
頸椎		0
胸椎		0
腰椎		19
脊髄・脊椎腫瘍手術		0
II. 小児整形		9
III. 関節手術		
1) 肩関節		
腱板修復など（鏡視下）		22
腱板修復など（直視下）		1
人工関節		2
2) 肘関節		4
3) 股関節		
人工関節置換術		3
その他		58
4) 膝関節		
人工関節置換術		13
靭帯縫合・再建		1
関節鏡		3
その他		3
5) 足関節手術		3

IV. 手・末梢神経手術		
1) 末梢神経手術		5
2) 手外科手術		1
V. 腫瘍摘出術		
1) 骨腫瘍摘出術		0
2) 軟部腫瘍摘出術		3
VI. 骨髓炎手術		0
VII. 骨接合術		21
VIII. バイオプシー		0
IX. その他		19
合 計		190

■ 整形外科（手術）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
全身麻酔	5	13	13	13	20	16	14	11	14	15	13	12	159
腰椎麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
伝達麻酔	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4
局所麻酔	3	0	4	4	1	1	0	2	0	3	2	1	21
総計													185



2023（令和5）年度

手術件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

■ 麻酔科（手術）

表1 麻酔科管理手術件数の推移（麻酔方法別）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
全身麻酔（吸入麻酔）	81	82	160	185	142	142	182	193	156	134
全身麻酔（完全静脈麻酔<TIVA>）	10	4	2	1	1	0	1	3	0	2
全身麻酔（吸入）+硬背伝麻	171	155	153	163	160	116	58	64	57	96
全身麻酔（<TIVA>）+硬背伝麻	4	0	0	1	20	11	14	4	3	4
脊髄くも膜下麻酔	34	28	26	32	6	10	11	6	7	22
その他	3	9	3	4	3	1	0	4	0	0
総計	303	278	344	386	332	280	266	274	223	258
対前年比%	※詳細不明	91.74%	123.74%	112.20%	86.01%	84.33%	95%	103%	81.38%	115.69%

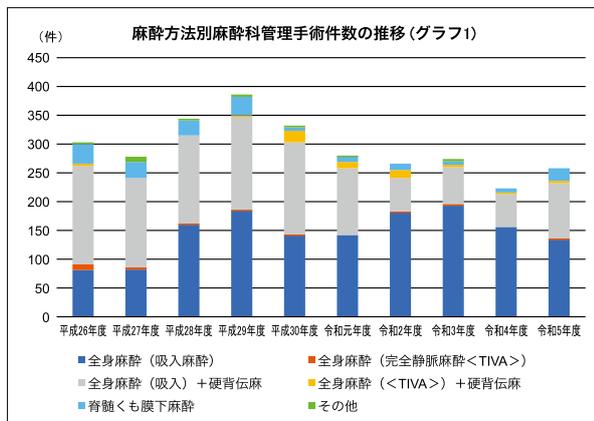


表2 麻酔科管理手術件数の推移

年度	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
整形外科	219	192	247	260	222	193	165	168	123	165
外科	74	82	95	122	103	86	101	106	100	93
脳外科	10	3	2	4	6	0	0	0	0	0
総手術件数	303	278	344	386	332	280	266	274	223	258
対前年比%	※詳細不明	91.74%	123.74%	112.20%	86.01%	84.33%	95%	103%	81.38%	115.69%
麻酔科医	畠中	畠中	畠中	畠中	畠中/細川	畠中/細川	畠中/細川	畠中/細川	畠中/細川	畠中/細川
非常勤医師	植田/阿部 月水/木	植田/阿部 月水/木	植田/阿部 月水/木	植田/阿部 月水/木	植田/阿部 月水/木	植田/橋 月水/木	橋 木(週交代)	橋/井本 木(週交代)	橋/井本 木(週交代)	橋/井本 木(週交代)
勤務医師数	1.1	1.1	1.1	1.1	1.9	1.7	1.5	1.5	1.5	1.5

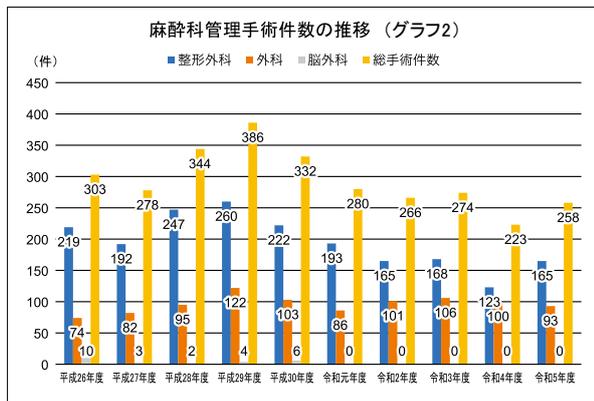
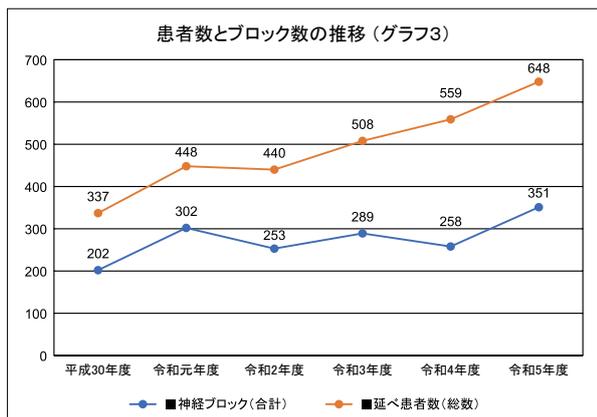


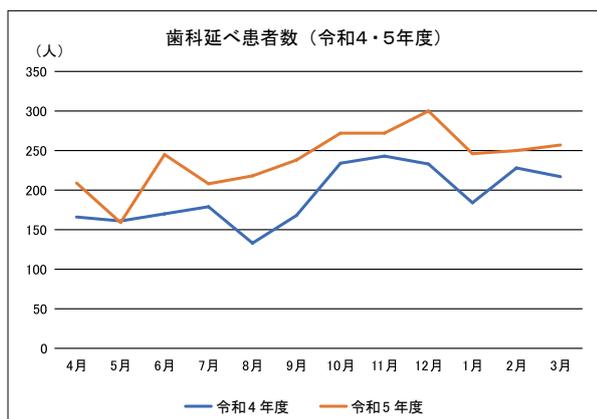
表3 ペインクリニック：患者数とブロック数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
硬膜外ブロック（仙骨ブロック含む）	92	114	110	118	65	91
星状神経節ブロック	19	15	10	21	10	30
トリガーポイント注射	77	154	80	114	144	136
その他の末梢神経ブロック	14	19	53	36	39	94
■神経ブロック（合計）	202	302	253	289	258	351
神経ブロック（合計）前年度比（%）		149.5%	83.8%	114.2%	89.27%	136.04%
■延べ患者数（総数）	337	448	440	508	559	648
延べ患者数（総数）前年度比（%）		132.9%	98.2%	115.5%	110.03%	115.92%



■ 歯科診療

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	166	161	170	179	133	168	234	243	233	184	228	217	2,316
令和5年度	209	159	245	208	218	238	272	272	300	246	250	257	2,874



看護部

2023(令和5)年度 病棟別業務実績

■ 新1病棟 (病棟形態:回復期リハビリテーション病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	77.1	79.3	82.4	82.1	83.9	87.4	79.0	75.5	80.0	83.9	86.9	88.2
平均患者数(人)	40.1	41.3	42.9	42.7	43.6	45.4	41.1	39.3	41.6	43.6	45.2	45.8
平均在院日数(日)	64.5	64.1	58.9	62.2	65.0	69.7	62.8	61.0	51.6	56.2	56.1	66.9

■ 新2病棟 (病棟形態:地域包括ケア病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	79.1	83.0	80.2	83.4	76.1	79.1	78.2	84.2	74.7	82.6	83.3	86.1
平均患者数(人)	47.5	49.8	48.1	50.0	45.7	47.4	46.9	50.5	44.8	49.5	50.0	51.7
平均在院日数(日)	22.9	23.2	20.6	19.5	18.4	19.2	20.3	21.9	22.6	22.2	21.6	22.8

■ 新3病棟 (病棟形態:一般病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	71.9	73.5	75.2	75.3	80.8	83.6	84.1	70.6	71.0	78.1	79.3	79.7
平均患者数(人)	43.1	44.1	45.1	45.2	48.5	50.2	50.5	42.4	42.6	46.9	47.6	47.8
平均在院日数(日)	12.6	12.9	12.8	13.3	13.8	15.1	15.3	14.7	13.2	12.8	13.3	14.0

■ 南1病棟 (病棟形態:医療療養病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	87.2	85.4	87.1	87.2	87.0	86.5	81.6	84.1	85.9	87.0	87.3	88.0
平均患者数(人)	45.4	46.6	47.5	45.0	45.1	47.9	46.9	44.0	41.6	44.0	46.9	47.0
平均在院日数(日)	371.5	292.7	282.1	294.1	290.8	302.1	329.9	300.8	239.1	180.6	182.5	194.5

■ 南2病棟 (病棟形態:医療療養病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	94.6	91.6	91.6	85.1	90.0	94.4	94.3	91.7	94.4	91.1	93.7	90.1
平均患者数(人)	46.3	44.9	44.9	41.7	44.1	46.3	46.2	44.9	46.3	44.6	45.9	44.1
平均在院日数(日)	201.9	232.9	192.0	155.0	143.1	172.2	226.4	231.6	200.7	213.6	197.6	190.0

■ 南3病棟 (病棟形態:障害者施設等一般病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	71.9	91.2	92.4	92.0	84.7	88.7	92.7	86.6	89.0	87.1	79.3	81.9
平均患者数(人)	27.2	27.4	27.7	27.6	25.4	26.6	27.8	26.0	26.7	26.1	23.8	24.6
平均在院日数(日)	787.0	1,660.7	2,497.0	1,690.7	1,650.7	814.0	979.2	696.9	823.0	604.3	354.5	319.7

■ ポピー病棟 (病棟形態:緩和ケア病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	18.1	85.5	82.8	89.0	94.4	97.5	92.5	95.3	97.3	95.7	94.8	92.7
平均患者数(人)	2.2	10.3	9.9	10.7	11.3	11.7	11.1	11.4	11.7	11.5	11.4	11.1
平均在院日数(日)	19.9	29.4	38.9	42.1	47.8	64.6	61.5	83.0	69.9	60.6	55.2	46.9

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

■ 北3病棟 (病棟形態:精神科治療病棟病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	74.1	77.2	88.7	88.5	74.4	68.9	76.1	77.6	72.5	73.3	79.2	84.6
平均患者数 (人)	29.6	30.9	35.5	35.4	29.8	27.6	30.5	31.0	29.0	29.3	31.7	33.8
平均在院日数 (日)	68.7	65.2	84.3	86.6	88.1	83.8	82.9	87.2	84.1	67.6	71.8	81.0

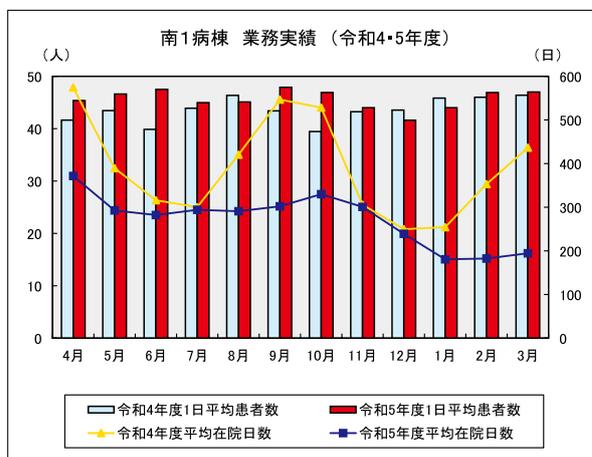
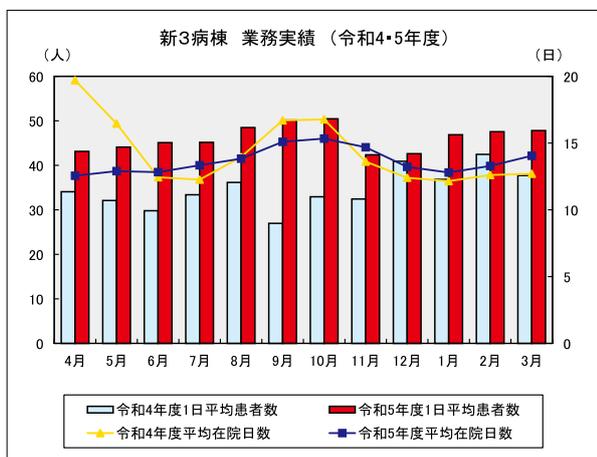
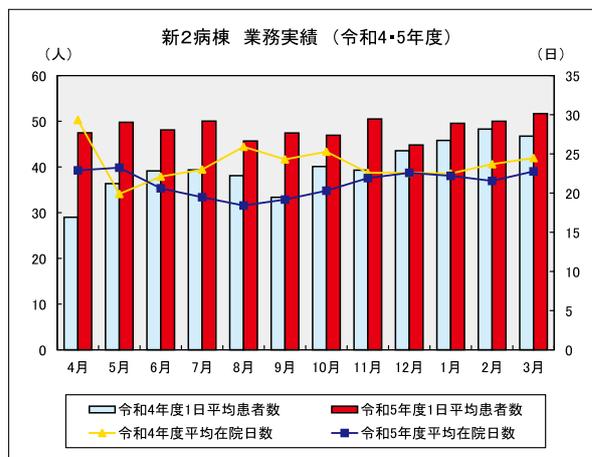
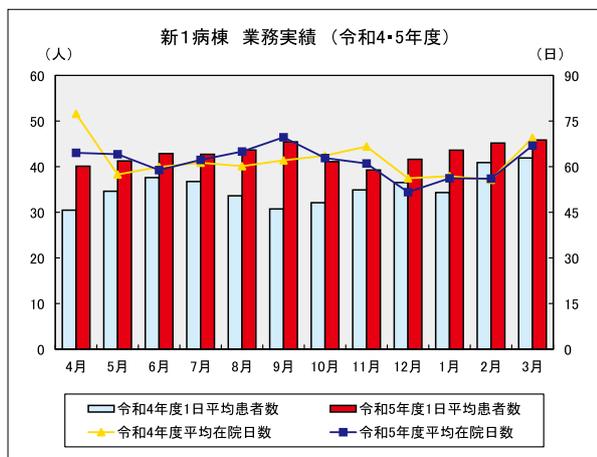
■ 北4病棟 (病棟形態:精神病棟)

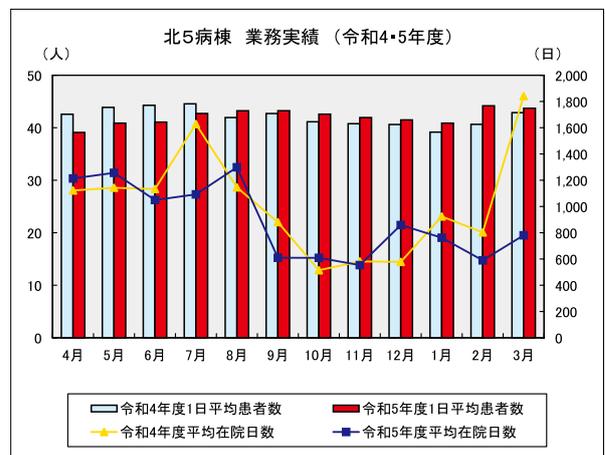
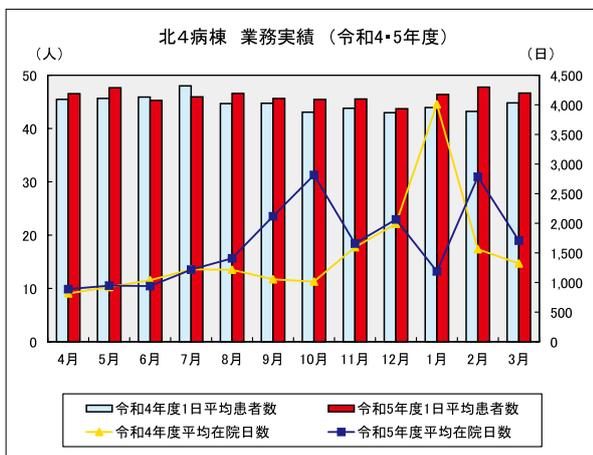
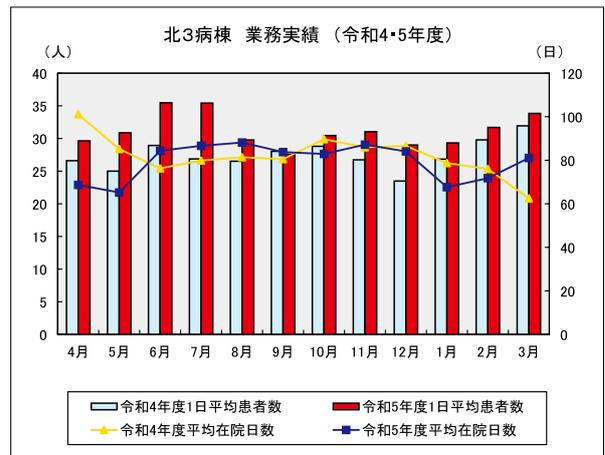
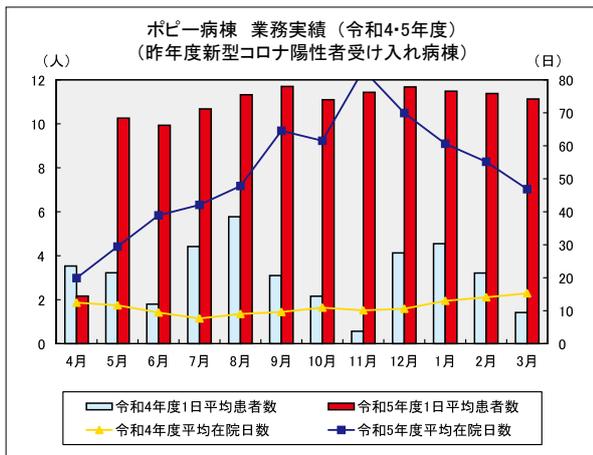
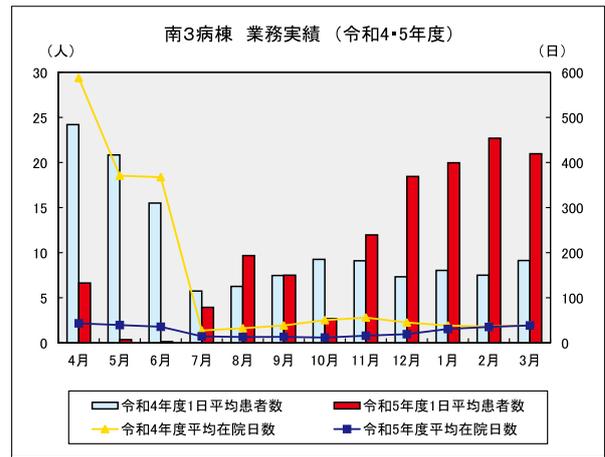
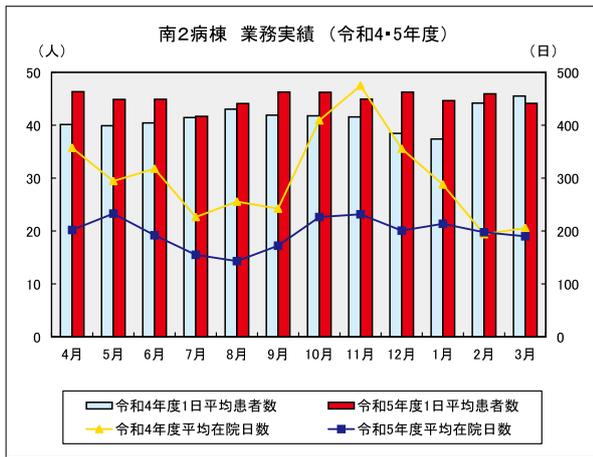
令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	87.8	89.9	85.4	86.7	87.9	86.1	85.8	85.9	82.5	87.5	90.1	88.0
平均患者数 (人)	46.5	47.6	45.3	45.9	46.6	45.6	45.5	45.5	43.7	46.4	47.8	46.6
平均在院日数 (日)	887.8	947.1	940.2	1,216.9	1,408.7	2,118.5	2,814.7	1,657.6	2,065.0	1,188.3	2,785.3	1,707.6

■ 北5病棟 (病棟形態:精神病棟)

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	81.5	85.1	85.6	89.0	90.1	90.1	88.7	87.4	86.4	85.1	92.0	91.1
平均患者数 (人)	39.1	40.9	41.1	42.7	43.2	43.2	42.6	41.9	41.5	40.9	44.2	43.7
平均在院日数 (日)	1,213.3	1,256.3	1,049.1	1,092.3	1,298.7	609.4	608.8	553.6	858.7	762.2	589.8	780.6

1日平均患者数と平均在院日数の前年度比

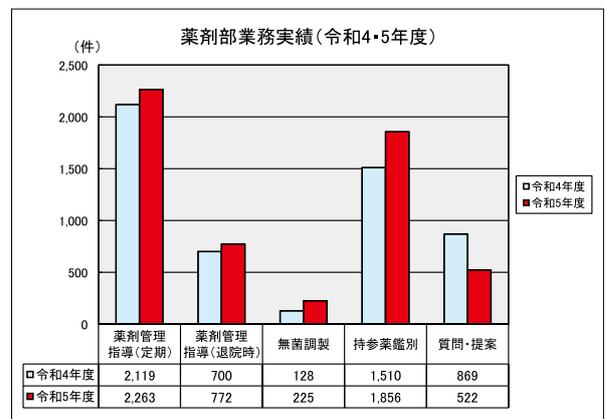
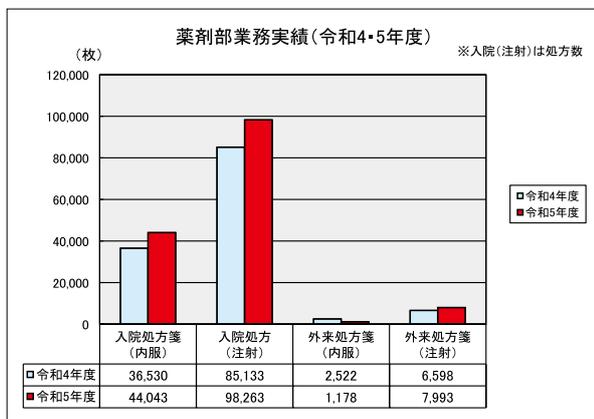




薬 剤 部

■ 2023(令和5)年度 薬剤部 業務実績件数

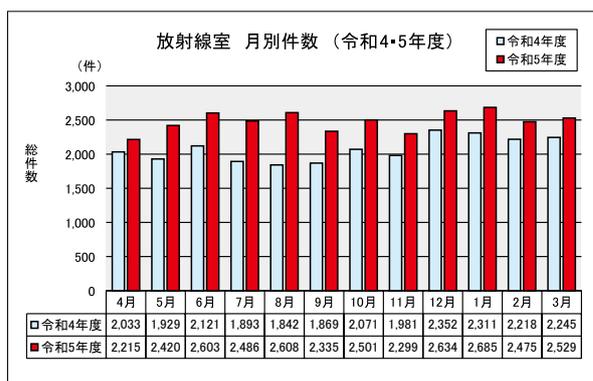
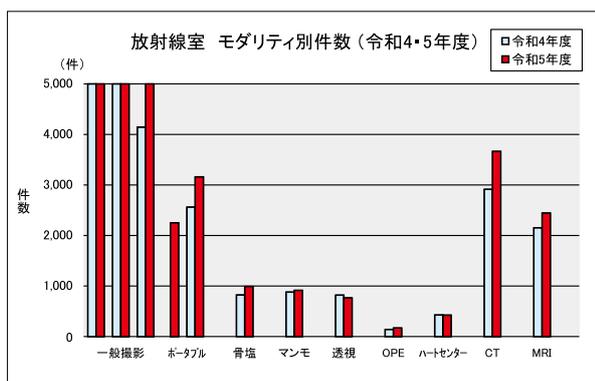
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院処方	内服	3,245	3,538	3,567	3,735	3,673	3,544	3,606	3,746	3,885	3,572	3,740	4,192	44,043
	注射	7,494	7,521	8,226	8,170	8,718	9,429	8,036	6,653	6,889	8,562	8,673	9,892	98,263
外来処方 (院内処方分)	内服	86	86	89	108	131	96	99	86	101	111	95	90	1,178
	注射	556	598	676	760	832	651	713	653	606	622	636	690	7,993
薬剤管理指導	定期指導	167	172	191	190	187	186	220	189	203	186	179	193	2,263
	退院指導	67	64	72	80	60	75	75	34	73	41	67	64	772
無菌調製		18	17	19	15	28	18	26	12	19	15	18	20	225
医薬品情報	持参薬鑑別	146	150	154	165	188	134	157	146	154	180	137	145	1,856
	質問、提案	34	35	48	40	32	53	36	24	49	37	72	62	522



医療技術部

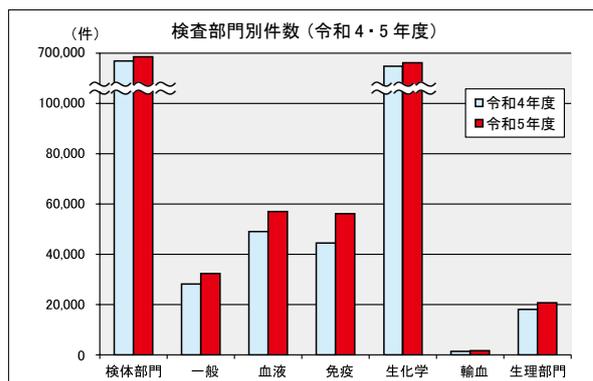
2023(令和5)年度 放射線室 撮影件数表

	撮影		骨塩	マンモグラフィ	透視	OPE	ハートセンター	健診				CT			MRI		
	一般	ポータブル						胸部	胃透視	骨塩	マンモ	単純	造影	心臓	単純	造影	心臓
令和4年度	11,202	2,562	568	321	289	141	427	2,943	531	255	559	2,512	201	201	2,067	77	9
令和5年度	14,406	3,161	719	369	248	170	424	2,846	518	273	546	3,231	203	231	2,320	119	6
前年度比(%)	128.6	123.4	126.6	115.0	85.8	120.6	99.3	96.7	97.6	107.1	97.7	128.6	101.0	114.9	112.2	154.5	66.7



令和5年度 臨床検査室 検査部門別件数推移 (令和4年度～令和5年度)

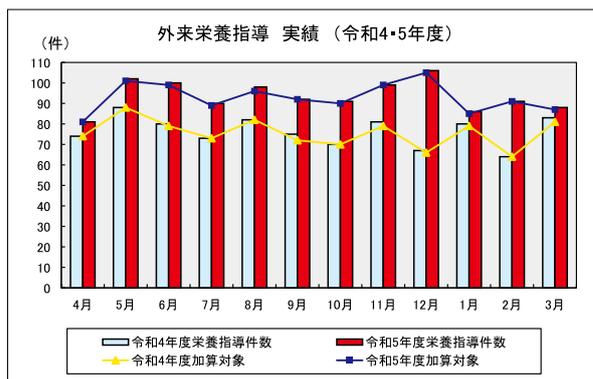
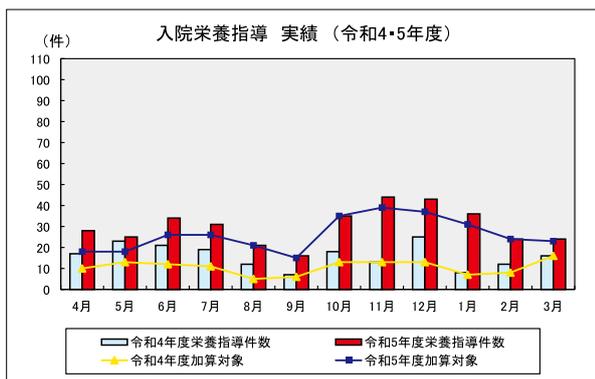
	令和4年度	令和5年度	前年度比
検体部門	581,134	676,111	116.3%
一般	28,175	32,342	114.8%
血液	49,045	57,006	116.2%
免疫	44,475	56,149	126.2%
生化学	458,044	528,954	115.5%
輸血	1,395	1,660	119.0%
生理部門	18,091	20,719	114.5%



令和5年度 栄養管理室 業務実績件数

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院栄養指導 (件)	28	25	34	31	21	16	35	44	43	36	24	24
加算対象 (件)	18	18	26	26	21	15	35	39	37	31	24	23

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来栄養指導 (件)	81	102	100	90	98	92	91	99	106	86	91	88
加算対象 (件)	81	101	99	89	96	92	90	99	105	85	91	87



細木病院

三愛病院
あつちん高知

日高クリニック

本部

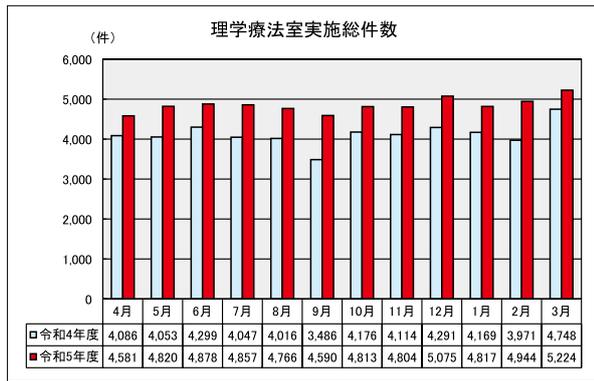
アドレス・高知

福寿園

積善会

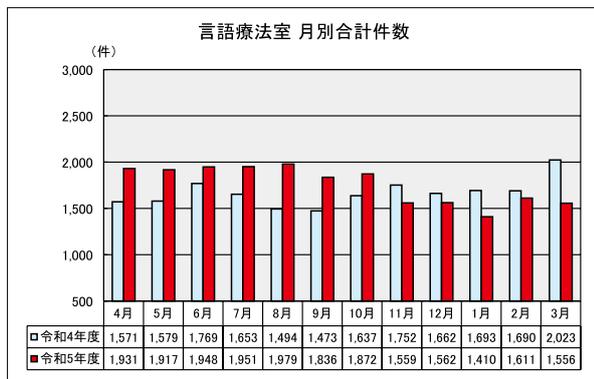
令和5年度

リハビリテーション課 理学療法室 業務実績件数

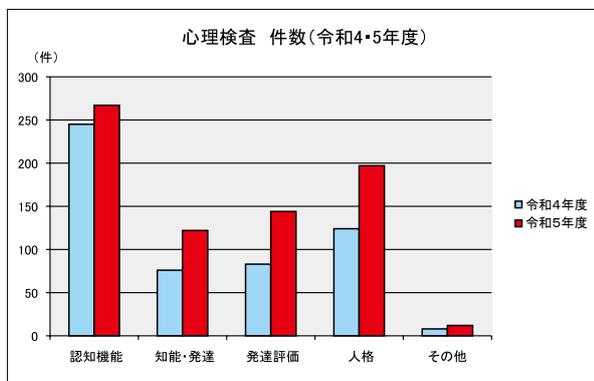


令和5年度

リハビリテーション課 言語療法室 業務実績件数

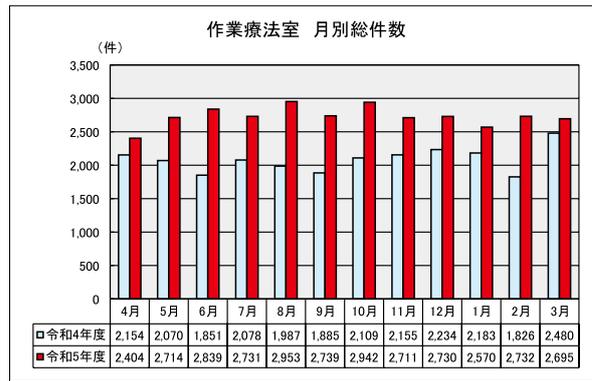


令和5年度 臨床心理室 検査・面接実績件数



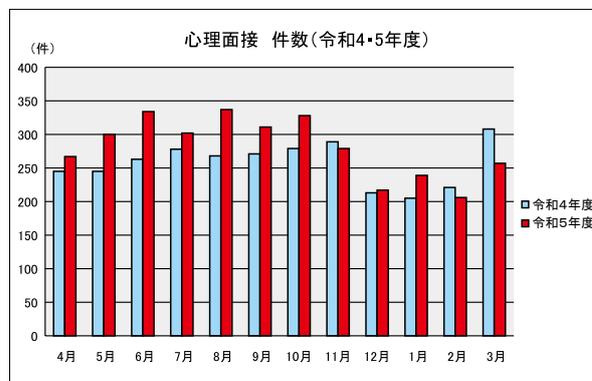
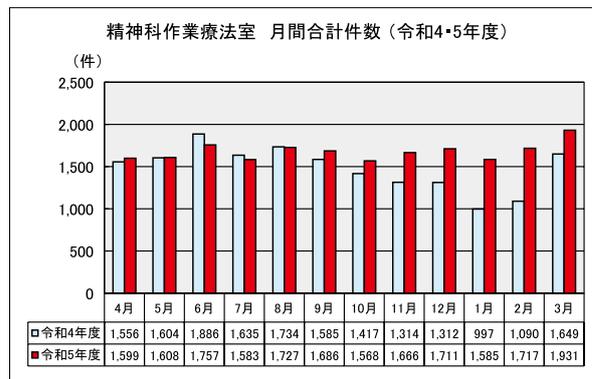
令和5年度

リハビリテーション課 作業療法室 業務実績件数



令和5年度

精神科作業療法室 月間合計件数



令和5年度 臨床工学室 業務実績件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人工呼吸器 5時間を超えた場合(14日目まで)	18	14	8	14	0	0	0	0	0	0	14	17
人工呼吸器 5時間を超えた場合(15日以降)	39	47	45	43	62	60	62	60	86	101	95	126
人工呼吸器(14日まで)	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	1	0
人工呼吸器(15日以降)	0	0	1	0	0	0	8	30	14	0	0	0
経皮的な心肺補助装置(初日)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
経皮的な心肺補助装置(2日目以降)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大動脈内バルーンパンピング法(IABP法)(初日)	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
大動脈内バルーンパンピング法(IABP法)(2日目以降)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
持続緩徐式血液透析ろ過	2	12	0	0	0	1	0	0	3	0	0	6

在宅部

2023(令和5)年度 在宅部業務実績

■ ケアサポートセンターほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度介護保険利用者数(人)	134	142	147	152	155	157	154	158	160	153	152	148	1,812	151
令和4年度介護予防利用者数(人)	6	4	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	42	4
令和5年度介護保険利用者数(人)	165	164	163	163	169	169	177	177	180	179	174	170	2,050	176
令和5年度介護予防利用者数(人)	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	58	5

■ 訪問看護ステーションほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	105	107	118	113	113	116	117	117	120	117	110	114	1,367	684
令和4年度 のべ回数(回)	463	430	557	535	624	590	611	603	649	595	546	656	6,859	3,430
令和5年度 利用者数(人)	115	116	117	120	120	121	122	125	126	131	128	114	1,455	121
令和5年度 のべ回数(回)	574	609	645	596	694	607	657	635	667	657	632	640	7,613	634

■ 訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	51	53	51	54	54	55	52	48	47	48	54	59	626	52
令和4年度 のべ回数(回)	322	353	356	361	382	330	335	326	291	282	316	391	4,045	337
令和5年度 利用者数(人)	59	58	53	52	48	47	42	45	44	40	42	41	571	48
令和5年度 のべ回数(回)	363	388	357	303	320	276	280	282	243	237	256	264	3,569	297

■ ホームヘルパーステーション城西

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	72	71	74	80	77	80	81	83	80	73	72	73	916	76
令和4年度 のべ回数(回)	588	577	598	624	624	548	631	611	607	559	540	598	7,105	592
令和5年度 利用者数(人)	68	70	61	62	63	61	64	65	66	65	66	62	773	64
令和5年度 のべ回数(回)	532	588	516	482	510	507	511	495	531	520	493	473	6,158	513

■ 通所リハビリテーション ゆうゆう

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	55	59	62	71	68	66	66	59	62	61	58	61	748	62
令和4年度 のべ回数(回)	572	586	652	728	729	613	684	612	641	575	574	651	7,617	635
令和5年度 利用者数(人)	61	63	64	64	67	65	67	68	66	67	61	64	777	65
令和5年度 のべ回数(回)	642	678	677	676	681	625	626	665	656	600	448	600	7,574	631

■ デイサービス 赤とんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	17	16	17	18	21	22	23	20	19	16	15	15	219	18
令和4年度 のべ回数(回)	184	190	189	199	190	202	214	201	198	87	157	172	2,183	182
令和5年度 利用者数(人)	19	18	18	17	17	16	18	15	15	15	17	16	201	17
令和5年度 のべ回数(回)	181	176	168	168	145	138	140	135	146	146	173	181	1,897	158

■ デイサービス さくらんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	17	18	18	18	18	18	20	21	19	19	21	20	227	19
令和4年度 のべ回数(回)	220	242	249	238	261	215	248	228	217	128	226	254	2,726	227
令和5年度 利用者数(人)	22	20	19	16	17	19	19	17	15	15	14	16	209	17
令和5年度 のべ回数(回)	225	260	228	193	185	205	211	193	175	177	172	180	2,404	200

■ デイサービス いちご学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和4年度 利用者数(人)	29	30	29	28	28	28	30	30	31	25	24	26	338	28
令和4年度 のべ回数(回)	328	326	332	314	329	305	324	314	197	214	242	288	3,513	293
令和5年度 利用者数(人)	27	26	24	23	25	26	25	23	23	22	22	23	289	24
令和5年度 のべ回数(回)	290	297	273	276	286	295	294	267	252	239	243	244	3,256	271

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

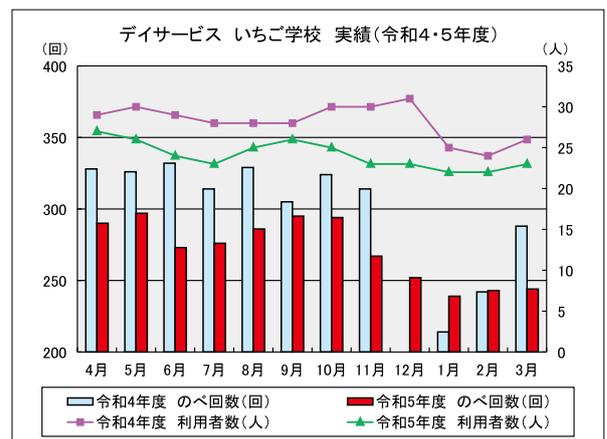
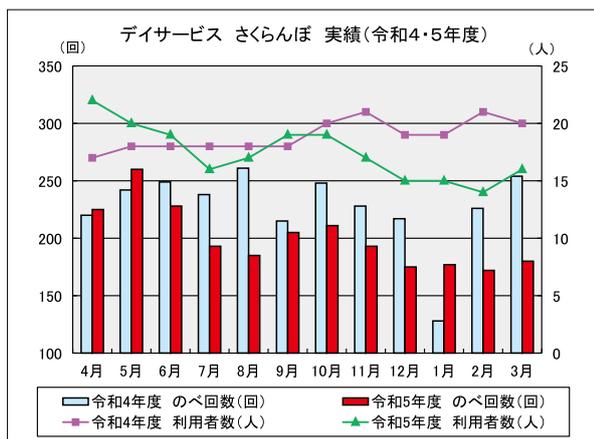
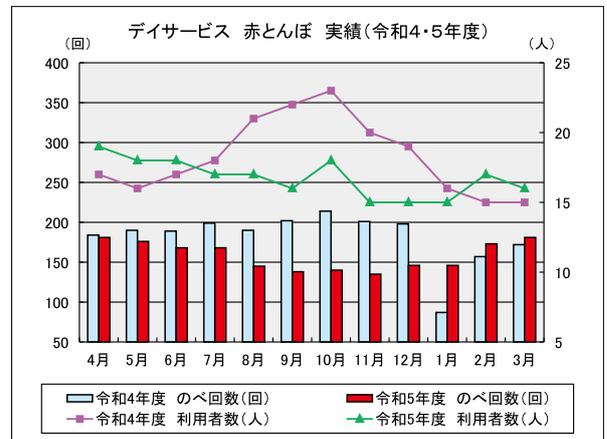
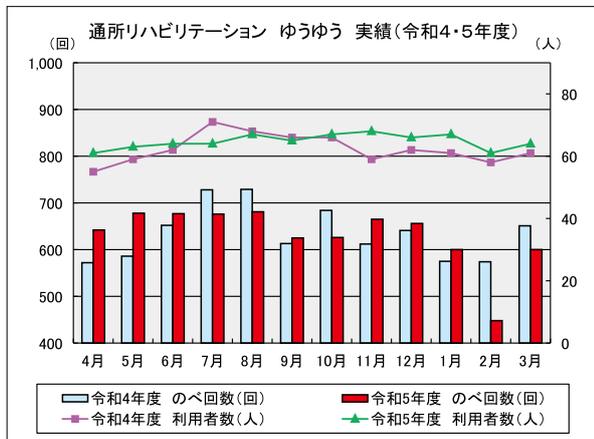
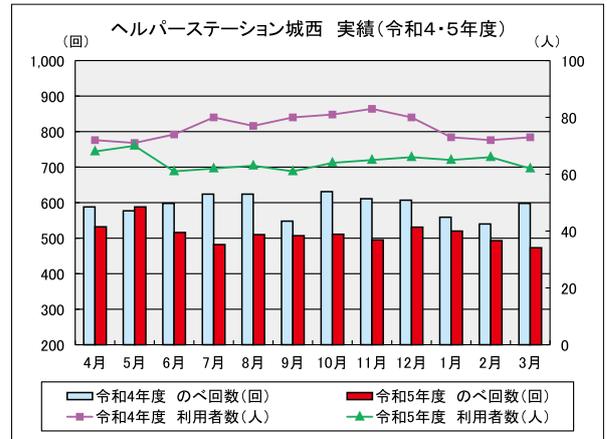
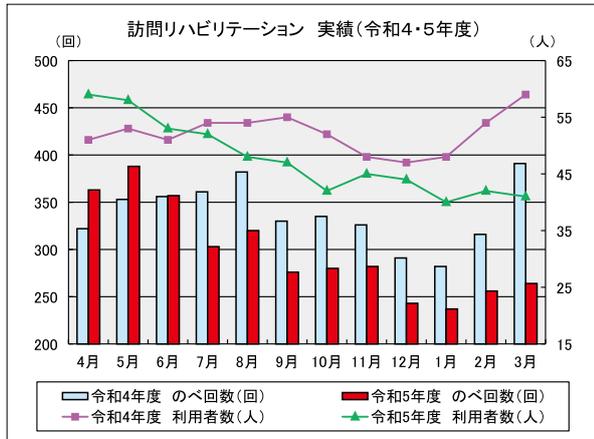
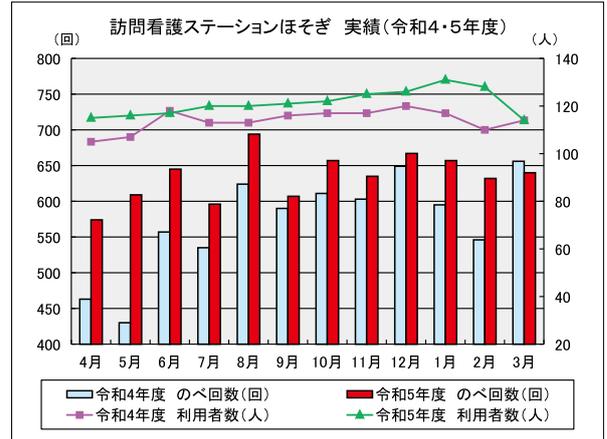
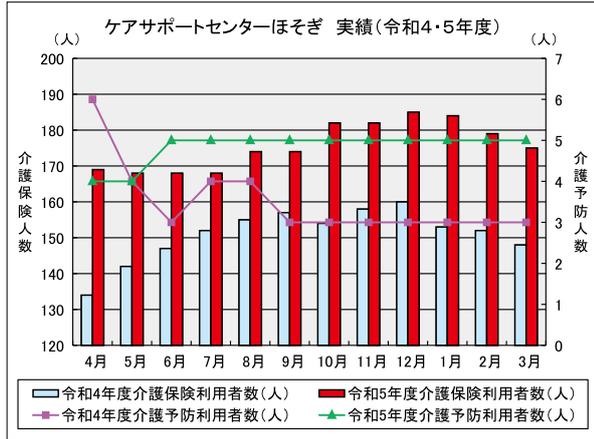
本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

在宅部業務実績 前年度比



細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

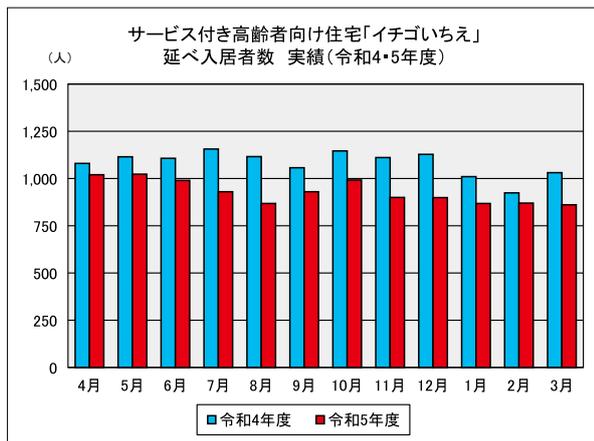
■ グループホーム 入居者の概要 (令和6年3月31日現在)

事業所名	定員	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	男女比		平均年齢
							男性	女性	
西町	9名	2名	1名	2名	1名	2名	0	8	92歳
ハッピー万々	15名	5名	5名	4名	1名	1名	0	16	89歳
赤とんぼ	9名	2名	2名	3名	1名	1名	0	9	87歳
さくらんぼ	18名	8名	3名	3名	4名	1名	1	18	87歳

■ サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ 部屋数:39室

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30.4
延べ入居者数	1,080	1,115	1,107	1,156	1,116	1,057	1,146	1,111	1,128	1,010	924	1,031	1,082
1日平均入居者数	36.0	36.0	36.9	37.3	36.0	35.2	37.0	37.0	36.4	32.6	33.0	33.3	35.6
入居率	92.3%	92.2%	94.6%	95.6%	92.3%	90.3%	94.8%	95.0%	93.3%	83.5%	84.6%	85.3%	91.2%

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	30.5
延べ入居者数	1,016	1,067	1,020	1,029	944	909	990	966	937	949	863	1,018	976
1日平均入居者数	33.9	34.4	34.0	33.2	30.5	30.3	31.9	32.2	30.2	30.6	29.8	32.8	32.0
入居率	86.8%	88.3%	87.2%	85.1%	78.1%	77.7%	81.9%	82.6%	77.5%	78.5%	76.3%	84.2%	82.0%



細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

細木病院 「第6回学術集会 i n 細木」

開催日：2023年10月21日(土)
 開催時間：8時30分～12時30分
 開催場所：細木病院 新館地下 高行記念講堂、オンライン

No	賞	演題名	部門・部署	発表者
1	病院長賞	blow-out型左室自由壁破裂患者を救命できた1例 ～臨床工学士の視点から～	医療技術部 (臨床工学室)	武市 伊代
2	優秀賞	急性心筋梗塞による 左室自由壁破裂を起こしたが救命できた1例	診療部 (初期臨床医)	奥村 健馬
3	優秀賞	看護ケア外来の開設から現状報告	看護部 (外来)	宇原 美香
4	優秀賞	I型糖尿病患者に対する療養支援 ～看護外来での関わりを振り返って～	看護部 (外来)	香川 直子
5	優秀賞	退院時サマリーの退院後14日以内作成率100%と 質的向上を目指して	事務部 (診療情報課)	岡本 七奈
6	優秀賞	病院全体のリモート朝礼 「ほそぎ10分ミーティング」の取り組み(1)	事務部 (人事総務課)	尾原 団

10月21日、「第6回学術集会 i n 細木」が新館地下講堂とオンライン(ハイブリッド形式)で開催されました。第5回学術集会 i n 細木(令和2年度)は開催中止となったため、3年ぶりの開催となり、当日は、約130名(会場40名、オンライン90名)の職員の参加がありました。過去の学術集会は、診療部、看護部、医療技術部、薬剤部、在宅部、事務部から各1題の発表でしたが、今回からはその制限もなく24題にまで増加し、日頃の取り組みや学会発表した内容を職員で共有できました。座長は、副院長2名と部長医師2名が務め、優秀演題の選考は、座長(担当したセッションのみ)と4名の部門長が行い、選考基準に従い採点し、各セッションごとの1位と各セッションでの2位の中から点数の高い2演題、合計6演題の中から院長が1演題を選び院長賞とし、5演題を優秀賞としました。選考中の時間を活用して、今後の発表の参考になる動画「パワーポイントを使った研究発表の方法」を視聴しまし

た。今回、病院長賞に選ばれたのは、医療技術部臨床工学室の武市伊代さんによる「blow-out型左室自由壁破裂患者を救命できた1例～臨床工学士の視点から～」でした。最後に、細木院長から、「幅広い分野の話が聞け、病院の理解が深まった。多くの職員に支えられて細木病院が成り立っている。職員同士の相互理解にもなった」と、講評され、学術集会を準備をした職員への感謝が述べられました。



病院長賞に選ばれた臨床工学室武市さん



大勢の受講者でにぎわう会場



受賞者全員で記念撮影
(文責：看護部長 岡崎 千佐子)

細木病院 コミュニケーション講座の開催

職場におけるコミュニケーションは良好な人間関係の構築、業務の効率化などに不可欠である。職員一人ひとりがコミュニケーション能力を高めることで、職場環境の改善、医療の質と安全性の向上にもつながる。そこで、職員研修の新たな取り組みとして、全職員を対象としたコミュニケーション講座（以下、講座）を開催した。

開催は平日勤務時間外にハイブリッド方式（1回30分）で行い、参加は自由とした。講演は録画し、後日、YouTubeで動画配信（職員限定）を行った。テーマは、コミュニケーションの重要性、基本スキル（観察力・傾聴力・伝える力・承認力など）、コーチング、報連相、職場コミュニケーション、アンガーマネジメント、アサーションとし、講師は看護部、薬剤部、医療技術部、事務部、在宅部の管理監督職17名が務めた。全講座の終了後、参加者に対して評価に関する職員アンケート調査を行った。

講座は令和5年9月～令和6年3月にかけて全17

回開催した。参加人数は平均43名／回であったが、YouTubeの全視聴回数は2,400回を超えた。職員アンケート調査（回答者210名）では、講座の開催は「とても良い」と「やや良い」の合計が84%と高く、YouTubeでの動画配信も両者の合計が81%と高かった。講師選定や講座内容の評価では、「とても良い」と「やや良い」の合計が82%以上であった。意識の向上や行動変容につながったテーマは「傾聴力」、「伝える力」、「報連相」、「重要性」の順に多かった。研修の継続性に関しては90%以上が必要と回答した。自由記述では「講師の経験を踏まえた講義は貴重で興味を持って聞けた」「多職種の管理監督職の人柄・考え方・思いなどを知る機会にもなった」などの意見が寄せられた。

今回、多職種の管理監督職が講師を務めるコミュニケーション講座を、6カ月間にわたって全17回開催し、後日、YouTubeで動画配信したことで、院内におけるコミュニケーションへの関心は高まり、職員の学びや気づきのきっかけになったと考える。

令和5年度 細木病院 コミュニケーション講座

No	月日	テーマ	講師	
1	10月4日（水）	コミュニケーションの重要性（1）～看護師の立場から～	看護部	山村真智子
2	10月11日（水）	社内（職場）コミュニケーション（1）～フレームワークで考える業務コミュニケーション～	事務部	門田 紘和
3	10月19日（木）	コミュニケーションの重要性（2）～私自身の苦い経験を踏まえて～	薬剤部	田中 照夫
4	11月9日（木）	コミュニケーションの基本（1）（傾聴力）～職員が意見を出しやすい環境づくり～	栄養管理室	橋本 由佳
5	11月22日（水）	コミュニケーションの基本（2）（報連相）～ほうれんそうのおひたし ビジネス野菜とれてますか？～	在宅部	井上加奈子
6	11月30日（木）	コミュニケーションの基本（3）（伝える力を磨く）～事務部長として大切にしてきたこと～	仁生会本部	宮地耕一郎
7	12月6日（水）	社内（職場）コミュニケーション（2）～コミュニケーションの基本姿勢～	看護部	岡崎千佐子
8	12月20日（水）	アサーション～自分も相手も大切に自己表現～	看護部	川田 留美

令和5年1月～3月

No	月日	テーマ	講師	
9	1月10日（水）	コーチング～自己コーチングと自分らしいキャリアストーリー～	入退院サポートセンター	柏井早生吏
10	1月17日（水）	アンガーマネジメント～イライラと上手に付き合うヒント～	看護部	坂本 優果
11	1月23日（火）	社内（職場）コミュニケーション（3）～「タイプ分け」を知って上手にアプローチ～	薬剤部	小松めぐみ
12	2月7日（水）	コミュニケーションの基本（4）相手に伝わるコミュニケーション～信頼関係を築くために～	仁生会本部	平尾 俊和
13	2月14日（水）	コミュニケーションの基本（5）～相手の気持ちを聞くこと～	人事総務部	濱田 洋子
14	2月29日（木）	社内（職場）コミュニケーション（4）～離職を防ぐために職場で出来ること～	リハビリテーション課	藤本 弘昭
15	3月13日（水）	コミュニケーションの基本（7）（承認力）～あなたは承認していますか、されていますか～	看護部	堀田 美幸
16	3月21日（木）	コミュニケーションの重要性（3）～臨床心理士の立場から～	臨床心理室	池田 貴美
17	3月29日（金）	コミュニケーションの基本（6）（観察力）～アートで観察力を鍛える～	看護部	中平 真紀

（文責：研修委員会委員長 田中 照夫）

■ 診療部

循環器内科 (ほそぎハートセンター)

□ 誌上発表 (論文・著作・寄稿)

1. 細木信吾:「高知でも顔の見える地域チーム医療医を」、西部循環器プライマリーケアの集い 40年の歩み、P.11、2023年6月
2. 古川敦子:「胸痛患者のトリアージとしての心エコーを活用する」、月刊心エコー Vol.25 No. 3 P.228-235、2024年3月
3. Atsuyuki Mitsuishi, Yujiro Miura, Atsuko Furukawa, Keisuke Yoshida, Yukiko Fukunaga. Surgical removal of multiple left ventricular thrombi with video-assisted cardioscopy: a case report. Eur Heart J Case Rep. 2023; 7 (11): 1 - 5.
4. 細木信吾:「細木病院」、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科同門会誌 心、P.143、2023年12月

□ 学会・研究会

1. ○山本哲史:「紹介患者さんの報告」、こうち循環器アライアンス、高知市、2023年5月25日、7月7日、9月21日、11月22日、2024年3月21日
2. ○細木信吾:「細木病院の経営について」、しおかぜカンファレンス、松山市、2023年5月26日
3. ○細木信吾:「SGLT 2 阻害薬と大きく変わる心不全診療」、SGLT 2 阻害薬セミナー、高知市、2023年6月1日
4. ○細木信吾:「やさしい心不全の急性期対応」、T&N・DNオンラインカンファレンス、Web、2023年8月24日
5. ○細木信吾:「心不全パンデミックを考えた高血圧治療戦略」、ARNI PRIDE Seminar、Web、2023年8月31日
6. ○細木信吾:「私がAzurionにこだわるワケ」、Act! by Philips in Miyazaki、宮崎市、2023年9月29日
7. ○細木信吾:「細木病院 院長1年を振り返って」、第13回倉敷ゆかりの循環器研究会、倉敷市、2023年9月30日
8. ○細木信吾:「Hands-on NSE APERTA」、中四国ライブin倉敷、倉敷市、2024年2月24日

□ 講演 (講習会を含む)

1. 古川敦子:「増える心エコー検査の依頼~施設のニーズに応じた対応を考える」、第28回SKY研究会、高松市、2023年6月8日
2. 細木信吾:「人は血管とともに老いる」、日高村講演会、高知県日高村、2024年3月11日

□ 講義 (講師、院外研修指導者含む)

1. 山本哲史:ノバルティスファーマ、2023年5月23日
2. 古川敦子:「やさしい心エコー」、ナースのためのやさしい循環器セミナー第4回、高知市、2023年5月31日
3. 古川敦子:「人は血管とともに老いる」、まっこと出前講座、高知市、2023年6月13日
4. 山本哲史:興和株式会社、2023年12月12日、2024年2月9日
5. 山本哲史:第一三共株式会社、2024年2月13日

□ 座 長

1. 古川敦子:「心房細動」、第34回日本心エコー図学会学術集会、岐阜市、2023年4月21日
2. 細木信吾:「セッションD・地域連携3」、日本医療マネージメント学会高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日
3. 細木信吾:「PCI (複雑病変)」、CVIT2023中国四国地方会、岡山市、2023年9月2日
4. 細木信吾:「Live Demonstration# 3」、四国お遍路ライブ、高知市、2023年10月14日
5. 細木信吾:「Live Demonstration 2 - 4」、仙台PTCAネットワークライブ、Web、2023年11月11日
6. 細木信吾:MSDの会、2023年11月17日
7. 細木信吾:「救命できた急性心筋梗塞後blow out型心破裂の1例」、第123回日本循環器学会四国地方会、高松市、2023年12月2日
8. 古川敦子:「学生・研修医セッション3 心不全/全身疾患」、第123回日本循環器学会四国地方会、高松市、2023年12月2日
9. 細木信吾:「CoroFlowを活用した狭心症の包括的診断と治療」、The First Step in CMD @ Okayama、Web、2023年12月12日
10. 細木信吾:「CTO LIVE」、中四国ライブin倉敷、倉敷市、2024年2月23日
11. 山本哲史:KOWA WEB カンファレンス、2024年3月1日

12. 古川敦子：「Echo/Doppler」、第88回日本循環器学会学術集会、神戸市、2024年3月10日
13. 細木信吾：「当院でのDebulking+DCB治療」、Sequent Please NEO Conference、Web、2024年3月14日

□ コメンテーター

1. 細木信吾：「CTO PCIの現状」、CVIT2023、第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、福岡市、2023年8月4日
2. 細木信吾：「Young CTO Experts Live」、YES LIVE 5、Web、2023年9月16日

□ コースディレクター・術者

1. 細木信吾：DCA Live Course in KOCHI、細木病院、高知市、2023年5月19日

□ 術者

1. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、西条市、2023年5月26日
2. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、岡山市、2023年6月2日
3. 細木信吾：みなみ野循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2023年6月17日
4. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、福山市、2023年7月21日
5. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、福山市、2023年9月15日
6. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、福山市、2023年10月13日
7. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、西条市、2023年10月27日
8. 細木信吾：みなみ野循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2023年11月18日
9. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、岡山市、2023年11月24日
10. 細木信吾：みなみ野循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2023年12月9日
11. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、西条市、2023年12月22日
12. 細木信吾：みなみ野循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2024年1月6日
13. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、岡山市、2024年1月12日
14. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、福山市、2024年1月19日
15. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、津山市、2024年2月2日
16. 細木信吾：YES foundation継子プロジェクト、今治市、2024年2月16日
17. 細木信吾：TERUMO Web Live Seminar、細木病院、高知市、2024年3月23日
18. 細木信吾：愛媛県立今治病院PCI CTOワークショップ、今治市、2024年3月29日

□ その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 細木信吾：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科同門会関連病院部長会、循環器内科同門会、岡山市、2023年6月24日
2. 細木信吾：「2023年度 第16回定時代議員総会」、日本心血管インターベンション治療学会代議員、2023年8月3日
3. 古川敦子：月刊心エコー Editorial Consultant

呼吸器内科

□ 講演（講習会を含む）

1. 小林 誠：「喘息の分子病態とバイオ製剤の使用経験－実地医家の視点－」、重症喘息WEB講演会 GSK－重症喘息の意義と好酸球正常化の重要性－、高知市、2023年9月27日
2. 小林 誠：「喘息の基礎病態に基づく Single Inhaler Triple Therapy」、テリルジーWEB講演会 高知Autum「トータルコントロールを目指した喘息治療の潮流とは」、高知市、2023年10月24日

糖尿病・内分泌内科

□ 学会・研究会

1. ○篠原雅幸、熊谷千鶴、丸山博、山川晴吾、北岡和雄、西岡達矢：「偏食と日光暴露忌避によりビタミンD欠乏性骨軟化症を来した一例」、第47回高知県内分泌代謝研究会、高知県内分泌代謝研究会 日本内分泌学会四国支部 第一三共、高知市、2023年11月15日

□ 講演（講習会を含む）

1. 篠原雅幸：「当院における糖尿病合併高血圧治療の進め方」、ノバルティスファーマ／大塚製薬 ARNI Symposium～糖尿病・高血圧を考える～、高知市、2023年6月19日
2. 西岡達矢：「糖尿病診療－最近の話題－」、循環器糖尿病セミナー、高知市、2023年11月17日
3. 篠原雅幸：「糖尿病合併高血圧患者の治療方法」、ノバルティスファーマ／大塚製薬 世界腎臓デーに降圧治療を考える、高知市、2024年3月11日

□ 座 長

1. 篠原雅幸：「内科医のための不眠症セミナー」、高知鏡川病院 川田誠一、エーザイ・ジャパン、高知市、2023年9月12日
2. （総司会）西岡達矢：第47回高知県内分泌代謝研究会、高知市、2023年11月15日

小児科

□ シンポジウム

1. 新井淳一：トランジションと「中国四国小児・思春期糖尿病治療座談会」、日本糖尿病学会中国四国地方会第61回総会（小児思春期シンポジウム）、松江市、2023年10月28日

□ 学会・研究会

1. 菊地広朗、荒木まり子、西本由佳、齊藤志穂、大島雅之、細川卓利、新井淳一、藤枝幹也：「診断に苦慮したインスリノーマの1例」、第126回日本小児科学会学術集会、東京、2023年4月16日
2. ○中岡祐子、島崎真弓、堂野純孝、細川卓利：「両親の不仲がある家族にFamily based treatment for adolescent anorexia nervosa (FBT) を行った神経性やせ症 (AN) の1例」、第105回日本小児科学会高知地方会、高知市、2024年2月25日

□ 講演（講習会を含む）

1. 新井淳一：「小児の肥満 158例の体重コントロールについて」、高知大学医学部小児思春期医学定例会、高知市、2023年11月9日

□ 座 長

1. 新井淳一：「Proud of Person with Diabetes」、手納医院 院長 手納 信一、第62回高知県糖尿病談話会、高知市、2023年11月17日

□ その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 細川卓利：日本小児神経学会評議員、社会活動委員
2. 細川卓利：高知県ギルバーク発達神経精神医学センター研究員

外 科

□ 学会・研究会

1. ○尾崎信三：「植皮併用病変切除を施行した局所進行および局所再発乳癌の4例」、第48回日本臨床外科学会高知県支部会、高知市、2023年2月4日
2. ○尾崎信三、上地一平：「精神疾患を有する乳癌手術症例の臨床的検討」、第31回日本乳癌学会学術総会、横浜市、2023年7月1日
3. ○尾崎信三、中村衣世、上地一平：「術後11年目に大腸転移を来した浸潤性小葉癌の1例」、第20回日本乳癌学会中国四国地方会、広島大学、広島市、2023年9月22日
4. ○中村衣世、尾崎信三、上地一平、安藝史典：「術前LH-RHアゴニスト投与で縮小した乳房腫瘍の1例」、第20回日本乳癌学会中国四国地方会、広島大学、広島市、2023年9月22日
5. ○中村衣世、尾崎信三、上地一平：「当院で経験したNuck管水腫の1例」、第49回日本臨床外科学会高知県支部会、細木病院外科上地一平、細木病院、高知市、2023年10月14日

□ 座 長

1. 尾崎信三：「一般演題2」、近森病院 消化器外科 濱田雄一郎他、第48回日本臨床外科学会 高知県支部会、高知市、2023年2月4日

□ その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 上地一平：第49回日本臨床外科学会高知県支部会当番幹事、細木病院、高知市、2023年10月14日

放射線科

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 耕崎志乃：「中枢神経・頭頸部の画像診断」、高知大学医学部医学科、高知大学岡豊キャンパス（南国市）、2023年10月30日（90分）

皮膚科・形成外科

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. ○野田理香：「油脂が血管壁や細胞膜にどのような影響を与えるのか」、統合医療実践グループ スームセミナー、2023年6月29日

麻酔科

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 畠中豊人：中央高等学校 専攻科課程 1年生 病態学Ⅰ（消化器）病態学Ⅱ（脳神経）、9月28日～1月14日 毎週木曜日、1回90分 11回（11日間）

■ 看護部

□ 学会・研究会

1. ○堀田美幸：「100床以上の慢性期病院と混合型病院に勤務する看護師の職務満足度の構造」、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日
2. ○宇原美香：「看護ケア外来立ち上げから現状報告」、第19回医療マネジメント学会、高知市、2023年8月27日
3. ○中平真紀：「医療療養病棟における仕事の要求度と必要な資源の違い～看護職と介護職を比較して～」、第19回日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日
4. ○中平真紀：「医療療養病棟に勤務する看護職と介護職のワーク・エンゲイジメントの実態」、第18回高知大学看護学会、南国市、2023年11月11日
5. ○堀田美幸：「100床以上の慢性期病院と混合型病院に勤務する看護師に行う看護師長からの支援の構造」、第43回日本看護科学学会学術集会、山口県海峡メッセ下関、2023年12月9日
6. ○中平真紀：「医療療養病棟に勤務する看護職と介護職の仕事の要求度と必要な資源の構造」、第43回日本看護科学学会学術集会、下関市、2023年12月9日
7. ○堀田美幸：「細木病院看護部のワークライフバランス推進」、ワークライフバランス推進フォローアップワークショップ公開講座、高知県看護協会、高知市、2024年2月9日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 岡崎千佐子：認定看護管理者ファーストレベル研修統合演習アドバイザー、2023年8月18日～20日
2. 香川直子：「フットケア」「糖尿病ミニ講座」、まっこと出前講座 講師、高知市、合計4回
3. 山本香代：「骨粗鬆症について」、まっこと出前講座 講師、高知市、合計5回
4. 荻島美奈子：「今を元気に生きよう 心リハ」、まっこと出前講座 講師、高知市
5. 宇原美香：「がんと共に生きる」、まっこと出前講座、高知市

□ その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 岡崎千佐子：高知県看護協会（看護師職能委員会委員）、2023年4月1日～2024年3月31日
2. 岡崎千佐子：高知学園理事・評議員、2023年4月1日～2024年3月31日

■ 薬剤部

□ 学会・研究会

1. ○小松めぐみ、田中照夫：「持参薬使用日数制限の評価ー与薬業務の軽減化とインシデントの減少ー」、第25回日本医療マネジメント学会学術総会、神奈川県横浜市、2023年6月23日
2. ○尾原 団¹⁾、田中照夫²⁾、宮地耕一郎³⁾、細木信吾⁴⁾（人事総務部¹⁾、薬剤部²⁾、本部³⁾、診療部⁴⁾）：「病

院全体のリモート朝礼「ほそぎ10分ミーティング」の取組み（1）」、第25回日本医療マネジメント学会学術総会、神奈川県横浜市、2023年6月23日

3. ○田中照夫¹⁾、尾原 団²⁾、宮地耕一郎³⁾、細木信吾⁴⁾(薬剤部¹⁾、人事総務部²⁾、本部³⁾、診療部⁴⁾):「病院全体のリモート朝礼「ほそぎ10分ミーティング」の取組み（2）－職員の評価－」、第25回日本医療マネジメント学会学術総会、神奈川県横浜市、2023年6月23日
4. ○大石美沙子、岩村貴紗、川竹麻由、山本紗世、渡辺朱里、田中実奈、田所美和、市吉真貴子、八木亜紀子、小松めぐみ、田中照夫:「化学療法への薬剤師の介入と「連携充実加算」の算定～中規模病院での薬薬連携の取組み～」、第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会、高知市、2023年10月28日
5. ○渡辺朱里¹⁾、山本紗世¹⁾、西村奈保²⁾、田中実奈¹⁾、田所美和¹⁾、市吉真貴子¹⁾、八木亜紀子¹⁾、小松めぐみ¹⁾、田中照夫¹⁾(細木病院薬剤部¹⁾、上町病院薬局²⁾):「心不全チームにおける薬剤師の取組み～初回問診票の作成と有用性～」、第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会、高知市、2023年10月28日

□座 長

1. 小松めぐみ:「一般演題12 チーム医療」、第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会、高知市、2023年10月28日

□表 彰

1. 大石美沙子:「細木病院職員表彰」、細木病院、高知市、2023年12月

□その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 田中照夫:日本医療マネジメント学会薬事委員会委員
2. 田中照夫:(公社)高知県薬剤師会監事
3. 田中照夫:高知県病院薬剤師会監事
4. 小松めぐみ:高知県病院薬剤師会常務理事

■ 医療技術部

栄養管理室

□学会・研究会

1. ○北川美里、高橋あい、橋本由佳:「入院から外来に繋げた栄養指導継続中の事例」、令和5年度外来栄養食事指導推進事業 事例検討会、高知市、2023年12月2日

□座 長

1. 橋本由佳:「まずはここから始めよう 研究と症例発表のキホン」、近森病院 宮島 功、第3回高知県食と栄養の会研修会、高知市、2023年12月14日

□その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 橋本由佳:公益社団法人 高知県栄養士会、常務理事、2022～2023年度
2. 橋本由佳:高知県食と栄養の会、理事、2023～2024年度
3. 前田光代:高知NST研究会、運営委員、2023年度
4. 森光友哉:高知県食と栄養の会、編集委員、2023～2024年度

リハビリテーション課

□誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 川村立:「自閉症スペクトラムの呼名への振り向き課題」、リハビリテーションと応用行動分析学第10巻 P. 9-13、2023年1月

□学会・研究会

1. ○川村立:「自己刺激を強化子として活用した無発語ASD児との関わり～関係性の構築と言語行動への介入～」、第24回日本言語聴覚学会inえひめ、一般社団法人愛媛言語聴覚士会、松山市、2023年6月24日

2. ○寺岡優、楠瀬さやか、下川龍太：「職員提案から始まった地域包括ケア病棟の働き方改革～コロナ対応で見えてきた働き方の多様化と早出勤務の必要性～」、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会、高知市、2023年8月27日
 3. ○野口耕造：「当院急性期病棟における言語聴覚士の早出勤務導入に向けた取り組み～現場スタッフの意見を交えながら実施した業務改善の経験～」、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会、高知市、2023年8月27日
 4. ○成瀬信夫、小林由季、横山美和：「当院維持期リハビリスタッフの働き方に対する検討」第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会、高知市、2023年8月27日
 5. ○松田智博、宮崎和：「教育入院開始時に運動を拒否した患者を経験して」、第47回高知糖尿病チーム医療研修会、高知県糖尿病チーム医療研修会、高知市、2023年11月18日
 6. ○寺岡優、島津平、杉本由吏伽：「生涯学習制度の改定は当院職員の研鑽意識に影響を与えたのかー制度改定前後での研修参加状況の比較ー」、第51回四国理学療法士学会、公共社団法人日本理学療法士協会四国理学療法士会、高知市、2023年11月25日
 7. ○小野川ちひろ、橋田寿恵：「自立支援に繋がった事例報告」、令和5年度高知市訪問型サービスC事業実践報告会、高知市基幹型地域包括支援センター、高知市、2023年12月12日
 8. ○井上直樹：「橈骨神経麻痺に対し食事・排泄動作の自立を目指した一症例」、現職者共通研修会事例発表・事例検討会、高知県作業療法士会、Web開催、2024年2月8日
 9. ○山下真依：「病棟と連携し認知症のある患者の「その人らしさ」を尊重し介入した症例」、現職者共通研修会事例発表・事例検討会、高知県作業療法士会、Web開催、2024年2月8日
 10. ○中澤海斗：「脳卒中片麻痺患者に対する歩行能力向上に向けたアプローチの経験～足圧中心に着目して～」、第37回高知県理学療法学会、公益社団法人高知県理学療法士協会、高知市、2024年3月24日
- 講演（講習会を含む）
1. 筒井佳代：「口の話」、細木病院まっことねっと細木、高知市、2023年6月2日
 2. 小林由季：「脳血管年齢と認知症」、高知県作業療法士協会、高知市、2023年10月14日
 3. 川村立：「高知言友会の効果と吃音の基礎知識」、高知言友会、高知市、2023年11月26日
 4. 氏原玲子：「筋トレと認知症予防」、高知県作業療法士協会、高知市、2024年2月10日
- 講義（講師、院外研修指導者含む）
1. 野口耕造：「臨床現場から見る評価実習に必要なこと」非常勤講師、土佐リハビリテーションカレッジ、高知市、2023年9月27日
 2. 野口耕造：「疾患によって生じる障害とその評価および予後予測」日本理学療法士協会、Web開催、2023年12月17日
- 座 長
1. 川村立：「一般演題 第二群」、愛宕病院 松村竜勢他、第26回高知県言語聴覚学会、高知市、2024年3月2日
 2. 藤本弘昭：「一般演題 内部障害系・神経系」、近森病院 田中健太郎他、第37回高知県理学療法学会、高知市、2024年3月24日
 3. 森下将多：「一般演題 生活環境支援系」、三愛病院 田島一樹他、第37回高知県理学療法学会、高知市、2024年3月24日
- その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）
1. 藤本弘昭：令和5年度地域ケア会議アドバイザー、2023年4月1日～2024年3月31日
 2. 小林由季：令和5年度地域ケア会議アドバイザー、2023年4月1日～2024年3月31日
 3. 藤本弘昭：高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会運営委員、2023年4月1日～2024年3月31日
 4. 氏原玲子：高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会運営委員、2023年4月1日～2024年3月31日
 5. 山本光穂：高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会運営委員、2023年4月1日～2024年3月31日
 6. 野口耕造：高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会運営委員、2023年4月1日～2023年4月30日
 7. 寺岡優：高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会運営委員、2023年5月1日～2024年3月31日
 8. 藤本弘昭：高知県呼吸リハビリテーション・セミナー世話人、2023年4月1日～2024年3月31日
 9. 横山美和：高知県呼吸リハビリテーション・セミナー世話人、2023年4月1日～2024年3月31日

10. 楠瀬さやか：高知県呼吸リハビリテーション・セミナー世話人、2023年4月1日～2024年3月31日
11. 野口耕造：高知県理学療法士協会教育部員、2023年4月1日～2024年3月31日
12. 田村智恵子：高知県作業療法士会災害リハ委員、2023年4月1日～2024年3月31日
13. 小林由季：高知県作業療法士会地域連携部員、2023年4月1日～2024年3月31日
14. 氏原玲子：高知県作業療法士会地域連携部員、2023年4月1日～2024年3月31日
15. 中嶋萌：高知県作業療法士会広報戦略部員、2023年4月1日～2024年3月31日
16. 福原樹乃：高知県作業療法士会広報戦略部員、2023年4月1日～2024年3月31日
17. 山本光穂：高知県言語聴覚士会理事、2023年4月1日～2024年3月31日
18. 野口耕造：高知県糖尿病チーム医療研修会世話人、2023年4月1日～2024年3月31日
19. 宮崎和：高知県糖尿病チーム医療研修会世話人、2023年4月1日～2024年3月31日
20. 山崎宣侑：高知中・高等学校野球部メディカルチェックスタッフ、2023年4月1日～2024年3月31日
21. 川村立：高知言友会会長、2023年11月16日～2024年3月31日
22. 上池浩一：日本スポーツ理学療法学会役員、2024年2月1日～2024年3月31日

臨床心理室

□学会・研究会

1. ○柳井奈実子、池田貴美、米本竜太郎、高橋幸子：「社会生活上の問題を抱える発達障害圏の方へのアプローチ～心理士の取り得る役割から～」、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日

□講演（講習会を含む）

1. 米本竜太郎：「ストレスとの上手な付き合い方」、細木病院まっことネット細木、日高村、2023年5月23日、2024年1月24日
2. 池田貴美：「繊細な特性を持つ子どもへの対応」、丸の内高校研修会、高知市、2023年6月9日
3. 米本竜太郎：「ストレスとの上手な付き合い方」、細木病院まっことネット細木、高知市、2023年8月29日、9月27日、10月11日
4. 米本竜太郎：「ストレスとの上手な付き合い方」、細木病院まっことネット細木、東津野村、2023年11月14日
5. 池田貴美：「認知行動療法について」、江の口特別支援学校研修会、高知市、2023年12月8日

臨床工学室

□学会・研究会

1. ○金本雄泰：「循環器内科領域における臨床工学技士の役割」、第19回医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日

歯科衛生室

□学会・研究会

1. ○内平真実：「統合失調症患者の保清に行動変容があった一例」、第19回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日
2. ○内平真実：「統合失調症患者の保清に行動変容があった一例」、第17回高知県歯科衛生士会研究発表会、高知市、2024年3月10日

□講演（講習会を含む）

1. ○内平真実：「お口の話～楽しい食事と体の健康を保つために～」、細木病院まっこと出前講座、高知市、2023年8月31日
2. ○内平真実：「お口の話～楽しい食事と体の健康を保つために～」、細木病院まっこと出前講座、高知市、2023年10月25日

■ 事務部

事務部長

- その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）
1. 中嶋光宏：高知県精神科病院事務長 役員

人事総務課

□ 学会・研究会

1. ○尾原 団¹⁾、田中照夫²⁾、宮地耕一郎³⁾、細木信吾⁴⁾(人事総務部¹⁾、薬剤部²⁾、本部³⁾、診療部⁴⁾):「病院全体のリモート朝礼「ほそぎ10分ミーティング」の取組み(1)」、第25回日本医療マネジメント学会学術総会、神奈川県横浜市、2023年6月23日

臨床支援課

□ 学会・研究会

1. ○野村香苗、井上悠、門田美紀:「心機能障害に関する診断書の効率的な作成に向けて」、第12回日本医師事務作業補助者協会全国学術集会、日本医師事務作業補助者協会、大阪市、2023年10月28日

□ 座 長

1. 門田美紀:「組織作り」、岩手県立中央病院 吉田朗他、第12回日本医師事務作業補助者協会全国学術集会、大阪市、2023年10月28日

□ 取 材

1. 門田美紀:「医療の質向上に貢献 他職種との連携にまい進」、最新医療経営PHASE 3 (vol. 473・P. 56)、2023年12月

□ その他(行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等)

1. 門田美紀: NPO法人 日本医師事務作業補助者協会 理事

■ ほそぎ入退院サポートセンター**患者サポート室**

□ 講演(講習会を含む)

1. 柏井早生吏:「入退院支援事業細木病院の取組み」、入退院支援事業「看護管理者研修」高知県立大学、高知市、2023年7月4日
2. 柏井早生吏:「看護サマリの書き方」、高知県看護協会、高知市、2024年9月13日
3. 柏井早生吏:「入退院支援事業事例のフィードバックについて」、入退院支援事業「大交流会」高知県立大学、高知市、2023年12月12日
4. 柏井早生吏:「可視化シート使用した事例展開とその評価について」、入退院支援事業「入退院支援事業報告会」、高知市、2024年3月15日

□ 講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 西森侑代:「MHSW(メンタルヘルスソーシャルワーカー)について」講師、高知県立大学、高知市、2024年1月27日
2. 杉本知香:「令和5年度高知県地域移行・地域定着支援関係者研修 地域移行支援の実際」講師、高知県、高知市、2024年2月26日

□ その他(行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等)

1. 佐々木美知子: 高知県医療ソーシャルワーカー協会 理事
2. 永田恭子: 高知県医療ソーシャルワーカー協会 理事
3. 稲田とし子: 高知県医療ソーシャルワーカー協会 理事
4. 坂本万理: 高知県精神保健福祉士協会 理事

■ 在宅部**訪問看護ステーションほそぎ**

□ 学会・研究会

1. ○酒井祐樹、堀川真由美、谷脇貴美子、井上加奈子:「精神科訪問看護における入退院支援～統合失調症をもつ高齢者利用者への関わりを通して～」、第28回日本在宅ケア学会学術集会、大阪府吹田市、2023年11月11日

高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター

□ 学会・研究会

1. ○中居江美、筒井千津子、吉竹恵子、廣田淳也、井上加奈子、廣井三紀：「地域包括支援センターにおける虐待防止に関する活動の振り返りと今後の課題」、日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会、高知市、2023年8月27日
2. ○筒井千津子、吉竹恵子、廣田淳也、川村美華、中居江美：「孤立して生きる中、地域とのつながりを生み出すための働きかけ」、細木病院学術集会、2023年10月21日
3. ○中居江美、筒井千津子、吉竹恵子、廣田淳也、井上加奈子、廣井三紀：「地域包括支援センターにおける虐待防止に関する活動の振り返りと今後の課題」、細木病院学術集会、2023年10月21日

□ 講演（講習会を含む）

1. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、帯屋町 カフェ「サードプレイス すろー」、高知市、2023年5月18日（1日）
2. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、大津ふれあいセンター、高知市、2023年5月25日（1日）
3. 廣田淳也：「まっこと出前講座 体力測定と個別指導」、帯屋町 カフェ「サードプレイス すろー」、高知市、2023年6月15日（1日）
4. 廣田淳也、筒井千津子：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操・脱水予防」、八反町団地集会所、高知市、2023年6月22日（1日）
5. 廣田淳也、筒井千津子：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操・脱水予防」、新屋敷 個人提供宅、高知市、2023年7月25日（1日）
6. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操・体力測定と個別指導」、小高坂市民会館、高知市、2023年9月8日（1日）
7. 廣田淳也：「まっこと出前講座 フレイルと予防」、高知大神宮社務所、高知市、2023年10月10日（1日）
8. 廣田淳也：「まっこと出前講座 体力測定と個別指導」、高知大神宮社務所、高知市、2023年10月24日（1日）
9. 廣田淳也：「まっこと出前講座 認知症予防と運動療法」、高知街社協会館、高知市、2023年11月4日（1日）
10. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、高知大神宮社務所、高知市、2023年11月7日（1日）
11. 廣田淳也：「まっこと出前講座 認知症予防と運動療法」、高知大神宮社務所、高知市、2023年11月14日（1日）
12. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、高知街社協会館、高知市、2023年12月2日（1日）
13. 廣田淳也、筒井千津子、吉竹恵子、中居江美：「認知症サポーター養成講座」、高知福祉専門学校、高知市、2022年12月15日（1日）
14. 廣田淳也：「まっこと出前講座 体力測定と個別指導」、帯屋町 カフェ「サードプレイス すろー」、高知市、2024年1月11日（1日）
15. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、高知街社協会館、高知市、2024年1月13日（1日）
16. 廣田淳也：「まっこと出前講座 認知症予防と運動療法」、八反町団地集会所、高知市、2024年1月25日（1日）
17. 廣田淳也、川村美華、中居江美：「認知症サポーター養成講座」、高知ヤクルト販売所、高知市、2024年2月20日（1日）
18. 廣田淳也：「まっこと出前講座 今日からできる転倒予防体操」、新屋敷 個人提供宅、高知市、2024年2月27日（1日）
19. 廣田淳也：「まっこと出前講座 体力測定と個別指導」、小高坂市民会館、高知市、2024年3月1日（1日）
20. 廣田淳也：「まっこと出前講座 体力測定と個別指導」、高知街社協会館、高知市、2023年3月9日（1日）

□ その他（行政や学会の理事や事務局長等の役員や選考委員等）

1. 廣井三紀：四国老人福祉学会 理事

依頼元名	延べ人数
診療部 (内科)	
高知大学医学部医学科 (6年生)	4
高知大学医学部医学科 (5年生)	5
(小児科)	
社会医療法人近森会 近森病院	4
高知大学医学部医学科 (6年生)	3
高知大学医学部医学科 (5年生)	3
(精神科)	
独立行政法人国立病院機構 高知病院	1
合計	20
看護部	
高知開成専門学校	59
中央高等学校 小児実習 (専攻科1年生)	24
高知学園短期大学 精神実習 (3年生)	71
高知学園短期大学 老年実習 (3年生)	278
高知県立大学看護学部 統合実習 (4回生)	106
高知県立大学看護学部 精神実習 (3回生)	56
穴吹医療大学校 (成人看護学)	6
穴吹医療大学校 (精神看護学)	17
穴吹医療大学校 (老年看護学)	6
穴吹医療大学校 (統合)	6
穴吹医療大学校 (基礎看護学)	4
近森病院附属看護学校 (2年生)	14
龍馬看護ふくし専門学校	90
合計	737
医療技術部 (栄養管理室)	
高知学園大学健康科学部管理栄養学科 (3年生)	8
美作大学生活科学部食物学科 (3年生)	4
(リハビリテーション課 理学療法室)	
徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科 (4年次生)	1
吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 (4年生)	1
岡山医療専門職大学 健康科学部 理学療法学科 (3年生)	1
専門学校 健祥会学園 理学療法学科 (3年生)	1
川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 (4年生)	1
人間総合科学大学 理学療法専攻 (4年次生)	1
高知医療学院 理学療法学科 (第3学年生)	1
高知医療学院 理学療法学科 (第2学年生)	2
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 (4年次生)	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 (3年次生)	1

依頼元名	延べ人数
医療技術部 (リハビリテーション課 理学療法室)	
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 (2年次生)	1
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科 (4年次生)	2
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科 (2年次生)	1
(リハビリテーション課 作業療法室)	
土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 (2年次生)	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 (3年次生)	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 (2年次生)	2
(リハビリテーション課 言語療法室)	
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚専攻 (4年次生)	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚専攻 (2年次生)	1
(精神科作業療法室)	
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 (4年次生)	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 (3年次生)	2
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 (2年次生)	2
土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 (4年次生)	3
土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 (2年次生)	1
合計	42
ほそぎ入退院サポートセンター (患者サポート室)	
聖徳大学通信教育部 (4回生)	1
高知県立大学社会福祉学部 (2回生)	1
高知県立大学社会福祉学部 (3回生)	2
高知県立大学社会福祉学部 (4回生)	2
合計	6
在宅部	
公益社団法人高知県看護協会 (高知県内看護師)	4
(訪問看護ステーションほそぎ)	
高知中央高等学校 看護学科専攻科課程 (2年生)	4
(グループホーム)	
高知大学医学部看護学科 (3回生) (オンライン)	63

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

依 頼 元 名	延べ人数
在 宅 部 (デイサービス・デイケア)	
高知学園短期大学 (3回生)	13
(高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター)	
高知開成専門学校 (3年生)	3
近森病院附属看護学校 (2年生)	4
龍馬看護ふくし専門学校 (3年生)	2
(精神障がい者グループホーム)	
高知県立大学 社会福祉学部 (4回生)	1
(ヘルパーステーション城西)	
高知福祉専門学校 (2年生)	2
(ケアサポートセンターほそぎ)	
高知県介護支援専門員 実務研修	1
合 計	97
細木病院総計	902

細木病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会